

HERB.



Triphragmium.	2	2			1	1			1
Pucciniostele.	1	1							
Gymnoconia,	2	1							
Aecidium.	14	6	3		1	1			3
Caeoma.	2	2	1		1				
Uredo.	1	1							
	135	105	26	28	60	49	18	19	38
計	161	128	33	33	70	55	19	22	48

VII. FUNGI IMPERFECTI. 不完全菌類

本類に屬するものは其性質上子囊菌類の分生孢子時代と見るべきものにしてたゞその子囊時代不明なるを以て此等を一括して本類に收めたるものなるが故に其菌の生活史研究せらるゝに従ひて本類の整理行はるゝものなり従つて其分類法の如きも全く人爲的にして其孢子の形ち及び色によりて次の如く分つ。

Amerosporae. 孢子單胞にして星狀螺旋狀乃至絲狀をなさず。

Didymosporae. 孢子は二胞よりなる。

Phragmosporae. 孢子は三胞以上よりなり横膜のみを有す。

Dictyosporae. 孢子は三胞以上よりなり横膜及び縦膜を有す。

Scolecosporeae. 孢子は針狀絲狀をなし横膜あり。

Helicosporae. 孢子は螺旋狀をなし横膜あり。

Staurosporeae. 孢子は星狀又は謝狀をなし横膜あり。

而して其無色なるを Hyalosporae, 有色なるを Phaeosporae と云ふ
本類は其形態によりて次の四族に大別せらる。

1. 孢子を缺く Mycelia sterilia. 菌絲族
- 孢子を有す 2.

2. 胞子は擬護膜内に生ず Sphaeropsidales. 擬球殼菌族
菌は擬護膜を缺く 3.
3. 菌絲は子坐様組織中に入る Melanconiales. 黒粉菌族
菌絲は表生なり Moniliales. 念球狀菌族

s. Sphaeropsidales. 擬球殼菌族

本族のものは其分生胞子の子囊菌族の子囊殼に類する擬殼内に生じ此擬殼は寄主組織内に存することありまたは其組織外に形成せらるゝことありて孔口を有するあり之れ缺くものありて其葉に寄生するものは種々の斑點病の病原菌となりまた果實を犯して腐敗病を起さしめ枝幹に生じて腐爛病を起さしむる等農業上觀過すべからざるもの多し、本族は更に次の四科に分たる。

1. 擬殼は球狀又は球狀に近き形ちをなす 2.
擬殼は球型狀外の形ちをなす 3.
2. 擬殼は膜質、革質又は炭質にして黑色を呈す Sphaerioidaceae.
..... 擬球殼菌科
擬殼は肉質乃至蠟質にして淡色 Nectriaceae
3. 擬殼は多少楕形をなし黑色 Leptostromataceae.
擬殼は壺狀又は皿狀をなし黑色 Excipulaceae.

(1) Sphaerioidaceae. 擬球殼菌科

擬殼は球形卵形乃至稍棍棒狀にして膜質革質又は炭質、黑色或は黒褐色、孔口を有し寄主植物の組織中に埋沒せらるゝか又は外生なることあり子坐を有するものと否とあり分生胞子は形ち色等種々にして更に十亞科に分たれ約五十屬を含む滿洲にて發見せられたるもの次の如し。

(い) *Sphaerioidaceae-Amerosporae-Hyalosporae.*

属 檢 索 表

1. 子坐を缺く 2.
 子坐を有す 5.
2. 擔子柄は樹枝狀に分岐す *Dendrophoma*.
 擔子柄はは單一なり 3.
3. 胞子は 15 [ミクロン] 以上の大さを有す *Macrophoma*.
 胞子は 15 [ミクロン] 以下の大さなり 4.
4. 葉に寄生す *Phyllosticta*.
 葉以外にも寄生す *Phoma*.
5. 擬球殻は子坐中に單生す 6.
 子坐中に多くの擬球殻を生ず 7.
6. 分生胞子に二型を有す *Phomopsis*.
 分生胞子は一型なり *Plenodomus*.
7. 分生胞子は卵形又は橢圓形 *Dothiorella*.
 分生胞子は棒狀にして灣曲す *Cytospora*.

***Phyllosticta* Persoon.**

擬殻は膜質球形にして寄主組織内に埋没せられ一方に開口する
 か又は短嘴を以て外部に開き分生胞子は小にして卵形又は橢圓形
 をなし長徑 15 [ミクロン] に達せず單胞にして無色又は淡綠色、擔子
 柄は甚だ短かきか又は之れを缺く葉に寄生するものにして世界に
 約八百種ありと稱せられ其或者は *Guignardia*, *Valsonectria*, *Mycosph-*
aerella の分生胞子時代として知られ滿洲には二十六種を見る。



Digitized by the Internet Archive
in 2025

279. *Phyllosticta sorghina* Sacc. in *Michelia* 1, 140, 1879; in *Syll.* 3, 61, 1884; Allescher, in *Rabh. Krypt.* 6, 164, 1901; K. Hara, in *Fg. eastern Asia*, 34, 1928;

寄主及産地		<i>Panicum miliaceum</i> L.	キビ	葉
熊岳城	大正十五年九月		原	攝祐
		<i>Andropogon Sorghum, vulgaris, japonicus</i>	カウリアン	葉
公主嶺	大正七年九月十日		三浦密成	
公主嶺	大正十年九月十三日		三浦密成	
熊岳城	大正十五年九月		原	攝祐

布分 歐洲, 滿洲.

事記 本菌は高粱の葉を犯し其被害部は赤紅色部を以て健全部と明らかに境せらる, 其分布は歐洲及び滿洲のみに知られたるも之れ其調査不完全の結果なるべく恐らく本寄主の栽培せらるゝ地方には世界到る處之れを發見し得べし.

280. *Phyllosticta populea* Sacc. in *Michel.* 1, 135, 1879; in *Syll.* 3, 33, 1884; Diedicke, in *Krypt.* Brand 9, 80, 1912; Allescher, in *Rabh. Krypt.* 6, 64, 1901; Oudemans, in *Enum.* 2, 46, 1920:

寄主及産地		<i>Populus laurifolia</i> Ledeb.	テリハドロ	葉
熊岳城	大正七年九月十六日		三浦密成	
鳳凰山	大正十年十月十六日		三浦密成	

分布 歐洲, 滿洲.

記事 本菌に犯されたる葉は早く落葉するを以て將來滿洲に於てドロ類の造林をなす場合には本病菌に對する點も考慮せざるべからず被害部の上面は不規則なる斑點となり始め黒褐色なるも遂

には白色となり縁邊は暗色帯を以て健全部と堺せられ普通孤生するも時に二個以上互に接することあり孤立の場合は被害斑點の直徑五[ミメ]位あり此白色斑點部に小黑點を散在す其直徑 $80-100\mu$ ありて孔口を有す胞子の大きさ $3-4 \times 1\mu$ ありて兩端に各一個の油滴を有す。

281. *Phyllosticta bellunensis* Mart. in Nuov. Giorn. bot. Ital.

395, 1888; Sacc. Syll. 10, 117, 1892; Allescher, in Rabh. Krypt.

6, 93, 1901; Diedicke, in Krypt. Brand. 9, 103, 1912;

Syn. *Phyllosticta allantospora* (non Ell. et Ev.) Hara, in Fg. east.

Asia, 55, 1928;

寄主及產地 *Alnus japonica* S. et Z. ハンノキ 葉

湯崗子 大正七年九月十三日 三浦密成

熊岳城 大正八年九月二十日 三浦密成

分布 歐洲, 滿洲。

記事 本菌被害部は大にして直至二[ミ]に達するものあり擬殼の直徑 $70-100\mu$ に達し胞子は $4-5 \times 0.81\mu$ の大きさあり。

原攝祐氏は其著東亞菌類誌三十五頁に *Phyllosticta allantospora* Ell. et Ev. なる菌を湯崗子に於てハンノキの一種の葉上に採れりと報ぜるが同菌は北米に於て十字科植物の一種 *Cakile americana* の葉上に生ずるものにして今 Ellis & Everhart の原記載と原氏の記載とを比較し見るに此兩者を同一菌と見る能はざる點あり余は原氏の菌は本種なるべしと信ず、而して Diedicke 氏によれば其大なる變色せる部分は本菌の爲めに生ずるに非ずして *Mycosphaerella Ulmi* Klebahn 菌の爲めに生ずるものなりと言へり。

- 282. *Phyllosticta ulmicola* Sacc.** in Mich. 1. 158. 1879; in Syll. 3. 33. 1884; Allescher, in Rabh. 6. 92, 1901; Diedicke, in Krypt. Brand. 9. 104. 1912; K. Hara, in Fg. Eastern Asia. 36. 1928;

寄主及産地	<i>Ulmus macrocarpa</i> Hee.	テフセンニシ	葉
吉林	大正七年八月十八日		三浦密成
	<i>Ulmus pumila</i> L.	ノニシ	葉
湯崗子	大正七年九月十三日		三浦密成
熊岳城	大正八年九月二十日		三浦密成
	<i>Ulmus japonica</i> Sargent.	ハルニシ	葉
湯崗子	大正十五年九月		原 攝祐

分布 歐洲、滿洲

記事 本菌は秋季滿洲に於てニシ類の葉に普通見るものにして其被害部は淡褐色或は白色を呈し擬殻は葉の上面に出で直經 70-90 μ 胞子は無色乃至帶オリーブ色にして 5-6 \times 2-3 μ あり原氏の採集せる菌は擬殻を葉の裏面に生じ斑點は暗褐色にして擬殻の直經 60-100 μ 胞子の大き 3-5 \times 2-2.5 μ とあり擬殻の發生場所並に被害部の色本菌と一致せざる點ありと雖も余は之れを検するの機なきを以て暫く原氏の菌も本種と同一のものとなし後日の研究に譲る。

283. *Phyllosticta Fagopyri* Miura, n. sp.

Spots circular in general, at first brown, then turn to gray from its centre, margined by brown colored line, and from the circumference of this border, it is circulated by greenish gray colored part, 2-5 mm. diameter; pycnidia epiphyllous, minute, scattered, immersed without astiole, sphaeroidal, blackish, 35-40 μ in diameter; spores

ovate or wide ellipsoidal, hyaline, without oil drops, rounded at both ends, $4-5 \times 3-3.5 \mu$.

寄主及産地 *Fagopyrum esculentum* Moench. ソバ 葉

公主嶺 大正十一年八月二十一日 三浦密成

分布 満洲。

記事 本菌は満洲にて始めて發見せるものにして余は寡聞にして未だ本菌類が本寄主を犯すを聞かず故に之れを新種となす、被害大ならず。

284. *Phyllosticta Polygoni-Bungeanae* M. Miura, n. sp.

Spots circular or elliptical, scattered or confluent, 3-5 mm. across, brown, limited from the surrounded healthy part without any remarkable line; pycnidia amphigenous, minute, globose with a short ostiole, brown, 55-85 μ in diameter; spores ellipsoidal, hyaline, rounded at both ends with an oil drop near them, $5-7 \times 3.6 \mu$.

寄主及産地 *Polygonum Bungeanum* Turcz. ハリタデ 葉

公主嶺 大正十年八月二日 三浦密成

分布 満洲, 日本?。

記事 本種は *Phyllosticta Polygonorum* Sacc. 及び *Phyllosticta NIELIANA* Roum. と比較するに其胞子大にして擬殻小なるを以て直ちに區別するを得べく *Ph. Tokutaroi* Speg. と比するに擬殻小なるのみならず被害部の狀並に擔子柄短かき點等異なるを以て新種と認め上記の學名を附せり而して *Ph. Tokutaroi* 菌は東京にて伊藤篤太郎氏が *Polygonum multiflorum*, (ツルドクダミ)の葉上に得たるものなり。

285. *Phyllosticta rumicicola* M. Miura, n. sp.

Spots circular or elliptical, rarely irregular, scattered, sometimes confluent, at first brown, with age grayish color concentrically expanded from its centre, somewhat thinner than that of the healthy parts, margined with dark line or without the margination, 2-4 m.m. across; pycnidia epiphyllous, minute, globose, black, scattered on the discolored part, imbedded with ostiole, 55-80 μ in diameter; spores oblong, rounded at both ends, hyaline, with one oil drop near the each end, 6-7.5 \times 3-3.5 μ .

寄主及産地 *Rumex acetosa* L. ギンギン 葉

公主嶺 大正七年六月廿六日 三浦密成

公主嶺 大正十年七月八日 三浦密成

橋頭 大正七年六月三十日 三浦密成

Rumex crispus F. et H. ナガバギンギン 葉

大榆樹 大正六年六月四日 宮部憲次

分布 滿洲, 日本(?)。

記事 本菌は *Phyllosticta acetosa* Sacc. と比較するに其孢子大にして *Phyll. straminella* Bresadola よりも孢子小形なるを以て直ちに此兩者と區別するを得べく而して後者は恐らく *Macrophoma* に入るものなるべし。

286. *Phyllosticta Chenopodii* Sacc. in Mich. 1, 150 1879; in Syll.

3, 55, 1884; Allescher, in Rahb. Krypt. 6, 111, 1901; Oudemans, in Enum. 2, 1036, 1920;

寄主及産地 *Chenopodium album* L. アカザ 葉

公主嶺

大正十年八月三日

三浦密成

分布 歐洲, 日本, 滿洲.

記事 本菌は *Phyllosticta ambrosioides* Thümen に近きも胞子の幅廣きを以て直ちに區別し得べく本菌に犯されたる寄主は早く落葉し八月中旬には單に其莖のみを残すに至るを以て此雜草を驅除するには大なる効果あるものの如し.

287. *Phyllosticta Mali* Pril. et Delac. in Bull. Soc. Myc. Fr. 180, 1890; Sacc. Syll. 10, 109, 1892; Allescher. in Rabh. Krypt. 6, 66, 1901;

寄主及產地 *Malus domestica* Borkh.

リンゴ

葉

熊岳城 大正七年九月廿七日

三浦密成

旅順 大正七年九月廿二日

三浦密成

湯崗子 大正十五年九月

原 攝祐

大連 昭和二年十月三日

三浦密成

分布 歐洲, 米國, 滿洲.

記事 本菌が莖樹の葉を犯すときは被害部は始め褐色をなすも後白色を呈し落葉を早む其擬殻の直經一七〇[ミクロン]に達するものあり胞子も $6-9 \times 4-5\mu$ の大さあり後に述ぶる *Sphaeropsis Malorum* 菌と共に見らるゝこと少なからず.

288. *Phyllosticta pirina* Sacc. in Mich. l, 134, 1879; in Syll. 3, 7, 1884; Corbett, in West Virginia Tec. Bull. No. 66, 202, 1900; Allescher, in Rabh. Krypt. 6, 65, 1901; Stewart and Eustace, in New York Ag. ex. st. Bull. 220, 1902; Longyear, in Fruit dis.

Mich. 1904; Sorauer, in Lehrb. 2, 398, 1908; Duggar, in Fg. dis. pl. 347, & 352, 1909; Crabill, in Ann. Rpt. Va. Polytech. Inst. Ag. ex. St. 1911-2, 95-115, 1913; Diedicke, in Krypt. Brand. 9, 77, 1912; Stevens, in Fg. w.c. pl. dis. 485, 1913; Oudemans, in Enum. 3, 451, 1921; K. Hara, in Fg. Eastern Asia, 37, 1923;

寄主及産地	<i>Malus domestica</i> Borkh.	リンゴ	梨
大石橋	大正八年九月廿六日		三浦密成
營口	大正八年九月廿六日		三浦密成
蓋平	大正八年九月廿七日		三浦密成
得利寺	大正八年九月二十九日		三浦密成
熊岳城	大正八年九月三十日		三浦密成
旅順	大正八年十月四日		三浦密成
大連	大正八年十月五日		三浦密成
金州	大正十年九月七日		三浦密成
熊岳城	大正十年十月十二日		渡邊柳藏
湯崗子	大正十五年九月		原 攝祐
大連	昭和二年十月		三浦密成

分布 歐洲, 米國, 日本, 朝鮮, 滿洲,

記事 本菌の華樹葉を犯したる場合は“Brown spot”(斑點病として知られしものにして Alwood 氏始めて之れを研究し Corbett 氏も同一結論を得たるに一方に於て Hartly 氏は其然らざるを説き Scott, Rorer, Brooks, Lewis 等は *Sphaeropsis Malorum* 菌によりて死し變色したる部に死屍寄生として現はるゝものなりとせり然れども余は接種試験に成功せり而して本菌を朝鮮にて採集せしことあり其被害部の上面は褐色乃至灰褐色にして全く灰色をなすことあり

り圓形にして帶紫褐色帶を以て健全部と堺せられ孤立することあり相接することありて直徑 1-5 m.m. に達す、擬殼は葉の上面に生じ球形、黑色にして未熟のものは $45-65\mu$ の直徑あるに過ぎざるも成熟せるものは直徑 150μ に達するものあり胞子は卵形又は橢圓形にして無色、 $5-6 \times 2-3\mu$ の大さあり。

之れを前種と比するに共によく似たるも被害部に紫褐色帶あると胞子の小なるによりて區別するを得滿洲にては本菌は最も普通に見られ六月上旬既に其發生を見ることがありて落葉を早め華樹栽培に對する被害大なる病害の一なり。

289. *Phyllosticta turnanensis* Miura, n. sp.

Syn. *Phyllosticta minutissima* Kab. et Bub. in Oesterr. Bot. Zeitschr. 2, 1904; Sacc. Syll. 18, 229, 1906; Oudemans, in Enum. 3 769, 1921;

寄主及產地 *Malus domestica* Borkh. リンゴ 葉

得利寺 大正八年九月二十九日 三浦密成

分布 歐洲、朝鮮、滿洲。

記事 本菌は Kabát 氏が Bohemia の Turnan にて採集せる *Prunus spinosa* 上の菌を新種となし *Phyllosticta minutissima* Kob. et Bub. として發表せるものなるも *Phyll. minutissima* なる學名は既に Ellis & Everhart 兩氏によりて北米に産する *Acer glabrum* 葉上の菌に用ゐられたるを以て之れが變更を必要とするに至れるが故に其原標本採集地の名を記念せんため上記の學名に改めたるものにして余は之れを朝鮮大邱にて大正八年十月十九日採集せり。

本菌の被害は滿洲に於ては前者の如く大ならず今大邱にて得た

る菌によりて手記せるものを次に述べんに “Spots large, circular, elliptical or irregular, grayish or grayish brown color on the upper side, deep brown on the corresponding under side, 0.3–3 c.m. across, bordered with deep brown colored part; pycnidia epiphyllous, minute, imbedded with a short ostiole, globose to depressed globose, scattered, 30–40 μ in diam.; spores oblong and bacteria-like, rounded at both ends, hyaline, 3.4 \times 0.8–1.5 μ .

290. *Phyllosticta crataegicola* Sacc. in Syll. 3. 6. 1884; Allescher, in Rabh. Krypt. 6. 35, 1901; Oudemans, in Enum. 3, 413. 1921;
寄主及産地 *Crataegus pinnatifida*, typica Schneid.

オホサンザシ 葉

吉 林 大正十二年九月十九日 三浦密成

分布 歐洲, 滿洲。

記事 本菌は Spegazini 氏が *Phyllosticta Crataegi* と稱せしものにして被害斑點は圓形にして灰色健全部との堺明瞭にして擬殼は 60–80 μ の直徑あり胞子も甚だ小形にして 2.5–3 \times 1.5 μ の大さあるに過ぎず前種と能く似たり然れども其異同は接種試験を経るに非れば決定し能はず。

291. *Phyllosticta phaseolina* Sacc. in Mich. 1, 149, 1879; in Syll. 3. 41, 1884; Kirchner, in Pflanzenkr. 425, 1890; Allescher, in Robh. Krypt. 6, 137, 1901; Stevens, in Fg. w. c. pl. dis. 487, 1913; Diedicke, in Krypt. Brand. 9, 75, 1912; Oudemans, in Enum. 3, 965, 1921; Migula, in Thome's Fl. Deutsch. Krypt. III. 4, 51, 1921;

Syn. *Phyllosticta Phaseolorum* Sacc. et Speg. in Sacc. Syll. 3, 41, 1884 ;

寄主及産地 *Phaseolus vulgaris* L. インゲンマメ 葉
 公主嶺 大正十年七月二十八日 三浦密成
分布 歐洲, 北米, 日本, 滿洲。

記事 本菌はインゲンマメの葉を犯して斑點病を起さしむるものにして時に其被害大なることありて日本にては半澤洵氏之れを北海道札幌附近にて發見せり余の檢したる菌の擬設は其直径 60-70 μ , 胞子の大きさ $5 \times 2.5 \mu$ ありて全く本菌のものに一致するも其胞子は帶綠色なる點は *Phyll. Phaseolorum* のものに似たり今 *Phyll. Phaseolorum* 菌の記載を見るに其擬設の大きさ 100-130 μ 胞子の大きさ $5.7 \times 3-4 \mu$ ありて余の檢したる菌よりも大なるが Saccardo 氏が其胞子の色を *chlorino-olivaceis* と記し且つ *Phyll. phaseolina* 菌の充分發育せるものに非ずやとせるが余も此の説の正しきを信ず從つて *Phyllosticta Phaseolorum* Sacc. et Speg. 菌は本菌の同種異名として取扱ふを正當なりと思惟す。

292. *Phyllosticta Azukiae* M. Miura, n. sp.

Spots large, irregular in shape, often half of the leaf becomes brown, limited by a darker line from the healthy part, 2-5 c.m. in diameter; pycnidia epiphyllous, scattered or gregarious, small, sphaerical to depressed sphaerical with a short ostiole, subimmersed, 100-140 μ across, black; spores oblong, ovate-oblong, rounded at both ends, hyaline, oil drops invisible, $5.7 \times 3-36 \mu$.

寄主及産地 *Azukia typica* Miura. ヤエナリ 葉

公主嶺 大正八年八月七日

三浦密成

公主嶺 大正九年八月五日

三浦密成

分布 満洲

記事 本寄主は支那にては綠豆と稱し七月下旬頃より本菌に犯され被害葉は其甚だしき場合は殆んどその半ば以上も變色することありて斯かる場合には勿論早く落葉し従つて損害も亦大なるものあり菌の形態は前種に似て擬殻少しく大なるも其被害の状況全く之れと異なるが故に接種試験によりて其異同を決定するまでは暫く之れを新種となし置くを便利と考へ上記の學名を附せり

Brasil に於て *Phaseolus* の一種の葉上に付たる菌を以て Allescher 氏は *Phyllosticta Noackiana* なる新種を創定せるが其記載不完全にして吾人は之れと比較するを得ざるも其擬殻は小にして葉の上面に生じ胞子は無色にして $4.6 \times 2 \mu$ の大きさありと之れによりて考ふるに此菌の胞子は幅狭くして本菌よりも寧ろ *Ph. phaseolina* Sacc. 菌に近きものに非ずやと思はる

293. *Phyllosticta robiniella* M. Miura, n. sp.

Spots circular or wide elliptical, scattered but rarely confluent, brown, restricted with a darker line from the healthy part, 1-3 mm diameter, pyrenidia epiphyllous, minute, scattered or somewhat circularly arranged, black when observed by unaided eye, but brown when surched under a microscope, subimmersed with a short ostiole, globose, about 100μ across; spores fusiform, rarely long-ellipsoidal, generally pointed at both ends, rarely rounded, hyaline with one oil drop on each end, $10-12 \times 3.4 \mu$.

寄主及産地 Robinia Pseudoacacia L. ハリエンジュ 葉

金州南山 大正十年九月七日

三浦密成

分布 満洲

記事 本菌に犯されたる被害部は獨り葉のみならず其幼枝の節間非常に伸長し葉は薄くなりて大形となり色も淡色にして恰かも軟化せる如き觀を呈するが故に秋季遠方よりも之れを認むることを得。

從來本寄主を犯す *Phyllosticta* 菌としては *Ph. Robiniae* Sacc., *Phyll. Pseudoacaciae* Pass., *Ph. robinicola* Hollos., *Phyll. advena* Pass. 及び *Phyll. neomexicana* Kabát et Bubák. の五種なるが前きの三種は其孢子小形なるが故に直ちに本菌と區別するを得べく *Phyll. advena* Pass. 菌に關しては Allescher 氏は其擬殻は廓大鏡を以てするも僅かに其存在を認め得るに過ぎざる程小形なりとし Diedicke 氏は“其擬殻は孔口を有せず直徑 $50-55\mu$ あり”となし孢子の大きさを $5-8 \times 2-3\mu$ とし Passerini 氏は $8-12 \times 3\mu$ となせり故に吾人の菌は *Phyll. advena* とも異なるものにして *Phyll. neomexicana* 菌と比するに同菌の擬殻は葉の下面に生じ大さ $60-160\mu$ あり孢子は $3.5-4.5 \times 1.5-2\mu$ の大さありて兩端圓みを帶ぶるが故に吾人の菌とは比較するまでもなく別種なること明らかなり斯くて遂に本菌に一致するものなきを以て之れを新種となせり。

294. *Phyllosticta Negundinis* Sacc. et Speg. in Mich. 1, 620, 1879;

Sacc. Syll. 3.13, 1884; Allescher, in Robh. Krypt. 6, 17, 1901;

Diedicke, in Krypt. Brand. 9, 16, 1912; Migula, in Thome's Fl.

Deutsch. Krypt. III. 4, 6, 1921; Oudemans, in Enum. 3, 1188, 1921;

寄主及産地 *Acer Negundo* L. トネリコバノカヘデ 葉
 公主嶺 大正十一年十月九日 三浦密成
 公主嶺 大正十三年十月十二日 三浦密成
 分布 歐洲, 滿洲。

記事 余の檢せる本菌は原記載と比するに被害部の色白色を呈すると胞子少しく大にして原記載には胞子の大きさ $5-7 \times 3-4 \mu$ とあるに余の菌にては $7-10 \times 3-4.5 \mu$ ありて少しく長く從つて其形も前者は楕圓形なるに吾人のものは長楕圓形なるも其他に重要な異點を認めざるを以て上記菌と鑑定せり被害大ならず。

295. *Phyllosticta platanoides* Sacc. in Mich. 1, 360, 1879; in Syll. 3, 3, 1884; Allescher, in Rabh. Krypt. 6, 16, 1901; Diedicke, in Krypt. Brand. 9, 17, 1912; Oudemans, in Enum. 3, 1172, 1921; K. Togashi and N. Hiratsuka, in Trans. Sapp. Ag. & Forest. Soc. 16, No. 68, 1124;

寄主及産地 *Acer Lobelii* Ten. var. *platanoides* Miyabe.
 マンシウイタヤ 葉
 吉林 大正十二年九月十九日 三浦密成
 分布 歐洲, 日本, 滿洲。

296. *Phyllosticta rhamnicola* Desm. in Sacc. Syll. 3, 14, 1884; Allescher, in Rabh. Krypt. 6, 77, 1901; Diedicke, in Krypt. Brand. 9, 87, 1912; Migula, in Thome's Fl. Deutsch. Krypt. III. 4, 29, 1921; Oudemans, in Enum. 3, 1252, 1921;

Syn. *Depazea rhamnicola* Lasch.

寄主及産地 *Rhamnus davuricus* Pall. クロツバラ 葉
 吉 林 大正十二年九月十九日 三浦密成
 分布 歐洲, 滿洲。

297. *Phyllosticta Vogelii* (Syd.) Diedicke, in Krypt. Brand. 9, 895,
 1915;

Syn. *Glucosporium Vogelii* Sydow, in Ann. Myc. 3, 233;

寄主及産地 *Tilia amurensis* Kom. アムールシナノキ 葉
 厚鳳山 大正十年十月十六日 三浦密成
 分布 歐洲, 滿洲。

記事 本菌は落葉せるものに發見せるものにして斑點は葉脈の爲めに多少角張り暗褐色をなし直經一ミ、メ、に達するもの稀なり擬殼は褐色にして大さ $70-90 \times 60-72 \mu$ あり胞子の大きさ $3-6 \times 1-1.5 \mu$ に過ぎず其原標本は獨逸に於て Vogel 氏が *Tilia ulmifolia* の葉上に採れるものなり。

298. *Phyllosticta Acanthopanaxis* Sydow, in Ann. Myc. 11, 115,
 1913;

寄主及産地 *Acanthopanax sessiliflorus* Seem.
 マンシウウコギ 葉
 吉 林 大正十二年九月十八日 三浦密成
 分布 日本, 滿洲。

記事 本菌の原標本は余が曾て青森縣に於てセンノキの葉上に採集せるものにして本寄主は學界に最初のものに屬し滿洲は第二の産地たり。

299. *Phyllosticta Physaleos* Sacc. in Mich. 1, 150, 1879; in Syll. 3, 48, 1884; Allescher, in Rabh. Krypt. 6, 138, 1901; Diedicke, in Krypt. Brand. 9, 76, 1912; Migula, in Thome's Fl. Deutsch. Krypt. III. 4, 51, 1921; Oudemans, in Enum. 4, 628, 1923;

寄主及産地 *Physalis Alkekengi* L.

ホボヅキ

葉

公主嶺

大正十年八月二十日

三浦密成

分布 歐洲, 滿洲.

記事 吾人の標本は原記載と多少異なる處あり余の手記を見るに "The spot in our specimen is grayish white in color instead of yellowish in the original description, and these spots are roundish or elliptical in outline with dark, elevated line, with which the descolored part is clearly limited from the surrounded healthy part and thinner; pycnidium is minute, solitary and scattered, from 1 to 5 in number on one spot, and generally epiphyllous, the shape is globose with a short ostiole, brown, 90-100 μ in diameter; spores wide ellipsoidal or ovate without oil drop, rounded at both ends, hyaline, 5-6, $5 \times 2.5-3.5 \mu$." 之れによれば其被害點は原記載によれば乾燥標本は帶黃色にして褐色の縁邊ありとあるに對し吾人の菌は灰白色にして暗褐色の縁邊あり擬設も少しく大にして胞子は小なるのみならず油滴を明らかに認め難き等の差あり而して本寄主の萼上に生ずるものを Spegazini 氏は本菌の變種として var. *calycicola* とせるが之れ其被害部が乳白色を呈する點は本菌に近きも其擬設は 150-180 μ の直經あり其胞子は $8-10 \times 3 \mu$ ありとせる點は吾人の菌と異なる處なり或は吾人の菌は此變種の充分に成熟せざるものに非ずや今後の調査を要する處なり。

300. *Phyllosticta melampyricola* M. Miura, n. sp.

Spots roundish, gray or white, margine definite, isolate or confluent, 3 mm. in diameter; pycnidia amphigenous, sphaeroidal, scattered, dark brown, without ostiole, $65-75\mu$ in across; spores cylindric, rounded at both ends, hyaline, $10-13 \times 4-5\mu$.

寄主及産地 *Melampyrum roseum* Max. ミヤママコナ 槲

吉 林 大正十二年九月十九日 三浦密成

分布 満洲。

記事 今日までマコナ類に生ずる本屬菌は *Phyllosticta Melampyri* Allesch., 及び *Phyll. Kriegeriana* Bres., の二種なるが共に其擬設は本菌より大にして其胞子は此れよりも小なるによりて直ちに區別することを得。

301. *Phyllosticta Rubiae* M. Miura, n. sp.

Spots circular and isolated in general, but often confluent forming a large irregular shaped dark gray colored restricted parts: pycnidia hypophyllous, irregularly distributed, subimmersed, sphaeroidal with short ostiole, $170-200\mu$ in diameter; spores cylindrical, rounded at both ends, hyaline without oil drops, $5-7 \times 1-1.5\mu$.

寄主及産地 *Rubia cordifolia* L. アカネ 槲

吉 林 大正十二年九月十九日 三浦密成

分布 満洲。

記事 從來茜草科に寄生する本屬菌にして知られたるもの數種ありと雖も一も本菌と一致するものなきが故にこれを新種となせり。

- 302. *Phyllosticta vulgaris* Desm. var. *Philadelphi* Sacc.** in Syll. 3, 18, 1884; Allescher, in Rabh. Krypt. 6, 54, 1901; Diedicke, in Krypt. Brand. 9, 65, 1912; Migula, in Thome's Fl. Deutsch. Krypt. III. 4, 20, 1921; Oudemans, in Enum. 3, 341, 1921;

寄主及産地 *Philadelphus tenuifolius* Rupr. et Max.

ウスバヒメバイクワウツギ 葉

土們嶺 大正七年八月十九日 三浦密成

分布 歐洲, 滿洲。

記事 余の檢したる菌は全く原記載に一致す而して Bubák & Kabat 兩氏は本菌の胞子は二胞よりなるものありとしこれを *Ascochyta vulgaris* Bub. et Kab. とせるが余は余の標本にては二胞よりなりたる胞子を發見せざるも其胞子は甚だ大にして *Macrophoma* に近く或は遂に二胞となるものなるやも計り難しと雖も今暫く本種となす。

- 303. *Phyllosticta Caprifolii* (Opiz.) Sacc.** in Mich. 1, 137, 1879; in Syll. 3, 19, 1884; Thümen, in Pilz. Sib. No. 434, 1878; Allescher, in Rabh. Krypt. 6, 54, 1901; Diedicke, in Krypt. Brand. 9, 64, 1912; Migula, in Thome's Fl. Deutsch. III. 4, 20, 1921; Oudemans, in Enum. 4, 831, 1923;

Syn. *Depazia Caprifolii* Opiz. (?) in Sacc. Myc. Ven. 193, 1873;

寄主及産地 *Lonicera vesicaria* Kom. ヲキスキセドキ 葉

草河口 大正七年七月四日 三浦密成

分布 歐洲, 滿洲, 西比利亞。

以上の外余は大正十年九月十九日朝鮮平壤に於て栽培葡萄の葉

上に *Phyllosticta viticola* Sacc. et Speg. 菌を採集せしも滿洲に於ては未だこれを採集したることなし恐らく今後滿洲にても發見せらるゝに至るべし。

Phoma Fries.

本屬は前きの *Phyllosticta* と何等形態上異なる處なくたゞ前者が寄主の葉上にのみ發生するに反し本屬のものは葉以外の器管即ち幹枝等にも發生するを異なりとす Lindau 氏によれば世界に知られたるもの千百種以上の多きに達すと稱せられ滿洲にては余はたゞ二種を見たるのみ

304. *Phoma Betae* Frank. in Zeitsch. f. Pflanzenkr. 3. 90. 1893. Sorauer. in Lehrbuch. 2. 240. 1908. Diedicke. in Krypt. Brand. 9. 123. 1912. Stevens. in Fg. w. c. pl. dis. 247. 490. 1913. Oudemans. in Enum. 2. 1029. 1920.

Syn. *Phoma Betae* Rostr. in Zeitsch. f. Paras. 323. 1894. Sacc. Syll. 10. 492. 1892. Oudemans. in Enum. 2. 1031. 1920.

Phoma sphaerosperma Rostr. in Tidsskrift f. Landøekon. V. 8. 746. 1885.

Phoma tabifica Prill. in Bull. Soc. Myc. Fr. 1. 1891. Sacc. Syll. 10. 180. 1892. Oudemans. in Enum. 2. 1930. 1920.

Phyllosticta tabifica Prill. et Del. in Bull. sc. Myc. fr. 7. 15. & 23. 1891. Allescher. in Rabh. Krypt. 6. 105. 1901. Oudemans. Enum. 2. 1030. 1920.

Phyllosticta Betae Oudem. in Ann. Myc. Nederl. 6. 1875. Sacc. Syll. 3. 54. 1884. Allescher. in Rabh. Krypt. 6. 105. 1901.

寄主及產地	Beta vulgaris L.	サトウダイコン	根, 莖, 葉
公主嶺	大正七年七月十四日		三浦密成
公主嶺	大正八年八月八日		三浦密成
四平街	大正十年七月十四日		三浦密成

分布 歐米, 日本, 朝鮮, 滿洲

記事 本菌に犯されたる葉の斑點は輪狀に膨大するを以て中田學五郎氏はこれを蛇眼病と稱し朝鮮に於ては其被害甚だしく特に根を犯す場合には其損害も亦少なからずと雖も滿洲に於ては現在被害甚だしからず余は本種用母本の莖葉上にこれを探集したるに過ぎず。

余の檢したる菌に於ては其擬殼の直徑 100μ 位にして原記載 (160μ) よりも小さきも其胞子は稀に短柄を有し且つ油滴を缺く等全く *Phyllosticta tabifica* Prill. 菌に一致し Hedgcock 氏は精密なる培養試験を行ひたる結果 *Phoma sphaerosperma* Rostr. 菌と *Phyllosticta tabifica* Prill. et Del. 菌とは全く本菌と同一物なることを發見して 1904 年これを發表せるが故に吾人の菌も亦本種に他ならざるなり而して Prillieux 及び Delacroix 兩氏は本菌は *Mycosphaerella tabifica* (Del. et Prill.) Johns 菌の分生胞子時代なりと考へしも吾人は滿洲に於ては未だ其子囊時代を發見せざるを以て同時代を發見するまでは上記の學名を以て取扱ひ置くを至當と考ふ。

305. *Phoma albomaculata* M. Miura, n. sp.

Spots circular or wide elliptical, oblongo-elliptical on petiols, at last perforate, isolate or confluent, at first dark brown but soon changes to white from its centre, margined by purplish dark colored line. 13

mm. across or more; pycnidia amphigenous, minute, scattered or aggregate, sphaeroidal, subimmersed and ostiolate, 60-90 μ in diameter; spores wide ellipsoidal, rounded at both ends, with one oil drop at each end, hyaline, $4.5-6 \times 3-3.5 \mu$.

寄主及産地 Ranunculus sp. (? japonicus,)

葉柄, 葉

吉林

大正七年八月十七日

三浦密成

分布 満洲。

Macrophoma Berl. et Vogl.

本屬のものは *Phyllosticta* と其形態を等ふし唯其胞子の直径 15 μ 以上に達するものなり世界に大凡百七十種満洲に二種を發見す。

306. *Macrophoma cruenta* (Fr.) Ferriaris. in Ann. Myc. 10. 288, 1912;

Syn. *Phyllosticta cruenta* (Fr.) Kichx. in Fl. Crypt. Flandr. 1. 412;

Sacc. Syll. 3, 58, 1879; Thümen, in Pilz. Sib. No. 433. 1878;

Allescher, in Rabh. Krypt. 6, 161, 1901; Jaap, in Ann. Myc. 9,

337, 1911; Diedicke, in Krypt. Brand. 9, 79, 1912; Sydow, in

Ann. Myc. 12, 162, 1914; Oudemans, in Enum. 1, 1178, 1919;

Migula, in Thome's Fl. Deutsch. Krypt. III. 4, 60, 1921; K.

Togashi, in Jap. Jour. Bot. 2, 95, 1924;

Sphaeria cruenta Fries, in Syst. Myc. 2, 581;

寄主及産地 Polygonatum officinale All.

アマドコロ

葉

普蘭店

大正四年月日不詳

近藤金吾

草河口

大正六年七月四日

三浦密成

Smilacina japonica A. Gray.

ユキザサ 葉

草河口 大正七年七月四日

三浦密成

Disporum Smilacinum A. Gray, var. *viridescens* Max.

アラチゴユリ 葉

草河口 大正七年七月四日

三浦密成

分布 歐米, 日本, 西比利亞, 滿洲。

記事 アラチゴユリ上のものは斑點は圓形乃至卵形にして中央部は暗綠色をなし其外方に黃色輪あり更に外方は褐色を呈し次に灰白色帶あり最外部は暗褐色を呈し一見全く別種の如く見ゆるも顯微鏡下に其擬殼及び胞子を檢するときは全く本種に異ならざるを知るを得。

307. *Macrophoma Chenopodii* M. Miura, n. sp.

Spots at first brownish black to violetish color, irregularly dendroform along venations, then brown and at last grayish brown, 1.5-5 c.m. in diameter; pycnidia epiphyllous, commonly deposite in lines along the veins, rarely scattered on the discolored spot, small, sphaeriodal or slightly depressed sphaeroid, brownish black, 100 μ in diameter, with or without a short ostiol; spores vermiform, rounded at both ends, guttulate as in the case of a certain species of the *Stagonospora*, hyaline, 14.4-32 \times 3.5-4 μ .

寄主及產地 *Chenopodium hybridum* L.

アラアカザ 葉

吉林 大正七年八月十七日

三浦密成

分布 滿洲。

記事 本菌は Westendorp 氏の *Phyllosticta Chenopodii* とせるもの。

に近く同菌は Saccardo 氏によりて *Septoria Chenopodii* Desm. と同一菌なりと考へられ Winter 氏はこれを *Septoria Westendorpii* となし Allescher 氏は寧ろ *Macrophoma* に入るゝを可とすと考へたるものなるが本菌の擬設及び胞子は同菌のものより大なるを以て區別し得るものなり。

Dendrophoma Saccardo.

本屬は *Phyllosticta* の如くにして其胞子柄が樹枝狀に分岐するを以て異なる世界に約五十種滿洲に一種を見る

- 308. *Dendrophoma Convallariae* Cav.** in Mat. Lomb. 18; Sacc. Syll. 10, 211, 1892; Allescher, in Rah. Krypt. 6, 401, 1901; Diedicke, in Krypt. Brand. 9, 194, 1912; Oudemans, in Enum. 1, 1183, 1919;

寄主及産地	<i>Convallaria Majalis</i> L.	キミカゲサウ	葉
草河口	大正七年七月四日		三浦密成
吉 林	大正七年八月十六日		三浦密成
分布	歐洲, 日本, 滿洲		

Plenodomus Preuss.

本屬は *Phyllosticta* の如くにして其擬殻は寄主の組織表面に生じ半圓形又は倒皿狀をなすを異なりとす世界に知られたるもの大凡六種滿洲に一種を産すと云ふ。

- 309. *Plenodomus?* sp.** in Hara. Fg. eastern Asia, 38, 1928:

寄主及産地	<i>Malus domestica</i> Borkh.	リンゴ	葉
-------	-------------------------------	-----	---

哈爾賓

大正十五年九月

原 攝祐

記事 本菌は原攝祐氏が哈爾賓にて採集せるものにして同氏は本屬に入るものなるべしとし次の如く述べたり、‘斑點は圓形又は不規則形暗褐色にして周縁は現著ならずして稍暈けたり大さ7-13 m.m.あり其表面に黑色小粒點を散布す、子殻は最初老皮下に生ずるも後恰んど表面生となる半球形又は圓盤狀をなす、直徑200 300 μ あり殼壁は膜質にして厚し、構成細胞は多角形にして大さ3-6 μ あり擔子梗は底部より叢生す絲狀にして 20-30 \times 0.8-1 μ . 胞子は橢圓形又は圓筒形にて兩端圓く大さ 2.6-3 \times 0.8-1 μ . ありて無色なり’、と余は本菌を検するの機を有せず故に原氏の記事を轉載するに止む。

Cytospora Ehrenberg.

本屬は子坐を形成して子坐中に擬殻を生ず其他は Phoma 屬に等しく主として寄主の枝幹を犯す世界に約二百種滿洲に一種を見る。本菌の子囊時代は Valsa 科に屬するを以て其子囊時代知らるゝに至れば全部同科に移さるべきものなり。

310. Cytospora chrysosperma (Pers) Fr. in Syst. Myc. 2, 542; Sacc. Syll. 3, 260, 1884; Allescher, in Rabh. Krypt. 6, 591. 1901; Diedicke, in Krypt. Brand. 9, 353, 1912; Tranzsch. Fg. Kamtsch. 573, 1914; Migula, in Fl. Deutsch. Krypt. III, 4, 203, 1921; Oudemans, in Enum. 2, 14, 1920; Togashi, K., in Jap. Jour. Bot. 2, 94, 1924;

寄主及產地 Populus laurifolia Ledeb.

テリハドロ

幹

公主嶺

大正九年五月

三浦密成

Populus monilifera Ait.

モニリヤヤマナラシ

幹

撫 順	大正十年六月	三浦密成
<i>Populus nigra</i> L. var. <i>pyramidalis</i> Spach.	ポプラ	幹
大 連	大正七年六月	三浦密成
<i>Salix</i> spp.	ヤナギ 類	幹
公主嶺	大正八年六月	三浦密成

分布 歐洲, 日本, 勘察加, 滿洲。

記事 本菌は *Populus* 類の幹を犯すものにして大連市街の傍路樹星ヶ浦公園のもの等は本菌に犯さるゝもの少からず特に本菌が苗圃の苗採用母株を犯したる場合の如き其損害も亦甚たしく撫順に於ける苗圃の如き大正十二年には殆んど全部の母株は之れが爲めに焼却せざるべからざるの悲運に立ち至りたることあり。

本菌は曾て Persoon 氏が *Naemaspora chrysosperma* と稱せるものにして von Thümen 氏が *Pilzflora Sidiriens* No. 418, 及び 942 に於て *Cytispora nivosa* Thümen とせるものは本菌に非るやと考へらる前者は Martianoff 氏が Minussinsk に於て *Populus tremula* の幹上に採集し後者は等しく *Populus laurifolia* の幹上に採集したるものなり然れども余は其原記載を見るの便を有せざるを以て之れを確定する能はず後日の研究に俟つべきものなり。

余が公主嶺に於て *Salix* 屬の幹上に採りしものは其形態毫も本種と異なることなきを以て本種と鑑定したるが von Thümen 氏が同書 No. 597 に於て *Cytispora fugax* Fries なる菌が Minussinsk 州にて *Salix* 幹上に發見せられたるを述ぶ然れども之れ亦余は其原記載を見るの機を得ず此二者が同一物なるや否やに關しては今後接種試験によりて決定せらるべきものにして今暫く余の得たるヤナギ上のもを本種と同一菌となさんと欲す。

至膜質,分生胞子是有色にして卵形又は長橢圓,擔子梗は棒狀,世界に約二百種滿洲に二種を見る。

312. Sphaeropsis Malorum Berk. in Outlines of Brit. Fg. 316. 1860 ; Longyear, in Michigan Ag. Ex. St. Bull. No. 250. 1904 ; Edgerton, in Ann. Myc. 6, 48-53. 1908 ; Lewis, in New Hamp. Ag. Ex. St. 19 & 20 Rpt. 365. 1908 ; Brooks, in New Hamp. Bull. No. 144, 1909 ; in l. c. No. 157. 1912 ; in Phytopath. 2. 94. 181. 1912 ; Hesler, in Phytopath. 3, 290. 1913 ;

Syn. *Sphaeropsis Malorum* Peck, in 34th Rpt. N. Y. State Mus. Nat. Hist. 36. 1881 ; Sacc. Syll. 3. 294. 1884 ; Halsted, in New Jersey Ag. Ex. St. No. 91. 1892 ; Tubeuf, in Fg. dis. pl. 472. 1897 ; Clinton, in Conn. Ag. Ex. St. Rpt. 298. 1903 ; in l. c. 310. 1906 ; Srauer, in Handb. Pflanzenkr. 2. 403. 1908 ; Scott, in United States Dept. Ag. Burr. Pl. Ind. Bull. 121. 1908 ; Duggar, in Fg. dis. pl. 350, 1909 ; Morse & Lewis, in Maine Ag. Ex. St. Bull. No. 185. 1910 ; Massee, in Dis. of cult. pl. 431. 1910 ; Stevens & Hall, in Dis. econ. pl. 81. 1910 ; Güssow, in Canada Dept. Ag. Cent. ex. farm. 246, 1911 ; Diedicke, in Krypt. Brand. 9. 623. 1912 ; Lewis, in Phytopath. 2. 49. 1912 ; Pole Evans, in South Afr. Unio. Ag. Rpt. appendix 8, 3, 1913 ; Wolf, in Phytopath. 3, 288. 1913 ; Stevens, in Fg. w. c. pl. dis. 502. 1913 ; Gloyer, & Falton, in New York Ag. ex. st. Tech. Bull. No. 50. 1916 ; Stakman, & Talaas, in Minnesota Ag. ex. st. Bull. No. 153, 1916 ; Hesler, in Cornell Univ. Ag. ex. st. Bull. No. 379. 1916 ; Oudemans, in Enum. 3, 465. 1921 ;

Sphaeria Malorum Berk. in Engl. Fl. 5, II, 1836 ;

Ottia Pruni Fuck. in Symb. 169, 1969 ;

Phoma Malorum Sacc. in Syll. 3, 152, 1884 ;

Macrophoma Malorum Berk. et Vogl. in Otti Soc. Venet. Tr. 184, 1886 ;

Physalospora Cydoniae Arnaud. in Cuning. Fg. dis. Fruit-trees in New Zeal. 118, 1925 ;

Sphaeropsis Pseudodiplodia (Fuck.) Del. in Bull. Soc. Myc. fr. 18, 250, 1903 ;

寄主及産地	<i>Malus domestica</i> Barkh.	リンゴ	梨
熊岳城	大正八年九月		三浦密成
熊岳城	大正十年十月十二日		渡邊柳藏
得利寺	大正八年九月		三浦密成
三十里堡	大正八年九月		三浦密成
大連	大正八年九月		三浦密成

分布 歐洲, 米國, 南亞弗利加, 濠洲, 日本, 朝鮮, 滿洲

記事 本菌は New York apple tree canker と稱せらるる病害の病原菌にして北米に於ては華樹の幹, 果實, 葉等を犯して甚だしき被害を與へ Hartley, Crabill, Alwood 其他の報ずる處によれば本菌被害變色部には寄屍菌なる *Alternaria* ; *Coniothyrium* ; *Coryneum* ; *Fusarium* ; *Hendersonia* ; *Illosporium* ; *Monochaetia* ; *Metasphaeria* ; *Phyllosticta* ; *Phoma* ; *Pestalozzia* ; *Septoria* 菌等を供ふとせられ滿洲に於ては未だ華樹の葉以外に本菌の發生せるを見ず。

本菌の學名に關しては永年種々の説をなすものありしが Edgerton 氏によれば本菌の學名は先命權によりて *Sphaeropsis Malorum*

Berkeleyにして *Sph. Malorum* Peck とすべきものに非ずとなし Hesler 氏は *Physalospora Cydoniae* Arnaud. 菌は本菌の子囊時代なりとし同菌は *Hamamelis virginiana* L. 及び *Quercus alba* L. の幹上にも發生すと報告せるも吾人は滿洲に於ては未だ此子囊時代を採集せざるを以て暫く上記の學名に従ふ。

313. *Sphaeropsis Visci* (Sollm.) Sacc. in Mich. 2, 105, 1882; in Syll. 3, 295, 1884; in l. c. 10, 254, 1892; Allescher, in Rabh. Krypt. 7, 21, 1903; Diedicke, in Krypt. Brand. 9, 582, 1914; Oudemans, in Enum. 2, 968, 1920; Migula, in Fl. Deutsch. Krypt. III. 4, 249, 1821;

Syn. *Centhospora Visci* Sollm. in Hedw. 2, 187;
Gibberidea Visci Fuck. in Symb. 168, 1869;
Sphaeria Visci DC. in Fl. fr. 6, 146;
Diplodia Visci Fries, in Syst. v. Sc. 417;

寄主及產地 *Viscum album* L.

ヤドリギ 槲

吉 林 大正十年六月

三浦密成

分布 歐洲, 日本, 滿洲。

Coniothyrium Corda.

本屬は *Sphaeropsis* 屬の如くにして其分生孢子小, 普通其長さ 10μ 以下なり世界に百五十種以上知られ滿洲に産するもの今日までに八種を算す。

314. *Coniothyrium japonicum* Miyake, in Bot. Mag. Tokyo, 23, 131, 1909; in Jour. Coll. Ag. Tokyo Imp. Univ. 2, 257; Sacc. Syll.

22, 975, 1913; K. Hara, in Dis. rice pl. 172, 1918; in Fg. eastern Asia, 39, 1928;

寄主及産地 *Oryza sativa* L.

イネ 葉

熊岳城 大正七年十月

三浦密成

公主嶺 大正十年十月

三浦密成

熊岳城 大正十五年十月

原 攝祐

分布 日本, 滿洲。

記事 本菌は稻の枯葉上に見るものにして三宅市郎氏は綠葉上に發見して命名せるものにして余は公主嶺に於て陸稻の葉上に發見せることあり原攝祐氏は熊岳城にて採集せり, 本菌寄生の爲めに非常なる損害を與ふるものとは思はれず(少なくとも滿洲に於て)。

315 *Coniothyrium populicola* M. Miura. n. sp.

Spots large, irregular circular, scattered or confluent, thin, gray or whitish gray on the upper surface and brownish gray on the corresponding under side of the leaf, margined, 0.1-1 c.m. in diameter; pycnidia small, amphigenous, scattered, spherical and immersed, black, with a short ostiole, 100-120 μ across; spores obovate, oblong-ovate, smooth, smoke color, 5.5-7.2 \times 3.5 μ .

寄主及産地 *Populus balsamifera* L.

ドロノキ 葉

熊岳城 大正九年十月一日

三浦密成

分布 滿洲。

記事 從來ドロ類を犯す *Coniothyrium* 菌多く知られたるも皆其枝幹を犯すものゝみにして葉を犯すものあるを聞かず而して本菌の發生によりて其寄主は如何なる程度まで損害を蒙るや不明なる

も余の觀察する處によれば爲めに其落葉を特に早むるが如き事なきが如し。

316. Coniothyrium celtidicola M. Miura, n. sp.

Spots circular when isolated and irregular shaped when confluent, grayish, margined with darker line, 2-5 m.m. across, but when confluent, a considerable area becomes discolored: pycnidia epiphyllous, scattered, minute, globose, immersed with a short ostiole, black, 35-50 μ in diameter: spores wide ellipsoidal or ovate, light to deep brown, 5.5-7.5 \times 3.6 3 μ .

寄主及產地 Celtis Bungeana Bl.

エゾエノキ 葉

奉天北陵

大正七年九月二十四日

三浦密成

分布 滿洲

記事 本菌は Coniothyrium Celtidis Brun. に近きも葉に寄生すると胞子に油滴を見ざるの點之れと異なる

317. Coniothyrium tirolensis Bubák, in Oesterr. Bot. Zeitschr.

138, 1904: Sacc. Syll. 18, 309, 1906; Oudemans, in Enum. 3, 450, 1920: Cunningh. in Fg. dis. of fruit-trees in New Zeal. 146, 1925:

Syn. *Coniothyrium pirinum* (Sacc.) Schel. in Torr. 7, No. 7, 1907; Lewis, in Phytopath. 2, 49, 1912; Crabill, in Ann. Rpt. Virg. Polytech. inst. Ag. Ex. St. 95-115, 1913; Stevens, in Fg. w. c. pl. dis. 503, 1913; Gloyer & Fulton, in New York Techn. Bull. No. 50, 1916;

寄主及産地 *Malus domestica* Borkh. リンゴ 葉

熊岳城 大正七年九月十六日 三浦密成

Prunus mandshurica Koehne. マンシウアズ 葉

熊岳城 大正八年九月二十七日 三浦密成

分布 歐洲、米國、濠洲、滿洲、

記事 本菌は苹果栽培地方には廣く分布せらるゝものゝ如く米國の學者は *Sphaeropsis Malorum* 菌の被害變色部に寄生的に發生するものとなすもの多く Mutto 及び Pollacci 兩氏の研究によれば本菌は *Coniothyrium piricum* (Sacc.) Schel. と同一菌にして先命權によりて Bubák 氏の命名に従ふべきものなりとせり

余が熊岳城にてマンシウアズ葉上に採集せる *Coniothyrium* 菌は本菌と區別するを得ざるものにして其被害部に *Sphaeropsis Malorum* 菌を見ず余の手記を見るに次の如し

Spots circular or irregular in form, whitish gray with dark brown colored bordered line on the upper side and brown or grayish brown on the corresponding under side of leaves, scattered, rarely confluent, large, 2-7 m. m. in diameter pyrenidia amphigenous, commonly epiphyllous, medium in size, scattered, rarely aggregate, sphaeroidal with a short ostiole, subimmersed, black, 130-180 μ in diameter; spores oblong, oblongo-ellipsoidal rounded at both ends without oil drops, light blackish-purple color, 5.5-7.2 \times 3-3.5 μ . 故に今後充分の調査をなすまで本菌と同一菌となす

318. *Coniothyrium piricola* Potebnia, in Ann. Myc. 5, 16, 1907; in Soc. Nat. Univ. Kharkov. 43, 1907; Sacc. Syll. 22, 968, 1913; K. Hara, in Fg. eastern Asia, 39, 1928;

寄主及産地 *Pyrus communis* L.

セイコウナシ 葉

哈爾濱 大正十五年十月

原 攝祐

分布 露國, 滿洲.

記事 本菌は原氏が哈爾濱にて採集せるものにして其記事によれば其擬殻の直徑 $35-50\mu$ 胞子の大きさは $3-5 \times 2.5-3\mu$ とあり Potebnia 氏の原記載によれば擬殻は葉の上面に生じ淡褐色にして直徑 $70-140\mu$ あり胞子は $5-6 \times 2.5-3\mu$ の大きさありて淡褐色をなすとあり且つ其寄主はナシに非ずしてリンゴなるのみならず *Phyllosticta Briardi* 菌と共に生ぜりとありて余は此標本を見ざるが故に其異同に關しては原氏の鑑定に従ひ置くこととせり

319. *Coniothyrium Dumeei* Br. et Cav. in Fg. paras. No. 392, 1905; Sacc. Syll. 22, 971, 1913;

Syn. *Coniothyrium Rhamni* Miyake, in Bot. Mag. Tokyo. 27, 49, 1913;

寄主及産地 *Rhamnus dauricus* Pall. クロウメモドキ 葉

奉天北陵 大正七年九月二十四日 三浦密成

分布 歐洲, 北清, 滿洲.

記事 本菌は Dumeé 氏が Gallia に於て *Rhamnus Frangula* の葉上に採集せるものを以て始めとなす然るに三宅市郎氏は其後北京附近にて *Rhamnus* 屬の葉上に一種の *Coniothyrium* 菌を採集し新種となしたるも此兩者の記載を比較するに全く互に附節を合するが如く一致し其間何等疑ふの餘地なきを以て余は此兩者を同一菌と認め先命權によりて上記の學名に従ひたり思ふに當時三宅氏は本菌の原記載を見るの機を得ずして新學名を附せるものなるべし而

して本菌に近似せる *Coniothyrium rhamnigenum* (Sacc.) Bubák. 菌と比するに本菌の子殻は大にして胞子は短かく且つ幅廣きを以て直ちに區別するを得即ち本菌の子殻は $100-150\mu$ の直徑あり胞子は $5-7 \times 4-5.5\mu$ なるに *Conioth. rhamnigenum* の子殻は其直徑 80μ . 胞子は $4-9 \times 3-4.5\mu$ なり。

320. *Coniothyrium vitivora* M. Miura, n. sp. in Const. Orchard in Manch. 158. 1925; Shirai, & Hara, in List Jap. Fg. 3rd ed. 100, 1927;

Spots irregular. dark colored and indefinite; pycnidia (obtained by pure culture) globose or depressed globose, black, ostiolate, $160-340\mu$ in diameter; spores ovate, wide ellipsoidal, rounded at both ends, pale smoke color, guttulate, $9.8-12.6 \times 6.5-8.5\mu$; when cultured artificially, a crystal of Calcium oxalate produced.

寄主及產地	<i>Vitis vinifera</i> L.	ブドウ	果房
	沙河口	大正八年九月二十四日	三浦密成
	周水子	大正八年九月二十五日	三浦密成

分布 滿洲。

記事 本菌は葡萄の果房を主として犯すものにして被害の果房は未だ子殻の形成を見ざるに黒變縊結して落果を來たすを以て今後葡萄栽培上恐るべき病害なるべく余の記載は純粹培養によりて得たるものに從ひたるものにして自然生のものと果して同一なるや否や不明なり従つて *Coniothyrium Diplodiella*, *C. Fuckelii* 及び *C. Vitis* と比較するは少しく無謀の嫌ひあるを以て今後充分の研究をなすまで新種となすべし。

321. *Coniothyrium Fraxini* M. Miura, n. sp.

Spots circular, solitary, at first brown, later grayish white, destituted by darker line, thin, 4-6 m.m. in diameter; pycnidia epiphyllous, minate, sphaeroidal, subimmersed, ostiolate, black, 70-150 μ across; spores wide ellipsoidal, oblong-ovate, light sooty color when mature, $5-7 \times 3 \mu$.

寄主及産地 *Fraxinus rhynchophylla* Hec. マンシウトネリコ 葉

吉 林	大正七年八月十六日	三浦密成
青龍山	大正七年九月十五日	三浦密成
同	大正九年十月二日	三浦密成
熊岳城	大正八年九月二十一日	三浦密成

分布 満洲。

Nothopatella Saccardc.

本屬の子殻は子坐中に生ずるを以て前の二屬と區別するを得、世界に三種満洲に一種あり。

322. *Nothopatella chinensis* Miyake, in Bot. Mag. Tokyo, 26, 59: 1912; K. Hara, in Fg. eastern Asia, 40, 1928;

寄主及産地	<i>Morus alba</i> L.	クハ	枝
熊岳城	大正八年九月二十一日	三浦密成	
同	大正十五年九月	原 攝祐	
公主嶺	大正九年九月	三浦密成	

分布 北清, 満洲。

記事 本菌は三宅市郎氏が北清にて採集命名せるものにして満洲には普通に見るも其被害程度等は不明なり。

(は) **Sphaerioidaceae-Hyalodidymae.**

此の群に屬するものは *Phyllosticta* と等しくして其孢子二胞よりなるの差あり或者は子坐を形成す十四屬に分たるゝも滿洲に於ては次の *Ascochyta* 屬のものゝみ知らる。

Ascochyta Libert.

本屬にて世界に知られしもの約二百五十種滿洲に四種を見る

- 323. *Ascochyta Dianthi* (A. et S.) Lib.** in Crypt. 2. No. 158, 1832; Sacc. Syll. 3. 398. 1884; in 10. 301. 1892; Allescher, in Rabh. Krypt. 6. 640. 1901; Oudemans, in Enum. 3. 63 1921;

Syn. *Sphaeria (Depazea) Dianthi* A. et Schw.

Phyllosticta Dianthi West.

寄主及産地 *Silene repens* Patr. チシママンテマ 菜

興安嶺 大正十二年七月 三浦密成

分布 歐洲, 滿洲.

記事 余の檢したる菌の子殻は淡褐色にして殆んど無色のものあり壁膜薄くして球狀約 120μ の直徑あり孢子は Saccardo 氏の記載 ($14-16 \times 3-4.5\mu$) よりも少しく大にして $13-20 \times 3-5\mu$ に達すまた Allescher 氏は本菌孢子の兩端には小附屬物存すと述べたるも吾人のものにはこれを認めず而して *Ascochyta Cookei* Massee 菌の孢子よりも本菌のものは小形なり

- 324. *Ascochyta Sojæ* M. Miura, n. sp.**

Spots scattered or confluent, elliptical or irregular in shape. 0.1-1 c.m. in diameter, at first brown, later grayish and limited by some-

what elevated dark line from the healthy part; pycnidia amphigenous, small, sphaeroidal with a short ostiole, subimmersed, dark brown, 90–120 μ in diameter; spores fusiform, long-ellipsoidal, bluntery pointed at both ends, not constricted at the septum, hyaline, 12–18 \times 4–4.5 μ .

寄主及産地 Glycine Soja Benth.

ドイツ 葉

公主嶺

大正十年七月二十一日

三浦密成

分布 満洲。

記事 本菌は公主嶺農事試験場大豆育成圃上の或系統のものに甚だしく發生し八月中旬には爲めに其大部分落葉せることあり今日まで知られたる 菴科植物上の Ascochyta 菌中 Ascochyta Orobi Sacc. に最も近似し Ascochyta Pisi. 及び A. Viciae とは甚だしく異なる。

325. Ascochyta Cucumis Fautr. et Rohm. in Rev. Myc. 79, 1891; Sacc. Syll. 10. 304, 1892; Allescher. in Rabh. Krypt. 6, 630, 1901; Diedicke, in Krypt. Brand. 9. 381. 1912; Hara, in Fg. east. Asia, 39, 1928;

寄主及産地 Cucumis sativus L.

キウリ 葉

哈爾賓

大正十五年九月

原 攝祐

分布 歐洲。日本。満洲。

記事 本菌は原氏が哈爾賓にて採集せるものにして同氏の記載によれば子殻は 40–50 μ の直徑あり胞子は 8.8 11 \times 2 2.5 μ とあり Diedicke 氏は其子殻の直徑を 125 μ ありと記し胞子の大きさを 7 11 \times 3 μ とせり即ち原氏の見たるものは其子殻甚だ小なり余は其標本を見るの機を得ざるが故に何等述ぶること能はざるも或は原氏の標本は完熟せざるものか後考を期す。

326. *Ascochyta Sesami* M. Miura, n. sp.

Spots angular, at first dark brown, then turn to gray on upper side, small; pycnidia globose and shortly ostiolate, pale brown, subimmersed, 80–100 μ in across; spores fusiform, constricted slightly, hyaline, $10 \times 3 \mu$, one celled spores oblong or wide ellipsoidal, rounded at both ends, hyaline, without oil drop, $5 \times 3 \mu$.

寄主及産地 *Sesamum indicum* L.

ゴマ 葉

公主嶺

大正十四年八月二十五日

三浦密成

分布 満洲。

記事 本菌胞子は單胞よりなるもの多く二胞よりなるもの少なきを以て *Phyllosticta* と誤認することあり。

(に) *Sphaeroidaceae-Scolecosporae-Hyalosporae*.

此群は十二屬に分たれ満洲には次の三屬知らる。

属の檢索表

1. 擬護殻は完全なり 2.
- 擬護殻は不完全なり *Phleospora*.
2. 主として葉に生ず *Septoria*.
- 主として葉以外の處に生ず *Rhodospora*.

Septoria Eries.

本屬は主として寄主植物の葉に生ずるものにして子殻は孔口を缺き(或は之れを有す)胞子は線狀にして多少屈曲し無色三胞以上よりなる、世界に九百種以上知られ満洲に四十六種を見る。

327. *Septoria Streptopii* M. Miura, n. sp.

Spots yellowish brown to brown, not margined, linear in general in consequence of the limitance of veins, commonly confluent forming a considerable discolored part, from 2 m.m. to half areas of the leaf blade; pycnidia globose, minute, irregularly scattered on both sides of the leaf, black, $50-60\mu$ in diameter; spores, cylindrical, straight or slightly curved to one side, rounded at both ends, 1-3 septate, hyaline, guttulate, $14-25 \times 3-3.5\mu$.

寄主及産地 *Streptopus ajanensis* Til. *γ. koreana* Kom.

オクケシマラン 葉

草河口

大正七年八月三日

三浦密成

分布 満洲。

記事 百合科植物を犯す *Septoria* 菌にして本菌に類似するものは *Septoria Smilacinae*; *Septoria smilacina* 及び *Sept. Polygonati* の三種なるが何れも其胞子は本種より長きを以て直ちに區別することを得べく今日まで本菌に一致する菌の報告あるを聞かず故にこれを新種とせり。

328. *Septoria alnifolia* Ell. et Ev. in Proc. Acad. Nat. Scienc.

Phylad. 366, 1894; Sacc. Syll. 11, 546, 1893;

寄主及産地 *Alnus japonica* S. et Z.

ハンノキ

葉

熊岳城

大正九年十月一日

三浦密成

分布 北米, 満洲。

記事 従来ハンノキ類の葉を犯す *Septoria* としては *Septoria Alni* Sacc.; *Septoria alnicola* Cooke; *Septoria alnigena* Sacc.; *Septoria cari-*

solensis Kabát et Bubák, 及び本菌の五種なるが余の檢せる菌は本菌の記載と能く一致す而して *Septoria alnicola* Thümen, は *Septoria Alni* Sacc. の同種異名なりとせらる。

余は本菌を熊岳城農事試験場の林業部苗床中に採集せるが其被害樹は早く落葉を來たすを以て甚だしき害を與ふるものと思はる。

329. *Septoria chinensis* M. Miura, n. sp.

Spots circular or angular, isolate or confluent, small, brown or grayish at centre and chocolate brown at margins with which the discolored part clearly circumscribed from surrounding healthy part. 1-3 m.m. diameter; pycnidia epiphyllous, scattered, minute, globose, immersed and covered at first, but later ruptured the epidermis, 75-150 μ across, dark brown; spores slender, flexible, curved to one side, hyaline, guttulate, septum invisible, 54-75 \times 1-1.5 μ .

寄主及產地 *Betula chinensis* Max.

タウカンパ

熊岳城

大正八年九月廿五日

三、油蜜皮

分布 滿洲。

記事 Betula 類を犯す *Septoria* 菌は從來四種知られ其内 *Septoria betulina* Pass. は最も本菌に近きも其子殻は葉の裏面に生じ胞子は明らかに三隔膜を有し子殻の大きさ $75-90\mu$ にして本菌よりも小形なる等を異なりとす。

330. *Septoria Ulmi* Hara, in Fg. east. Asia. 40, 1928 ;

寄主及產地 *Ulmus pumula* L.

ノニレ 集

鳳凰山

大正七年九月三十日

三浦密成

熊岳城 大正九年十月一日 三浦密成

公主嶺 大正十一年十月十日 三浦密成

Ulmus campestris, var. *laevis*. ハルニレ 葉

哈爾賓 大正十五年九月 原 攝祐

分布 滿洲。

記事 本菌は原氏が哈爾賓にて採集命名せるものにして余が南滿に於てノニレ上に採集せるものは小しく異なりたる點あり其胞子が隔膜を缺くか又は稀に一二個の隔膜を有する點胞子の大きさ等は本菌に類するも其幅廣き點及び子殻の橢圓狀なる點は次の種に似たり今余の標本によりて記載せるものを次に述べんに “Spots angular, solitary, rarely confluent, thin, at first brown, soon grayish white, margined, $\frac{1}{2}$ —2 m.m. in diameter; pycnidia amphigenous, small, sphaeroidal or conico-sphaeroidal, immersed and without ostiole, scattered, 72—90 μ across; spores cylindrical, curved to one side and pointed at both ends, hyaline, no oil drop nor septum, rarely 1—septate, not constricted, 28—35 \times 3.5—4 μ .” と而して種名は *Sept. conica* として新種とせり蓋し其子殻の形ちより來りたるものなり。

331. *Septoria Yokokawai* Hara, in Fg. eastern Asia, 40, 1928:

寄主及産地 *Ulmus campestris*, var. *laevis*. ハルニレ 葉

哈爾賓 大正十五年九月 原 攝祐

分布 滿洲。

記事 本菌も亦原氏が哈爾賓にて採集命名せるものにして其種名は志士横川氏を紀念せん爲めになされたるものなるべく其子殻の橢圓形なること被害部の灰白色を呈する點等は前記の余が南滿

にて得たる菌に似たるも其胞子は 3—7 個の隔膜を有し大さ $38-76 \times 3.3-4 \mu$ ある點之れと異なり余の菌は此兩者の中間に位するが如き形態を有するも今後充分の調査を行ふまで余の菌を前者となし置くべし而して本菌は余これを探集したることなし。

- 332. *Septoria polygonicola* (Lasch.) Sacc.** in Bull. Soc. Myc. 5, 121; in Syll. 10, 380, 1892; Allescher, in Rabh. Krypt. 6, 833, 1901; I. Miyake, in Bot. Mag. Tokyo, 27, 50, 1912; Diedicke, in Krypt. Brand. 9, 496, 1914; Migula, in Thome's Fl. Deutsch. III. 4, 422, 1912; Oudemans, in Enum. 2, 1021, 1920;

Syn. *Depazia polygonicola* Lasch. in Klotzsch. Herb. Myc. No. 566;

寄主及産地	<i>Polygonum orientale</i> L.	オホケタデ	葉
吉林	大正七年八月十七日		三浦密成
撫順	大正 年六月十日		三浦密成
	<i>Polygonum Bunganum</i> Turcz.	ハリタデ	葉
公主嶺	大正十年七月七日		三浦密成
分布	歐洲, 北清, 滿洲		

- 333. *Septoria polygonina* Thüm.** in Pilz. Sib. No. 621, 1880; Sacc. Syll. 3, 554, 14; Allescher, in Rabh. Krypt. 6, 833, 1901; Oudemans, in Enum. 2, 1005, 1920; K. Togashi, in Jap. Jour. Bot. 2, 96, 1924;

寄主及産地	<i>Polygonum Bunganum</i> Turcz.	ハリタデ	葉
公主嶺	大正七年七月廿九日		三浦密成
	<i>Polygonum posumbu</i> Hamilt.	ハナタデ	葉

にて得たる菌に似たるも其胞子は、3—7 個の隔膜を有し大さ $38-76 \times 3.3-4 \mu$ ある點之れと異なり余の菌は此兩者の中間に位するが如き形態を有するも今後充分の調査を行ふまで余の菌を前者となし置くべし而して本菌は余これを採集したることなし。

- 332. *Septoria polygonicola* (Lasch.) Sacc.** in Bull. Soc. Myc. 5, 121; in Syll. 10, 380, 1892; Allescher, in Rabh. Krypt. 6, 833, 1901; I. Miyake, in Bot. Mag. Tokyo, 27, 50, 1912; Diedicke, in Krypt. Brand. 9, 496, 1914; Migula, in Thome's Fl. Deutsch. III. 4, 422, 1912; Oudemans, in Enum. 2, 1021, 1920;

Syn. *Depazia polygonicola* Lasch. in Klotzsch. Herb. Myc. No. 566;

寄主及産地	<i>Polygonum orientale</i> L.	オホケタデ	葉
吉林	大正七年八月十七日		三浦密成
撫順	大正十年六月十日		三浦密成
	<i>Polygonum Bunganum</i> Turcz.	ハリタデ	葉
公主嶺	大正十年七月七日		三浦密成
分布	歐洲, 北清, 滿洲		

- 333. *Septoria polygonina* Thüm.** in Pilz. Sib. No. 621, 1880; Sacc. Syll. 3, 554, 14; Allescher, in Rabh. Krypt. 6, 833, 1901; Oudemans, in Enum. 2, 1005, 1920; K. Togashi, in Jap. Jour. Bot. 2, 96, 1924;

寄主及産地	<i>Polygonum Bunganum</i> Turcz.	ハリタデ	葉
公主嶺	大正七年七月廿九日		三浦密成
	<i>Polygonum posumbu</i> Hamilt.	ハナタデ	葉

旗 順

大正十年八月八日

三浦密成

分布 歐洲, 西比利亞, 日本, 滿洲。

記事 本菌は前者に甚だよく似て前者の被害部の縁邊は帶紫色の線を缺くの區別あるのみ, 本菌は日本に於ては富樫浩吉氏が之れを北海道利尻島にて採集せりと云ふ余も同島に於て明治三十九年 *Septoria Polygonorum* Desm. 菌を採集せることあり之れ其胞子小なるを以て本菌と區別するを得。

334. *Septoria Dianthi* Desm. in 17 not. 6. 20. 1848: Thümen, in Pilz. Sib. No. 635, 1880; Sacc. Syll. 3. 516. 1884: Allescher, in Rabh. Krypt. 6. 772, 1901: Diedicke, in Krypt. Brand. 9, 450, 1914: Oudemans, in Enum. 3. 61. 1921: K. Togashi. & N. Hiratsuka, in Trans. Sapp. Ag. & Forest. 16, No. 68, 79. 1924:

寄主及產地 *Dianthus chinensis* L.

セキチク

草, 葉

興安嶺

大正十二年七月

三浦密成

分布 歐洲, 西比利亞, 日本, 滿洲。

335. *Septoria Lychnidis* Desm. 17 Not. 6. 21; Syll. 3. 517. 1884: Allescher, in Rabh. Krypt. 6. 810. 1901: Diedicke, in Krypt. Brand. 9. 483. 1914; Migula, in Thome's Fl. Deutsch. Krypt. III. 4. 411, 1921; Oudemans, in Enum. 3. 41. 1921:

? Syn. *Septoria Lychnidis* Lasch. in Thümen, Pilz. Sib. No. 452. 1880;

寄主及產地 *Lychnis cognata* Max.

エゾエンビセンノウ

葉

草河口

大正七年七月三日

三浦密成

Silene firma S. et Z.

フシグロ

葉

土們嶺 大正七年八月十九日

三浦密成

分布 歐洲, 滿洲。

記事 Von Thümen 氏は西比利亞にて *Gypsophila altissima* の葉上に得しものを *Septoria Lychnidis* Lasch. として報告せるが或は本菌と同一物に非るなきや後考を期す。

336. *Septoria paraphysoides* Speg. in Fugiana. No. 420. 1887; Sacc. Syll. 10. 364. 1891; Allescher. in Rabh. Krypt. 6. 866. 1901;

寄主及產地 *Stellaria* sp.

枯葉

鳳凰山 大正八年五月廿六日

三浦密成

分布 歐洲, 滿洲。

記事 本種は *Septoria Stellariae* Rob. et Desm. に近きも其胞子鏡かき ($35-40 \times 1.5 \mu$) を以て之れと異なる即ち *Septoria Stellariae* 菌は Diedicke 氏によれば其子殻の直徑 $90-120 \mu$ あり胞子の大きさ $50-65 \times 1.5-2.5 \mu$ ありと。

337. *Septoria Menispermis* Thümen, in Pilz. Sib. No. 1880; Sacc. Syll. 3. 555. 1884; I. Miyake, in Bot. Mag. Tokyo. 28. 51. 1913; Diedicke, in Krypt. Brand. 9. 486. 1914; Oudemans, in Enum. 3. 193. 1921;

寄主及產地 *Menispermum dahuricum* DC.

カウモリカヅラ 葉

奉天東陵 大正七年六月十四日

三浦密成

奉天北陵 大正七年九月二十四日

三浦密成

橋頭 大正七年六月三十日

三浦密成

分布 歐洲, 西比利亞, 北清, 滿洲。

記事 本菌の原記載は其子殻は葉の上面に生ずるとあるも余の見たるものは其兩面に生じ又其胞子は一隔膜ありとせるに余は二乃至三個の隔膜を有するものを數回見たるが三宅市郎氏も同様の觀察をなせり而して Diedicke 氏の記する所によれば 1889 年九月 Sydow 氏が Rixdorf に於て *Menispermum canadense* 葉上に得たるものゝ子殻は $75-90\mu$ の直經あり胞子は不明瞭なる一二の隔膜を有し $25-50 \times 1-1.5\mu$ の大さありとせり。

本寄主は日本に生育するも未だ本菌の存することを聞かず北清地方には普通に發生するものゝ如く余は矢部吉頼氏が山海關、南口、五臺山北臺等にて採集せる標本中に本菌の寄生せるを見たり

338. *Septoria Actaeae* M. Miura n. sp.

Spots circular to irregular in shape, isolate or confluent, grayish brown or dark gray colored at centre, blackish at outer part with which the spot clearly restricted. 3—5 m.m. in diameter; pycnidia amphigenous, minute, scattered, globose, black and immersed, $60-80\mu$ across; spores straight or slightly curved, cylindrical guttulate, 1—3-septate, $14-20 \times 1.5-2\mu$.

寄主及產地 *Actaea acuminata* Wall. ルキエウシヨウマ 葉

草河口 大正七年七月四日 三浦密成

分布 滿洲。

339. *Septoria jenissensis* Sacc. in Mich. 2, 114, 1880; Thümen, in Pilz. Sib. No. 815, 1880; Sacc. Syll. 3, 524, 1884; Allescher, in Rabh. Krypt. 6, 762, 1901;

寄主及産地 *Clematis manshurica* Rupr. タチセンニンサウ 葉

草河口 大正七年七月三日 三浦密成

奉天北陵 大正七年九月二十四日 三浦密成

鳳凰山 大正十年十月十六日 三浦密成

分布 西比利亞, 滿洲.

記事 *Clematis* 屬の葉を犯す *Septoria* 菌は數種知らるゝも何れも其被害斑點は灰色乃至灰白色をなすに本菌のものは黒褐色或は暗色を呈し黒色線を以て健全部と堺せられ直經 3-8 m.m. 位ありて圓形又は橢圓形をなすを以て他のものと區別し得べく *Septoria Clematidis* Rob. et Desm. と比するに其孢子小形にして *Septoria Clematidis-rectae* Sacc. 菌よりは孢子長きを以て區別するを得.

原記載によれば其孢子は一の隔膜ありて長さ 30-40 μ とせるに余の菌に於ては隔膜は三個にして孢子の長さも 60 μ に達するものあり.

340. *Septoria Ficariae* Desm. in Exs. No. 1087; Sacc. Syll. 3, 522, 1884; Allescher, in Rabh. Krypt. 6, 782, 1901; Diedicke, in Krypt. Brand. 9, 456, 1914; Migula, in Thome's Fl. Deutsch. Krypt. III. 4, 425, 1921; Oudemans, in Enum. 3, 157, 1921;

寄主及産地 *Ranunculus japonicus* Thnbn. キンバウゲ 葉

鳳凰山 大正十年十月十六日 三浦密成

分布 歐洲, 滿洲.

記事 吾人の菌は之れを *Septoria Ranunculacearum* Lev. 及び *Septoria Ranunculi* Westend. と比較するに其孢子短かきを以て直ちに區別することを得べく *Sept. cymbarariae* Thümen. と比するに

其胞子長し而して本菌胞子は Allescher, Diedicke 等によれば隔膜なしとの事なるも吾人の標本にては一乃至二個の隔膜を有する點異なる、余が本菌の手記を見るに “the spots circular or oval, dark brown or brownish gray in color with ashen gray colored part in its centre of the upper surface, surrounded by a darker line with which the discolored part is restricted from the healthy part, but on the under side, it is not so clear as in the case of the upper; pycnidia amphigenous, mostly epiphyllous, minute and scattered or somewhat aggregated, blackish, sphaerical with a short ostiole, immersed, 60-70 μ in diameter, spores filiform, straight or slightly curved to one side, narrowed to apex, 1-2-septate, hyaline, $25-30 \times 1.5-2 \mu$.” とありて *Sept. cymbarariae* Thümen よりも本菌に近きを以て上記の如く取扱ひたり。

- 341. *Septoria Trollii* Sacc. et Winter**, in Hedw. 180, 1883; Sacc. Syll. 522, 1884; Komarov, in Fg. Ross. exsicc. No. 345, 1900; Allescher, in Rabh. Krypt. 6, 870, 1901; Diedicke, in Krypt. Brand. 9, 518, 1914;

寄主及産地 *Trollius chinensis* Bge. キンバイサウ 葉
寧古塔 VII. 9. 1896. Komarov.

分布 歐洲, 滿洲。

記事 Komarov 氏は尙烏蘇利地方及びニコリスク附近に於ても採集し居るを以て滿洲の北部には普通なるものなるべきも余は未だこれを採集したることなし。

- 342. *Septoria potentillica* Thumen**, in Pilz. Sib. No. 627, 1880; Sacc. Syll. 3, 510, 1884; Allescher, in Rabh. Krypt. 6, 836, 1901;

寄主及産地 *Potentilla flagellaris* Willd. モミチキンバイ 葉

公主嶺 大正七年九月八日 三浦密成

公主嶺 大正十年七月八日 三浦密成

分布 西比利亞, 滿洲

記事 滿洲に於ては本菌は普通に見らるゝものゝ一にして余は未だ Thümen 氏の原標本の寄主たる *Potentilla fragarioides* 上に採集したることなきも其被害點の小形なること及び子殻が被害部に甚だ小數に生ずること等何等本菌と異なることなくたゞ胞子の幅は原記載には $2.5-3\mu$ とあるに余の標本は 2μ に過ぎざる點少しく異なり此點は却て *Septoria Tormentillae* Desm. et Rob. に似たるも同菌は被害部に多くの子殻を生じ胞子の隔壁の數も多きは六個に達し其長さも 55μ に達すとあるに吾人の菌は其隔壁なきか又は三個胞子の大きさも $28-37 \times 1.5-2\mu$ に過ぎず子殻の直径 $55-75\mu$ 位あり。

343. *Septoria Glycines* Hemmi, in Trans. Sapp. Nat. Hist. Soc. 6, 12, 1915; in Tran. Hokkaido Ag. Soc. 15, No. 4, 1915;

寄主及産地 *Glycine Soja* Benth. ダイヅ 葉

公主嶺 大正十一年六月二十九日 三浦密成

Azuki typica Miura. アヅキ 葉

蘆家屯 大正八年九月二十七日 三浦密成

公主嶺 大正八年六月二十四日 三浦密成

公主嶺 大正十年八月二十五日 三浦密成

分布 日本, 滿洲

記事 本菌は日本に於て始めて逸見武雄氏によりて記載せられしものにして滿洲に於ても日本と等しく大豆の初葉主として犯さ

るゝも甚だ奇なる現象は滿洲に於ては大豆の栽培面積甚だ多きに關はらず却て僅かに栽培せらるるアヅキに被害多きことにしてアヅキにありては初葉よりも寧ろ普通の葉が犯さるゝこと多く其害も存外大なるものあり。

344. *Septoria Viciae* West. in Exs. No. 1151; Sacc. Syll. 3, 509, 1884; Ailescher, in Rabh. Krypt. 6, 875, 1901; Diedicke, in Krypt. Brand. 9, 536, 1914; Oudemans, in Enum. 3, 990, 1921;

寄主及產地 *Vicia* sp. (? *amaena* Fisch.) 葉

興安嶺 大正十三年八月一日 三浦密成

分布 歐洲, 滿洲。

記事 本菌の子殻は Diedicke 氏によれば其徑 150-225 μ 高さ 75-90 μ ありとなせるに余の菌は其徑 100 μ 前後に過ぎず又其胞子の大さは Saccardo 氏に従へば 30-60 \times 2.5 μ とあるに余の標本にては 60-90 \times 5 μ ありて本菌記載と一致せざる點あり或は本菌とは異なるものにして新種となすべきものなるやも計り難きも其標本少なくして充分の調査をなし得ざるを以て今暫く本菌となし後日の研究をまつ。

345. *Septoria expansa* Niessl. in Hedw. 22, 15, 1883; Sacc. Syll. 3, 514, 1884; Schroeter, in Hedw. 29, 62, 1890; Migula, in Thome's Fl. Deutsch. Krypt. III. 4, 400, 1921; Oudemans, in Enum. 3, 996, 1921;

寄主及產地 *Geranium neparense* Sweet. フウロサウ 葉

哈爾賓 大正七年八月二十一日 三浦密成

分布 歐洲, 滿洲。

記事 フウロサウの葉に寄生する *Septoria* 菌にして本種の外に *Septoria Geranii* Rob. et Desm. なるものあるも其被害斑點部の縁邊に紫褐色の變色部を缺くと子殻の生ずる場所異なるを以て本菌と區別するを得。

346. *Septoria Ampelopsidis-heterophyllae* M. Miura, n. sp.

Spots angular, roundish or irregular in shape, at first brown, soon changes to grayish white from centre, margined by a deep brown colored line, thinner than the healthy part, scattered, 1-3 m.m. in diameter; pycnidia amphigenous, scattered, small, sphaeroidal without the ostiole, embedded, 100-130 μ across, black; spores cylindrical, curved strongly to one side, narrowed to apex, rounded at both ends, hyaline without oil drops, 1-3-septate, not constricted, $36-90 \times 2.5-3 \mu$.

寄主及產地 *Ampelopsis heterophylla* S. et Z. ノブダウ 葉

呂 黎	大正元年十月十八日	鈴木力治
奉天北陵	大正五年九月五日	宮部憲次
青 龍 山	大正五年九月七日	宮部憲次
青 龍 山	大正九年十月二日	三浦密成

分布 滿洲。

記事 從來知られたる *Septoria* 菌にしてブダウ, ノブダウの類に寄生するもの九種あるも其多くは孢子本菌より小なるを以て直ちに區別するを得べく *Septoria Allescheri* Sydow 菌の孢子は Diedicke 氏によれば $50-84 \times 1.2 \mu$ ありて其長さは本菌に稍近きも其幅は之れよりも甚だ狭く且つ隔膜なく其子殻は葉の上面に生じ甚だ小に

して(數字を示さず)變色部の直經 3.8 m.m. に達すと此等の點より考ふるに本菌は之れと異なること明らかにして更に吾人の菌と北米に産する *Septoria Ampelopsididis* Ellis. 菌と比較するに子殻は葉の兩面に生じ直經 80-110 μ あり胞子の幅 3-3.5 μ なるが故に兩者相似たるも其長さは 30-50 μ とあるを以て吾人の菌よりも甚だ短かきのみならず隔膜の數に於ても 4-8 とありて吾人の菌より遙かに多く且つ其變色部の有様之れと異なる即ち氏は “spots numerous, or otherwise irregular, limited by the veinelets of the leaf, subconfluent, greenish at first, becoming dark brown, occupying the greater part of the leaf, which becomes mottled with yellow.” とありて如何にするも此兩者を同一菌と認むる能はざるを以て之れを新種となせり。

347. *Septoria Violae* Westend. in Exs. fasc. 2, No. 94, 1841.

Thiimen, in Pilz. Sib. No. 620, 1880; Sacc. Syll. 3, 518, 1884
Hennings, in Engl. Bot. Jahrb. 29, 152, 1900; Allescher, in Rabh;
Krypt. 6, 876, 1901; I. Miyake, in Bot. Mag. Tokyo, 26, 61, 1921;
Davis, in Prov. List, 873, 1914; Diedicke, in Krypt. Brand, 9,
521, 1914; Sydow, in Ann. Myc. 12, 163, 1914; Migula, in
Thome's Fl. Deutsch. Krypt. III, 4, 438, 1921; Oudemans, in
Enum. 4, 82, 1923; K. Togashi, & N. Hisatsuka, in Trans. Sapp.
Ag. & Forest, 16, No. 68, 80, 1924; K. Togashi, in Jap. Jour.
Bot. 2, 96, 1924;

Syn. *Cheilaria Violae* Desm.

寄主及產地 *Viola chinensis* Don. var. *subsagittata* Nakai.

ヤハズスミレ

葉

旅 順	大正三年十月三十一日	近藤金吾
公主嶺	大正十年七月八日	三浦密成
土們嶺	大正七年八月十九日	三浦密成

分布 全世界。

348. *Septoria harbinensis* M. Miura, n. sp.

Spots circular, scattered, greenish, later becomes whitish gray from centre, thin, bordered by brownish line, 1-1.5 m.m. across; pycnidia amphigenous, solitary, minute, sphaeroidal with a short ostiole, black, 55-90 μ in diameter; spores filiform, curved, narrowed to apex, base roundish, 1-4-septate, hyaline, 40-55 \times 1.5-2 μ .

寄主及產地 *Viola chinensis* Don. var. *subsagitta* Nakai,

ヤハズスミレ 葉

哈爾賓 大正七年八月廿一日 三浦密成

分布 滿洲

記事 今日まで知られたるスミレ類を犯す *Septoria* 菌四種あり *Sept. Violae*, *Sept. hyalina*, *Sept. violicola* 及び *Sept. Violae-palustris* 之れなり然して本菌は *Sept. hyalina* 及び *Sept. Violae-palustris* 菌に似たる所あるも其孢子大なると子殻の兩面寄生性なるによりて直ちに之等と區別するを得べきを以て之れを新種となせり。

349. *Septoria Nambuana* P. Henn. in Hedw. 43, 145, 1904; in Engl. Bot. Jahrb. 34, 603, 1905; Sacc. Syll. 18, 389, 1906; Sydow, in Ann. Myc. 11, 116, 1913;

寄主及產地 *Lysimachia barystachys* Bge. ノチトラノヲ 葉

橋 頭 大正七年六月三十日

三浦密成

青龍山 大正七年九月十五日

三浦密成

分布 日本, 滿洲。

350. *Septoria barystachyiae* M. Miura, n. sp.

Spots circular, isolate, rarely confluent, brown, outer part circled with a dark purplish colored line by which the discolored spot is limited, 2-7 m.m. across; pycnidia amphigenous, minute, globose, immersed, ostiolate, black and scattered, 70-80 μ in diameter; spores filiform, hyaline, 3-7-septate, 35-80 \times 1.5-2 μ .

寄主及產地 *Lysimachia barystachys* Bge. ノヂトラノヲ 葉

吉 林 大正七年八月十七日

三浦密成

分布 滿洲。

記事 本菌と前種及び *Sept. Lysimachiae* 菌とを比するに本種の胞子は他の二者のものよりも甚だしく長きを以て異なりまた *Sept. Saccardoi* 菌の胞子は短かくして其子殻は葉の上面に生じ直徑 250-300 μ ありて本菌のものよりも甚だしく大なるを以て區別し得べし。

351. *Septoria Sydowii* P. Henn. et Sacc. in Syll. 14, 977. 1899

Hennings, in Engl. Bot. Jahrb. 28, 278, 1900;

Syn. *Septoria Symploci* Allersch, et Henn, (non Ellis et Mart.) in Hedw. 36, 242, 1897;

寄主及產地 *Palura paniculata* (Thunb.) Nakai, サハフタギ 葉

鳳凰山 大正十年十月十六日

三浦密成

分布 Brasil, 日本, 滿洲。

記事 本菌は始め Brasil に於て Glazion 氏之れを採集し Allescher, Hennings 兩氏は之れを *Septoria Symploci* Ellis. et Mart. 菌なりと鑑定せるものなるが後 Saccardo 氏は其別種なることを發見して上記の如き學名を與へたるものにして後日本に於ては白井氏之れを採集せり今滿洲産のものを見るに日本産のものに比して其變色部少しく大なるのみならず其子殻及び胞子も亦少しく大なり。

352. *Septoria Gentianae* Thümen, in Pilz. Sib. No. 118, 1877; Allescher, in Rabh. Krypt. 6, 787, 1091; Sydow, in Ann. Myc. 11, 116, 1913; Oudemans, in Enum. 4, 494. 1923; K. Togashi, & N. Hiratsuka, in Trans. Sapp. Ag. & Forest. 16. No. 68, 79, 1924;

寄主及產地 *Gentiana scabra* Bge. リンダウ 葉

熊岳城 大正八年九月廿五日 三浦密成

分布 西比利亞, 日本, 滿洲。

記事 本菌は西比利亞にて始めて採集せられしものにして原記載には葉の上面に子殻を生ずと記するも余の菌は葉の兩面に之れを生じ且つ變色斑點部は時に癒合して葉の半ば以上を變色せしむることあり然れども其胞子はリンダウ類を犯す本屬菌の他のものより幅廣きを以て吾人の菌は本種なること疑なし。

353. *Septoria microspora* Speg. in Nov. Add. No. 161; Sacc. Syll. 3, 541, 1884; allescher, in Rabh. Krypt. 6, 787, 1901; Sydow, in Ann. Myc. 11, 116, 1913;

寄主及產地 *Gentiana scabra* Bge. リンダウ 葉

草河口 大正七年七月三日

三浦密成

分布 歐洲, 日本, 滿洲。

記事 本菌はリンダウ屬に生ずる他の *Septoria* 菌に比して其子殻及び孢子小なると子殻が葉の裏面に生ずるを以て異なる

- 354. *Septoria Convolvuli* Desm.** in Ann. Sc. Nat. 17, 108, 1842;
 Sacc. Syll. 3, 536, 1884; Allescher, in Rabh. Krypt. 6, 764, 90;
 Sydow, in Ann. Myc. 11, 115, 1913; Davis, in Prov. List. 874,
 1914; Diedicke, in Krypt. Brand. 9, 446; Oudemans, in Enum.
 4, 524, 1923; K. Togashi, in Jap. Jour. Bot. 2, 96, 1924;

Syn. *Septoria fuscella* Berk. in Curr. Simpl. Sphaer. No. 396;

寄主及産地 *Calystegia hederacea* Wall. コヒルガホ 葉

公主嶺 大正五年七月十五日 宮部憲次

Calystegia Soldanella R. Br. ハマヒルガホ 葉

Calystegia sp. (? *sepium* R. Br.) 葉

星ヶ浦 大正七年六月九日 三浦密成

分布 歐洲, 米國, 日本, 滿洲。

355. *Septoria Plectranthi* M. Miura, n. sp.

Spots circular or irregular, scattered or confluent, at first brown, soon white in centre and margined, $\frac{1}{2}$ –3 m.m. across: pycnidia epiphyllous, small, globose, slightly depressed, brownish black, irregularly scattered or somewhat concentrically arranged on the white part, 65–110 μ in diameter; spores cylindrical, curved, broad to base, guttulate 1–5-septate, hyaline, $25\text{--}90 \times 2\ \mu$, generally 35–43 μ long.

寄主及産地 *Plectranthus glaucocalyx* Max. ヒキオコシ 葉

青龍山 大正七年六月廿七日 三浦密成

分布 満洲。

記事 本菌は *Septoria Brunellae* に近似するも胞子無色にして變色部白色なるを以て異なる。

356. *Septoria Lycopersici* Speg. in Fg. Argent. Pug. 4, No. 289 ;

Sacc. Syll. 3. 535. 1884 ; Allescher, in Rahb. Krypt. 6, 858, 1901 ;

Stevens, in Fg. w. c. pl. dis. 521. 1913 ; Davis, in Prov. List,

875, 1914 ; Oudemans, in Enum. 4, 625 1923 ;

寄主及産地 *Solanum Lycopersicum* L. トマト 葉

奉天 大正五年九月五日 宮部憲次

公主嶺 大正五年八月五日 宮部憲次

公主嶺 大正七年七月十一日 三浦密成

公主嶺 大正十年八月三日 三浦密成

大連 昭和二年八月五日 三浦密成

分布 全世界。

記事 本菌は蕃茄の葉を犯して斑點病を起さしむる病原菌にして犯されたる葉は早く落葉するを以て恐るべき病害の一にして被害甚だしきときは其果實の熟期に近く葉は枯れ爲めに殆んど收穫皆無となることあり其豫防としては Pritchard 及び Clark 氏の實驗によれば適期のボルドー合劑撒布は其九十%まで有効なりとし本病菌は甲蟲類青蟲類及び蚜虫によりて菌胞子運搬せらるゝこと多きは Martin 氏の實驗せる所なるを以て此等蟲類の豫防驅除は間接に本病の豫防驅除に大なる効果ありまた本菌は獨り蕃茄のみなら

す茄子、其他茄子科植物の雑草類の葉をも犯すを以てかゝる雑草を除くことはまた本病菌の傳播を防ぐの一方法なりとは Pritchard 及び Porte 兩氏の説く所にして兩氏は尙蕃茄の組織細胞質が酸性に富むときは本菌に犯され難きことを實驗し相當量の磷酸質肥料の加用を説けり。

- 357. Septoria Dulcamarae Desm.** in Ann. Sc. Nat. 15, 135, 1841; Sacc. Syll. 3, 535, 1884; Allescher, in Rabh. Krypt. 6, 858, 1901; Diedicke, in Krypt. Brand. 9, 511, 1914; Migula, in Thome's Fl. Deutsch. Krypt. III. 4, 432, 1921; Oudemans, in Enum. 4, 630, 1923;

寄主及産地 *Solanum Dulcamara* L. ヒヨドリジョウゴ 葉
奉天 大正五年九月五日 宮部憲次

分布 歐洲、滿洲。

記事 本菌は恐らく日本にも分布するものなるべく其近似種なる *Sept. solanophila* とは胞子の幅狭きを以て區別せられ *Sept. solanicoia* 及び *Sept. Solani-nigri* とは胞子長きを以て別たる。

- 358. Septoria Melampyri Strass.** in Verh. K.K. zool. bot. Ges. Wien, 40, 316, 1910; Sacc. Syll. 22, 1109, 1913; Migula, in Thome's Fl. Deutsch. Krypt. III. 4, 412, 1921; Oudemans, in Enum. 4, 709, 1923;

寄主及産地 *Melampyrum roseum* Max. ツシマアマコナ 葉
吉林 大正十二年九月十九日 三浦密成

分布 歐洲、(奧太利) 滿洲。

す茄子,其他茄子科植物の雑草類の葉をも犯すを以てかゝる雑草を除くことはまた本病菌の傳播を防ぐの一方法なりとは Pritchard 及び Porte 兩氏の説く所にして兩氏は尙蕃茄の組織細胞質が酸性に富むときは本菌に犯され難きことを實驗し相當量の磷酸質肥料の加用を説けり。

- 357. *Septoria Dulcamarae* Desm.** in Ann. Sc. Nat. 15, 135, 1841;
Sacc. Syll. 3, 535, 1884; Allescher, in Rabh. Krypt. 6, 858, 1901;
Diedicke, in Krypt. Brand, 9, 511, 1914; Migula, in Thome's Fl.
Deutsch. Krypt. III. 4, 432, 1921; Oudemans, in Enum. 4, 630,
1923;

寄主及産地 *Solanum Dulcamara* L. ヒヨドリジョウゴ 葉
奉天 大正五年九月五日 宮部憲次

分布 歐洲, 滿洲。

記事 本菌は恐らく日本にも分布するものなるべく其近似種なる *Sept. solanophila* とは胞子の幅狭きを以て區別せられ *Sept. solanicoia* 及び *Sept. Solani-nigri* とは胞子長きを以て別たる。

- 358. *Septoria Melampyri* Strass.** in Verh. K. K. zool. bot. Ges.
Wien, 40, 316, 1910; Sacc. Syll. 22, 1109, 1913; Migula, in
Thome's Fl. Deutsch. Krypt. III. 4, 412, 1921; Oudemans, in
Enum. 4, 709, 1923;

寄主及産地 *Melampyrum roseum* Max. ツシマヤマコナ 葉
吉林 大正十二年九月十九日 三浦密成

分布 歐洲, (奧太利) 滿洲。

記事 本菌の原記載によれば其子殻の直径 $60-70\mu$ とあるに吾人のものは $80-100\mu$ に達し其胞子は隔膜を有せずとあるも満洲の標本にては一乃至三個の隔膜を明らかに認め得。

359. *Septoria Lonicerae-Maackii* M. Miura, n. sp.

(第六圖版 M.) 参照

Spots circular, scattered, but rarely elliptical and confluent, gray white, circled by a black line, thin, $\frac{1}{3}-1.5$ m.m. across; pycnidia epiphyllous, scattered, generally 1-4 in number on a spot, medium in size, immersed, ostiolate, globose, black, about 160μ across; spores cylindrical, straight or slightly curved, narrowed to apex, guttulate, 1-4-septate, light greenish or almost hyaline, $39-54 \times 3.5-4\mu$.

寄主及産地 *Lonicera Maackii* Rupr. ハナヘウタンボク 栗

奉天北陵 大正元年九月十一日 鈴木力治

奉天北陵 大正七年九月二十四日 三浦密成

分布 満洲。

記事 今日まで知られたる忍冬科植物に生ずる *Septoria* 菌は其數九種あるも何れも本菌に比し其被害變色部大にして胞子は其幅狭く *Septoria obscurata* 菌は其幅は本菌に等しきも長さ三分の一にも達せず従つて胞子の形ち異なり遂に本菌に一致するものを見ざるが故に之れを新種とせり。

360. *Septoria Patriniae* M. Miura, n. sp.

Spots angular in general, sometimes circular to elliptic, confluent or scattered, small, about 2 m.m. diam., at first brown, later grayish

or grayish white, circled by a purplish colored line and its outer part gently faint; pycnidia epiphyllous, minute, globose, immersed, ostiolate, black and scattered, $50-70\mu$ in diameter; spores filiform, straight or curved, hyaline, 1-3-septate, $1530 \times 1-1.5\mu$

寄主及産地 *Patrinia villosa* Juss. フトコヘシ 葉

土們嶺 大正七年八月十九日 三浦密成

草河口 大正七年九月二十五日 三浦密成

鳳凰山 大正七年九月二十九日 三浦密成

分布 滿洲。 -

記事 現今知られたる敗醬科植物を犯す *Septoria* 菌としては *S. Valerianae* Sacc. et Fauter. 菌一種あるのみなるも其孢子短かきと單胞なるを以て本菌と區別するを得。

361. *Septoria Platycodonis* Sydow, in Ann. Myc. 11, 116, 1913;

寄主及産地 *Platycodon glaucum* Nakai. キキヤウ 葉

熊岳城青龍山 大正七年九月十五日 三浦密成

大連 昭和二年十月三日 三浦密成

分布 日本, 滿洲。

記事 本菌の基本標本は余が曾て青森縣に於て栽培せるキキヤウの葉上に採集して Sydow 父子に送りたるものなるが滿洲に於ては同菌を野生キキヤウの葉上に發見せり。

Sydow 父子は其子殻は葉の上面に生じ孢子の長さ $35-55 \times 1.5-2\mu$ ありとせるも余が基本標本に於ては子殻は葉の兩面に生じ孢子の長さ $35-68 \times 2.3.5\mu$ ありて *Septoria Adenophorae* Thümen 菌に近似すと雖も孢子狭くして長く且つ變色部の縁邊に暗紫色の線なきを以て之れと區別することを得。

362. *Septoria Adenophorae* Thümen, in Pilz. Sib. No. 449, 1878;

Sacc. Syll. 3, 545, 1884; Oudemans, in Enum. 4, 897, 1923;

寄主及産地 *Adenophora verticillata* Fisch.

ツリガネニンジン 葉

興安嶺 大正十二年七月

三浦密成

分布 西比利亞, 滿洲。

記事 余の標本は原記載と比較するに其胞子は少しく狭くして $45-50 \times 2-3 \mu$ あり(原記載には $42-48 \times 4 \mu$ とあり)子殻は孔口を有し直徑 170μ に達す。

363. *Septoria Artemisiae* Pass, in Fg. Farm. Sept. No. 73, 1871;

Sacc. Syll. 3, 548, 1884; Allescher, in Rabh. Krypt. 6, 734, 1901;

Oudemans, in Enum. 4, 881, 1923;

寄主及産地 *Artemisia vulgaris* L.

ヨモギ 葉

吉林 大正十二年九月十八日

三浦密成

分布 歐洲, 滿洲。

記事 本菌は *Septoria fusca* よりも胞子短かく *Septoria Artemisiae-japonicae* Togashi 菌よりは胞子非常に短かくして幅狭きを以て區別することを得。

364. *Septoria piriformis* M. Miura, n. sp.

Spots irregularly angular in consequence of limitance of veinlets, restricted, 5-8 m.m. across, dark gray, and the undersurface the spot is circled by a violetish colored line; pycnidia hypophyllous, scattered, small, embedded, roundish with a wide, long ostiole and it

appears as a pear form, 50-70 μ in diameter, 100-135 μ in height including the ostiole, brownish black; spores filiform, curved, hyaline, slightly broader to the base, 2-3-septate, 35-60 \times 1.5-2 μ .

寄主及産地 Aster scaber Thmb. シラヤマギク 葉

興安嶺 大正十二年七月 三浦密成

分布 満洲。

記事 本菌は *Septoria atro-purpurea* Peck. とは其差甚だしくして殆んど論ずるの要なく本菌の孔口は能く發達するを以て他の菊科植物寄生の *Septoria* 菌と直ちに區別し得べし。

365. *Septoria Callistephi* Gloyer, in Phytopath. 11, 50, 1921; K.

Togashi, in Bull. Imp. Coll. Ag. and Forest. Morioka, 9, 26, 1924;

Nakamura, H. in Jour. Pl. Protect. 13, No. 1926;

寄主及産地 *Callistephus chinensis* Nees. エソギク 葉

大 連 大正二年九月九日 鈴木力次

長 春 大正五年七月三十一日 宮部憲次

公主嶺 大正五年八月二日 宮部憲治

公主嶺 大正七年八月十四日 三浦密成

公主嶺 大正十年九月七日 三浦密成

大 連 昭和二年八月十二日 三浦密成

分布 北米, 日本, 満洲。

記事 本菌はエソギクの葉を犯して斑點病を起さしむるものにして其斑點の直徑 3-15 m. m. に達し六月中旬既に被害を見其甚だしく害せられたるものは七月上旬には全部落葉を來たすことあり然らざるも甚だしく衰弱し雨期に入りて僅かに回復の狀を示す而

して野生のエゾギクは本菌に對する抵抗力強きが如し

本菌は *Septoria Chrysanthemi-indici* よりも子殻小形 *Sept. Chrysanthemi-rotundifolii* よりも子殻小にして胞子短かく *Sept. chrysanthemiella* Sacc. と *Septoria Chrysanthemi Allescher* 菌との中間の性質を示す即ち其被害部の狀は前者に似て胞子は後者に近し

366. *Septoria mandshurica* M. Miura, n. sp.

(第六圖版 N.) 参照

Spots circular or irregular, brown or dark brown, scattered, margined, 4-8 m. m. across; pycnidia amphigenous, scattered, globose, immersed, black, 65-90 μ in diameter; spores cylindrical, straight or slightly curved, 3-4-septate, guttulate, hyaline and gently narrowed to apex, 32-40 \times 3.5-4 μ .

寄主及產地 *Chrysanthemum boreale* Makino. アブラギク 葉

奉天北陵 大正元年九月十一日 鈴木力治

奉天北陵 大正七年九月二十四日 三浦密成

分布 滿洲。

記事 本菌は *Sept. Chrysanthemi-indici* よりも胞子短かく *Sept. chrysanthemiella* Sacc., *Sept. Rostrupi* 及び *Sept. Chrysanthemi* 等と比較するに其胞子短かくして幅廣く且つ子囊は葉の兩面に生ずる點を異なりとす。

367 *Septoria Cirsii* Niessl, in Möhr. Crypt. fl. 2, 36, 1864; Thümen, in Pilz. Sib. No. 964, 1881; Sacc. Syll. 3, 550, 1884; Allescher, in Rabh. Krypt. 6, 758, 1901; I. Miyke, in Bot. Mag. Tokyo. 26, 61.

1912; Davis, in Prov. List. 878, 1914; Diedicke, in Krypt. Brand. 9, 443, 1914; Migula, in Thome's Fl. Deutsch. Krypt. III. 4, 390, 1921; Oudemans, in Enum. 4, 1074, 1923;

寄主及産地 *Cirsium arvense* (L.) Scop.

エゾキツネアザミ 葉

公主嶺 大正七年十月十日 三浦密成

公主嶺 大正十年八月四日 三浦密成

Cirsium sp. 葉

奉天北陵 大正七年九月二十四日 三浦密成

分布 歐洲, 北米, 北清, 滿洲。

368. *Septoria Lactucae* Pass. in Atti Crittog. Ital. 2, 35, 1879; Sacc. Syll. 3, 551, 1884; Allescher, in Rabh. Krypt. 6, 800, 1901; Diedicke, in Krypt. Brand. 9, 475, 1914; Migula, in Thome's Deutsch. Krypt. III. 4, 406, 1921; Oudemans, in Enum. 4, 1141, 1923;

寄主及産地 *Lactuca sativa* L. チンヤ 葉

公主嶺 大正十年八月二日 三浦密成

分布 歐洲, 滿洲。

記事 本菌の原記載によれば其胞子は隔膜なしとあるも余の標本にては2-4の隔膜を有し又原記載には子殻の色を黒色なりとせるに Allescher 氏は褐色なりとせるが滿洲産のものは肉眼にて之れを見るときは黒色に見ゆるも顯微鏡下にては黒褐色に見ゆ。

369. *Septoria Mougeotii* Sacc. et Roum. in Relig. Libert. 4, No. 151, 1884; Sacc. Syll. 3, 553, 1884; Allescher, in Rabh. Krypt.

6. 793, 1901; Diedicke, in Krypt. Brand. 9, 470, 1914; Migula, in Thorne's Fl. Deutsch. Krypt. III. 4, 403, 1921;

寄主及産地 *Picris japonica* Thunb. カウゾリナ 葉

公主嶺 大正七年九月八日 三浦密成

分布 歐洲, 滿洲。

370. *Septoria Saussureae* Thumen, in Pilz. Sib. No. 633, 1880; Sacc. Syll. 3, 547, 1884; Oudemans, in Enum. 4, 1104, 1923;

寄主及産地 *Saussurea salicifolia* DC. 葉

公主嶺 大正七年八月十四日 三浦密成

公主嶺 大正八年九月八日 三浦密成

分布 西比利亞, 滿洲。

371. *Septoria sonchina* Thümen, in Pilz. Sib. No. 634, 1880; Sacc. Syll. 3, 552, 1884; Allescher, in Rabh. Krypt. 6, 860, 1901; Oudemans, in Enum. 4, 1168, 1923; K. Togashi, in Jap. Jour. Bot. 2, 96, 1924;

寄主及産地 *Sonchus arvensis*, *uliginosus*, ハチジャウナ 葉

公主嶺 大正七年九月八日 三浦密成

熊岳城 大正八年十月三十日 三浦密成

分布 西比利亞, 日本, 滿洲。

記事 本菌は *Sept. Sonchi* Sacc. 及び *S. sonchicola* Cooke の兩菌のものよりも其胞子長く *S. sonchicola* Hollos. 菌よりも胞子短かきを以て區別し得。

372. *Septoria taraxacicola* M. Miura, n. sp.

Syn, *Septoria Taraxaci* Sydow, in Ann. Myc. 11, 116, 1913;

寄主及産地 *Taraxacum officinale* L. タンポポ 葉

公主嶺 大正七年七月十九日 三浦密成

公主嶺 大正九年七月 三浦密成

公主嶺 大正九年七月八日 三浦密成

分布 日本, 滿洲.

記事 本種は余が會て青森縣にて採集せるものを檢して Sydow 父子は新種となし *Septoria Taraxaci* なる學名を與へたるが其學名は先きに Hollos 氏が 1907 年 ハンガリヤより得たる菌に與へたる名にして然かも此兩者は全く異なる菌なるを以て學名の變更を必要とするに至れるを以て上記の如く命ぜり.

Rhabdospora Montaigne.

本屬は *Septoria* と等しくして寄主の葉以外に寄生するものにして其 *Septoria* との關係は恰も *Phyllosticta* と *Phoma* の關係の如きものなり Lindau 氏によれば世界に百八十種以上ありと滿洲に一種を見る。

373. *Rhabdospora umbrosa* Boum., in Rouss. et Sacc. Contrib. Myc.

Belg. 4, 289; Sacc. Syll. 10, 396, 1892; Allescher, in Rabh. Krypt. 6, 917, 1901; Oudemans, in Enum. 1, 1177, 1919;

寄主及産地 *Polygonatum sibiricum* Red.

カギナルコユリ 莖

千山 大正五年十月四日 宮部憲次

分布 歐洲, 滿洲.

Phleospra Wallroth.

本属は *Septoria* の如くにして子殻不完全なり世界に大凡二十五種満洲に一種を見る。

374. Phleospora microspora M. Miura, n. sp.

(第六圖版 A. 参照)

Spots angular in consequence of the limitance of veinelets, isolate, rarely confluent, clearly limited, dark brown, 2-5 m.m. across; pyrenidia epiphyllous, scattered, wall brown and thin (1-2 laws of cells) and about $90 \times 45 \mu$; spores ellipsoidal or oblong-ellipsoidal, often slightly curved and comma shaped, rounded at one end and somewhat pointed at another end, guttulate, 0-3-septate, not constricted at the septum, hyaline, $9-14 \times 3.5-4 \mu$.

寄主及産地 *Malus mandshuricus* Schneid. マンシウズミ 葉

奉天北陵

大正七年九月二十四日

三浦密成

分布 満洲。

記事 本種は他の本属のものより其胞子著しく短かきを以て直ちに區別するを得べし。

(□) Leptostromataceae.

本科は更に七亞科に分たれ満洲にては *Leptostromataceae-Hyalosporae* 中の *Melasmia* 属のもの知らるゝのみ。

Melasmia Léviellé.

375. Melasmia ulmicola B. et C. in North Amer. Fg. No. 438; Sacc. Syll. 3. 638. 1884; Miyake, in Bot. Mag. Tokyo, 27, 51. 1913;

寄主及産地 *Ulmus pumula* L.

ノニレ 葉

橋頭

大正七年六月三十日

三浦密成

分布 歐洲, 米國, 日本, 滿洲。

記事 本菌屬の子囊時代は *Rhytisma* 屬に入るものにして本菌は子坐を形成し其内に子殻藏せられ胞子は甚だ小にして長橢圓形をなし擔子梗は比較的發達す。

376. *Melasmia Lonicerae* Jacz. in Kom. Fg. Ross. exsic. No. 346, 1900;

寄主及産地 *Lonicera Maackii* Rupr. ハナヘウタンボク 葉

吉林省 Omoso, Voge-dschan, X. 2. 1896. Komarov.

分布 滿洲。

記事 本菌は Komarov 氏が上記の外 Amur 州 Bureja 地方にて *Lonicera Maximowiczii* の葉上にも採集せるものにして北滿地方に普通なるものゝ如く原記載は次の如し。

“*Stromatibus epiphyllis nigris, confluentibus, maculas nigras plus minusve suborbiculares pustulosas efficientibus, rugurosis, intus albidis, loculis stylosporiferis astomis basi hyphis sporiferis filiformibus vestitis; stylosporibus hyalinis rectis, cylindraceis, 5-6.1 μ .*”

t. *Melanconiales*. (黒粉菌族)

本族のものは眞の子殻を缺き胞子層を形成す此胞子層は寄主の表皮下に形成せらるゝも後多くは之れを破りて胞子を出す *Melanconiaceae* (黒粉菌科) 一科あるのみ而して更に *Hyalospore*, *Phaeosporae*, *Hyalodidymae*, *Phaeodidymae*, *Hyalophragmae*, *Phaeophragmae*, *Phaeo-*

dictyae, Scolecosporae, Staurosporae. に分たるゝこと Sphaeropsidiaceae の場合に等しと雖も余は更に一新亞科 Ramulisporae を加へり。

(い) Melanconiaceae-Hyalosporae.

本亞科の胞子は單胞よりなり無色又は稀に淡色を呈し球形乃至長楕圓形をなす、十三屬に分たれ滿洲には次の二屬を發見す。

屬 の 檢 索 表

胞子層は剛毛を缺く	Gloeosporium
胞子層は剛毛を有す	Colletotrichum

Gloeosporium Desm. et Mont.

胞子層は表皮下に形成せられ成熟すれば之を破りて外部に現はれ擔子梗は針狀をなす其子囊時代は Glomerella, Pseudopeziza, Gnomoniella, Gnomonia, Trochia, Physalospora, Calospora 等に屬するものにして世界に三百種以上存すと稱せられ滿洲に二種を見る。

377. *Gloeosporium Quercuum* M. Miura, n. sp.

Spots circular and scattered, but rarely confluent and irregular in shape, brown, restricted with or without a darker line from the healthy part, thin, 3-7 m.m. across; acervuli hypophyllous, roundish, vomiei-form, scattered or aggregate, brown, early naked, $\frac{1}{2}$ - $\frac{1}{3}$ m.m. diameter; spores oblong, rounded at the base, slightly narrowed and bluntery pointed at the apex, or rounded at both ends, slightly curved to one side, one oil drop in the middle part, hyaline, granular, $10-22 \times 3-4 \mu$; conidiophores short, straight unbranched, hyaline, $10 \times 2 \mu$.

寄主 產地 *Quercus mongolica* Fisch. モウコナラ 葉
鳳凰山 大正十年十月十六日 三浦密成

分布 満洲。

記事 今日まで知られたるナラ類を犯す *Gloeosporium* 菌は *G. quercinum*, *G. umbrinellum*, 及び *G. Gallarum* なるが何れも其胞子の大きき油滴の數並に擔子梗の長さ等皆本菌と異なる。

明治三十二年白井光太郎氏は日本伊勢にてコナラの葉上に一種の *Gloeosporium* 菌を採集せるが Sydow 氏は之れを新種となし *Gloeosporium Shiraianum* Sydow として發表し余は白井氏の厚意により基本標本の一部の分與を受け本菌と比較研究するの便を得たるが兩者間の差は次の如し

	<i>G. Shiraianum.</i>	present species.
Spot.	circular, shiny brownish white in color,	circular, brown.
Border	dull pale brownish.	commonly absent.
Position of acervuli	epiphyllous.	hypophyllous.
Spores	24-30 × 6-8 μ .	10-22.3 × 4 μ

以上の如き異點あるを以て此兩者を同一菌と認むること困難なるが故に余は本菌を以て新種と認め上記の學名を附せり。

378. *Gloeosporium ampelophagum* (Pass.) Sacc. in Mich. 1, 217, 1880; in Syll. Fung. 3, 716, 1884; Allescher, in Rabh. Krypt. 7, 508, 1903; Duggar, in Dis. pl. 332, 1909; Ideta, in Handb. 661, 1911; Allescher, in Rabh. Krypt. 7, 508, 1903; Diedick, in Krypt. Brand. 9, 791, 1914;

Syn. *Ramularia ampelophaga* Pass. in Nebb. Mosc. 1878 ;

Manginia ampelina Viala et Pacottet.

Sphaceroma ampelina De Bary, Galloway, in Jour. Myc. 6, 99,
1891 ; Clinton, in Conn. Ag. ex. St. Rpt. 323, 1903 ; Longyear, in
Fg. dis. of fruits in Michigan, 1904 ; K. Hara, in Fg. east. Asia,
43, 1928 ;

寄主及産地 *Vitis vinifera* L.

ブドウ 葉

哈爾賓 大正十五年九月

原 攝祐

分布 全世界。

記事 本菌は葡萄の葉、莖を犯して痘瘡病を起さしむるものにして海外にありては甚被害甚だしきも満洲に於ては余は未だ本菌を發見せず原攝祐氏は哈爾賓に於て之れを採集せりと稱す恐らく南滿地方にも發生するものなるべきも余の見る處にては却て黒腐病の發生して害を與ふること多きが如し。

378b. Gloeosporium Kawakamii Miyabe, in Kawakami, Hexeb.

Paulownia, 1902 ; A. Ideta, in Handb. 683, 1911 : Sacc. Syll. 22,
1183, 1905 ;

寄主及産地 *Paulownia tomentosa* Steud,

キリ 葉

大 連 昭和三年六月

三浦密成

分布 日本、滿洲。

記事 本菌はキリの葉を犯して天狗巢病を起さしめ大害を與ふるものにして滿洲に於ける少數の栽培桐に既に本病の發生を見るは將來桐栽培上注意すべきことなり。

Colletotrichum Corda.

本屬は *Gloeosporium* の如くにして孢子層中に剛毛を有するを以

て異なる其子囊時代は *Glomerella*, *Pseudopeziza* の一部に屬す、世界に大凡八十種ありと稱せられ滿洲に二種を見る。

本屬菌の純粹培養を行へば其或ものは剛毛を生ぜざることあるは多くの學者の認る所にして一般に此兩屬は甚だ近似したるものと信ぜられ學者によりては兩者は全く同一菌なりとするものあり。

379. *Colletorichum Lindemnathianum* (S. et M.) Br. et Cav. in Funghi Parass. No. 50; Stoneman, in Bot. Gaz. 26, 1898; Tubeuf, in Fg. dis. pl. 486, 1897; Clinton, in Conn. Ag. ex. St. 308, 1903; Sorauer, in Handb. 2, 426, 1908; Massee, in Pl. dis. 289, 1910; A. Ideta, in Handb. 688, 1911; Stevens, in Fg. w. c. pl. dis. 547, 1913; Sacc. Syll. 19, 773, 19;

Syn. *Gloeosporium Lindemnathianum* Sacc. et Mag. in Mich. 1, 129, 1879; in Syll. 3, 717, 1884; Allescher, in Rabh. Krypt. 7, 488, 1903; Diedicke, in Krypt. Brand. 9, 781, 1914; Migula, in Thome's Fl. Deutsch. Krypt. III. 4, 534, 1921; Oudemans, in Enum. 3, 966, 1921;

Colletotrichum Lindemnathianum (S. et M.) Scribner, in U. S. Dept. Ag. Rpt. Veg. Path. 1887; Duggar, in Pl. dis. 322, 1909;

寄主及產地 *Pisum sativum* L.

エンドウ

英

公主嶺

大正七年七月十四日

三浦密成

分布 全世界。

記事 本菌は菜豆類を犯して斑紋病を起すものにして時に大なる害を與ふることあり出田氏は詳細なる記事をなしあるを以て之れを略す。

380. Colletorichum Lagenarium (Pass.) Ell. et Halst. in New Jersey Ag. Coll. ex. St. Rpt. Bot. Dept. 283, 1895; Stoneman, in Bot. Gaz. 26, 1898; Clinton, in Conn. Ag. ex. St. Rpt. 369, 1903; Duggar, in Pl. dis. 330, 1609; A. Ideta, in Handb. 691, 1911; Stevens, in Fg. w. c. pl. dis. 948, 1913; Sacc. Syll. 19, 773;

Syn. *Fusarium lagenarium* Pass. in Erb. Critt. ital. 2. No. 148, 1879;

Gloeosporium lagenarium (Pass.) Sacc. et Roum. in Rev. Myc. 201, 1880; Sacc. Syll. 3. 719, 1884; Allescher, in Rabh. Krypt. 7, 469, 1903; Diedicke, in Krypt. Brand. 9, 817, 1914; Oudemans, in Enum. 4, 882, 1923;

Fusarium reticulatum Mont. in Ann. Sc. Nat. Bot. II. 20, 379, 1836;

Gloeosporium reticulatum Roum. in Rev. Myc. 2, 1880;

寄主及產地 *Lagenaria vulgaris* Ser. ユウガホ 果

得利寺 大正十一年七月二十日 三浦密成

分布 全世界。

記事 本菌は滿洲に於ては本寄主の外甜瓜西瓜等を犯すものにして其被害少なからず之れまた出田氏の書に詳記しあるを以て略す。

本菌の學名は Ellis et Halsted 兩氏は Saccardo 及び Roum. 氏の *Gloeosporium lagenarium* とせるものを變更したるものにして Sacc. et Roum. 兩氏は Passerini 氏が *Fusarium lagenarium* とせるものより種名を採用せること明らかなるが一方に於て Montagne 氏は同

380. Colletorichum Lagenarium (Pass.) Ell. et Halst. in New Jersey Ag. Coll. ex. St. Rpt. Bot. Dept. 283, 1895; Stoneman, in Bot. Gaz. 26, 1898; Clinton, in Conn. Ag. ex. St. Rpt. 369, 1903; Duggar, in Pl. dis. 330, 1909; A. Ideta, in Handb. 691, 1911; Stevens, in Fg. w. c. pl. dis. 948, 1913; Sacc. Syll. 19, 773;

Syn. *Fusarium lagenarium* Pass. in Erb. Critt. ital. 2, No. 148, 1879;

Gloeosporium lagenarium (Pass.) Sacc. et Roum. in Rev. Myc. 201, 1880; Sacc. Syll. 3. 719, 1884; Allescher, in Rabh. Krypt. 7, 469, 1903; Diedicke, in Krypt. Brand. 9, 817, 1914; Oudemans, in Enum. 4, 882, 1923;

Fusarium reticulatum Mont. in Ann. Sc. Nat. Bot. II. 20, 379, 1836;

Gloeosporium reticulatum Roum. in Rev. Myc. 2, 1880;

寄主及産地 *Lagenaria vulgaris* Ser. ユウガホ 果

得利寺 大正十一年七月二十日 三浦密成

分布 全世界。

記事 本菌は満洲に於ては本寄主の外甜瓜西瓜等を犯すものにして其被害少なからず之れまた出田氏の書に詳記しあるを以て略す。

本菌の學名は Ellis et Halsted 兩氏は Saccardo 及び Roum. 氏の *Gloeosporium lagenarium* とせるものを變更したるものにして Sacc. et Roum. 兩氏は Passerini 氏が *Fusarium lagenarium* とせるものより種名を採用せること明らかなるが一方に於て Montagne 氏は同

一菌に *Fusarium reticulatum* なる名を與へ Roum. 氏は之れを *Gloeosporium* 屬に編入し然かも Montagne 氏の命ぜるは 1836 年にして Passerini 氏のものは 1879 年なるが故に先命權によりて Montagne 氏によるべきものなれば本菌の學名は上記せるものよりは *Colletotrichum reticulatum* (Mont.) となすを正常なりと信するも今暫く先哲の説に従ふ。

(ろ) *Melanconiaceae-Hyalodidymae.*

胞子は無色にして二胞よりなり卵形又は紡錘狀をなす三屬に分たれ滿洲にては *Marssonina* の一屬あり。

Marssonina Magnus.

菌層は球狀圓盤形にして胞子は卵形又は長楕圓形をなし其子囊時代は *Gnomonia*, *Trochila*, *Pseudopeziza* 菌等の一部をなす世界に大凡七十五種滿洲に二種を見る。

381. *Marssonina populicola* M. Miura, n. sp.

(第六圖版 B.) 参照

Spots brown, angular in consequence of limitance of veinlets, scattered or confluent, 1 m.m. to a considerable areas are occupied; acervuli hypophyllous, whitish, under the cuticle, small, circular in general, 200–230 μ across; spores oblong, oblong-ellipsoidal, comma shaped, one end rounded and the other end somewhat bluntery pointed, 1-septate, not constricted, guttulate, lower cell smaller than that of the upper one, hyaline, 16–21 \times 6–7 μ .

寄主及産地 *Populus laurifolia* Ldeb. テリハドロ 葉
 公主嶺 大正七年八月六日 三浦密成

分布 満洲。

記事 從來知られたる本屬菌にしてドロ類を犯すものは *M. Populi*; *M. populina*; *M. piriformis*; *M. Castagnei*; *M. Castagnei* var. *Moniliferae*. の五種なるも吾人の菌は葉の裏面に寄生すると胞子が隔膜の處に於て縊れざるを異なりとす而して其被害葉は七月下旬には既に落葉を來たし八月中旬頃には殆んど全部の落葉をなし兩三年被害繼續すれば遂に枯死するに至るを以て造林上甚だ恐るべき病害の一なり。

382. *Marssonina Mali* (Henn.) Ito, in Bot. Mag. Tokyo, 32, 206, 1918; K. Hara, in Fg. eastern Asia, 42, 1928;

Syn. *Marssonina Mali* P. Henn. in Engl. Bot. Jahrb. 37, 164, 1905;

I. Miyake, in Bot. Mag. Tokyo, 21, 49, 1907; Sacc. Syll. 22, 1211.

1918; M. Miura, in Fg. dis of Apples & apple-trees, 87, 1917;

Oudemans, in Enum. 3, 473, 1921; K. Nakata, in List of fung.

Korea, 114, 1928;

寄主及産地 *Malus domestica* Borkh. リンゴ 葉

熊岳城 大正七年九月三十日 三浦密成

三十里堡 大正八年十月二日 三浦密成

大連 大正八年十月五日 三浦密成

族順 大正十年九月三日 三浦密成

Malus manchurica Koehne. マンシウヅミ 葉

族順 大正十四年十月十四日 三浦密成

分布 日本, 朝鮮, 満洲。

寄主及産地 *Populus laurifolia* Ldeb. テリハドロ 葉

公主嶺 大正七年八月六日 三浦密成

分布 満洲。

記事 從來知られたる本屬菌にしてドロ類を犯すものは *M. Populi*; *M. populina*; *M. piriformis*; *M. Castagnei*; *M. Castagnei*; var. *Moniliferae*. の五種なるも吾人の菌は葉の裏面に寄生すると胞子が隔膜の處に於て縦れざるを異なりとす而して其被害葉は七月下旬には既に落葉を來たし八月中旬頃には殆んど全部の落葉をなし兩三年被害繼續すれば遂に枯死するに至るを以て造林上甚だ恐るべき病害の一なり。

382. *Marssonina Mali* (Henn.) Ito, in Bot. Mag. Tokyo, 32, 206, 1918; K. Hara, in Fg. eastern Asia, 42, 1928;

Syn. *Marssonina Mali* P. Henn. in Engl. Bot. Jahrb. 37, 164, 1905;

I. Miyake, in Bot. Mag. Tokyo, 21, 49, 1907; Sacc. Syll. 22, 1211.

1918; M. Miura, in Fg. dis of Apples & apple-trees, 87, 1917;

Oudemans, in Enum. 3, 473, 1921; K. Nakata, in List of fung.

Korea, 114, 1928;

寄主及産地 *Malus domestica* Borkh. リンゴ 葉

熊岳城 大正七年九月三十日 三浦密成

三十里堡 大正八年十月二日 三浦密成

大連 大正八年十月五日 三浦密成

旅順 大正十年九月三日 三浦密成

Malus manchurica Koehne. マンシウヅミ 葉

旅順 大正十四年十月十四日 三浦密成

分布 日本, 朝鮮, 満洲。

記事 本菌は苹樹葉を犯して褐斑病を起さしむるものにして被害樹は早く落葉して苹樹栽培に大害を與ふことは園藝家の寧しく認むる處にして余は明治四十四年及び四十五年の二箇年間其豫防試験を行ひたる結果ボルドー液散布は殆んど完全に之れを豫防することを知り青森縣の如きは大正二年以來之れが實行をなし現今にては殆んど本病より免るゝに至れり。

從來其寄主としてはリンゴのみ知られたるが余は旅順に於てマシウヅミの葉上に本菌を採集せり之れ新寄主にして且つ本病豫防上注意すべきことなり。

Marssonina なる屬名に關しては伊藤誠哉氏が東京植物學雜誌に詳述しあるを以て就て見らるべし。

(は) Melanconiaceae-Phaeophragmiae.

胞子は暗色にして二個以上の細胞よりなり長楕圓形又は圓筒狀をなす十屬に分たれ滿洲には次の三屬のもの發見せらる。

屬 の 檢 索 表

- | | |
|----------------------|--------------|
| 1. 胞子は附屬絲狀體を欠く | Coryneum. |
| 胞子は附屬絲狀體を有す | 2. |
| 2. 附屬絲狀體は一個なり | Monochaetia. |
| 附屬絲狀體は二個以上 | Pestalozzia. |

Coryneum Nees.

383. *Coryneum crataegicola* M. Miura. n. sp.

Spots circular or wide elliptical, gray color on upper side and brown at the corresponding under surface, strictly margined, thin,

2-4 m.m. in diameter; acervuli epiphyllous, small, black, scattered, subepidermal; spores oblong or oblong-ellipsoidal, rounded at both ends, brownish smoke color, 3-septate, not or slightly, constricted at septa, $14.5 \times 3.6 \mu$.

寄主及産地 *Crataegus pinnatifida* Bge. オホサンザシ 葉

奉天北陵 大正七年九月二十四日 三浦密成

分布 満洲

記事 本菌に近似せる本菌属のものにして薔薇科を犯すものは *Coryneum pestalozzoides* Sacc. 及び *C. microstictum* B. et Br. の二種あるも其孢子の大きさ共に之れと異なるを以て新種とせり。

384. *Coryneum foliicorum* Fuckel, in Symb. 372, 1869; Sacc. Syll. 3. 780. 1884; Allescher, in Rabh. Krypt. 7, 648. 1903; Lewis, in Main Ag. Ex. St. Bull. No. 170, 1909; Lewis & Morse, in I. c. No. 185, 374, 1910; Lewis, in Phytopath. 2, 49, 1912; Stevens, in Fg. w. c. pl. dis. 561, 1913; Hall, in Phytopath. 5, 55, 1915; Diedicke, in Krypt. Brand. 9, 874, 1915; Miura, in Fg. dis. of apples, 94, 1917; Oudemans, in Enum. 3, 414, 1921;

寄主及産地 *Malus domestica* Borkh. リンゴ 葉

金州 大正十年八月八日 三浦密成

分布 歐洲, 北米, 日本, 満洲

記事 從來本菌は *Sphaeropsis Malorum* の寄生によりて生じたる變色部に寄居生活をなすものと考へられたりしが Lewis 氏は實驗的に本菌が苹果の幼き枝を犯して一種の腐爛病を起し得ることを證し時に大害をなすと稱し Hall 氏は本菌はニハトコを犯す *Coryneum negundinis* Ell. et Ev. と同一なりとしたるに Harbard 大學の

Thaxter 氏は Hall 氏の菌は本菌ならずして *Hendersonia diplodioides* Ell. et Ev. なりしとし Hall 氏は本菌は *Oththia amica* Sacc. 菌の分生孢子時代なりとせり。

本菌は青森縣に於ては衰弱したる苹樹の芽を犯して所謂芽腐れ病を起さしむるものにして詳細は拙著リンゴの病氣に述べたり就て見らるべし

385. *Coryneum rosaecola* M. Miura, n. sp.

(第六圖版 C.) 参照

Spots circular or irregular in shape, whitish gray in color, margined by dark brown colored line, 1-6 m.m. across; acervuli amphigenous, mostly epiphyllous, scattered or aggregate, often confluent, black, about 100μ across; spores ellipsoidal, narrowed and rounded at both ends, brown, 3 septate, lowest cell hyaline in general, but rarely colored, $14-20 \times 7-9\mu$; pedicels persistent, hyaline without septum, $8-20 \times 2\mu$.

寄主及產地 *Rosa xanthioides* Nakai. キバナハマナシ 葉

湯崗子

大正七年九月十三日

三浦密成

分布 満洲

記事 本菌は *Coryneum Rosarum* Henn, 及び *C. microstictum* B. et Br. に近似するも孢子大なるを以て之等と異なり薔薇科植物を犯す本屬にして他に類似のものなきを以て新種と認めたり。

Monochaetia Saccardo.

本屬は前者の如くにして孢子の一極に一本の毛を有す世界に大凡六十種ありと稱せられ満洲に一種を見る

386. *Monochaetia Mali* (Ell. et Ev.) Sacc. et D. Sacc. in Syll. 18, 485, 1906; Oudemans, in Enum. 3, 473, 1921;

Syn. *Pestalozzia Mali* Ell. et Ev. in Jour. Myc. 8, 13, 1902;

寄主及産地 *Malus mandshurica* Koehne. マンシウヅミ 葉

青龍山 大正九年十月二日 三浦密成

Micromeles alnifolia Koehne. アヅキナシ 葉

吉林 大正七年八月十六日 三浦密成

吉林 大正十年九月 三浦密成

分布 北米, 滿洲, 朝鮮。

記事 熊岳城青龍山にて採集せるものは全葉の約四分の三は灰白色に變じ胞子坐は葉の兩面にありて多少原記載と異なる所あるも尙精細の研究を行ふまで本菌となし置かんとす

中田覺五郎氏は本菌を朝鮮に於て苹樹葉上に採集せるが其記載によれば胞子坐の直徑 $150-176\mu$ ありて余が滿洲にて得たるものの 50μ なるに比して甚た大なり之れ余の菌は充分發育せざるによるか然れども其胞子は $20-27 \times 7.2-8.5\mu$ ありて原記載に一致す胞子梗は $13-20 \times 1-2.5\mu$ とあり。

以上の外原攝祐氏は *Pestalozzia traevrseta* Sacc. なる菌を哈爾賓にて苹樹葉上に採集せりと報ずるも斯かる學名のものなし *Pestalozzia breviseta* Sacc. の印刷の誤りに非るやまた同氏は *Pestalozzia* 菌の一種を奉天に於てエノコログサ上に採集せりと、余は *Pestalozzia* 菌は一種も採集せし。

(に) *Melanconiaceae-Scolecosporae.*

胞子は絲狀又は線狀乃至螺旋狀にして無色、普通小數の隔膜を有す五屬に分たれ滿洲には次の一屬知らる。

Cylindrosporium Unger.

胞子坐は表皮下に生じ白色又は淡色にして圓板狀、胞子は線狀にして直乃至灣曲し無色なり、大凡世界に百種滿洲に三種を發見す。

387. Cylindrosporium Dioscoreae Miyabe et Ito, in Trans. Sapporo

Nat. Hist. Soc. 4, 10, 1912; Sydow, in Ann. Myc. 11, 117, 1913;

寄主及産地 *Dioscorea quinqueloba* Thunb. キクバドコロ 葉

草河口

大正七年七月三日

三浦密成

分布 日本、滿洲。

記事 本菌は日本に於てはナガイモ (*D. Batatus* Don.) 及びヤマイモ (*D. japonica* Thunb.) の葉を犯して時に栽培薯に大害を與ふることありて徳淵氏は曾て隠岐島に於て採集したることあり今余は滿洲に於て野生薯に之れを採集せるによりて考ふるに本菌は朝鮮にも分布せらるゝものなるべく栽培薯にとりては將來恐るべき病害たるを免れず、被害葉には始め小圓形の帶黃色斑點を生じ時に葉脈の爲めに角張り或は數個相接して不規則形をなすことあり遂には此變色斑點上に褐色より暗褐色の胞子層を生じ表皮を破りて肉色又は石竹色の胞子群を生ず若し葉柄又は莖の犯されたる場合は被害部は多少肥厚して瘤狀を呈し幼き葉の犯されたる際には其被害も亦大なり。

388. Cylindrosporium Vicii M. Miura, n. sp.

Acervuli minute, circular, scattered on a brownish discolored spot, at first covered but later ruptured. 150–180 μ in diameter; spores cylindrical, straight or slightly curved to one side, flexible, hyaline, guttulate, rounded at both ends, 29–36 \times 3.5 μ .

寄主及產地 *Vicia amaena* Fisch.

ツルヂバカマ

葉

公主嶺

大正十年七月八日

三浦密成

分布 滿洲。

記事 從來知られたる豆科植物を犯す本屬菌は *C. Glycyrrhizae*, *C. Lathyri*, *C. Lupini*, *Cylindr. longisporum*, 及び *C. Astragali* の五種なるが何れも胞子の長さ本菌のものより長くして一も本菌と一致するものなきが故に之れを新種となせり。

388. *Cylindrosporium Pruni-tomentosi* M. Miura, n. sp.

(第六圖版 D.) 参照

Spots scattered, roundish, polygonal or irregular, 2-3 mm. across, rarely confluent, at first without margination, then bordered and brown or dark brown; acervuli epiphyllous, minute, scattered on all over the surface of leaves, roundish, polygonal, or irregular form when confluent, slightly raised at centre, at first covered and brownish, then ruptured and becomes white; conidiophores simple, straight, very short, smooth, non-septate, granulate, about 10μ long, 4μ wide; spores filiform, curved to one side, gently narrowed to apex, and round the base, guttulate, commonly 3-septate, not constricted, hyaline, $80-100 \times 4\mu$.

寄主及產地 *Prunus tomentosa* Thunb.

ユスラウメ

葉

公主嶺

大正十四年八月二十日

三浦密成

公主嶺

大正十四年九月十日

三浦密成

大連

昭和二年十月

三浦密成

分布 滿洲。

記事 本菌の被害點一葉上に二三個存する間は普通の綠色をなし同化作用を營むと雖も被害斑點の直徑 2-3 m.m. に達せるもの數個生ずるに及べば葉は黃色に變じ落葉を始め九月上旬には古き葉は殆んど落下して頂部の新葉及び新梢の葉のみを残すに至るも此等も亦數日にして犯され九月二十日頃には全く葉の樹上に止まるものなきに至る故に將來北滿地方の如く小果實類の栽培發達すべき運命にある地方に於ては恐るべき病害の一たるべく余は之れを「ユスラウメの葉振ひ病」と呼ばんとす而して其菌絲は寄主組織細胞間に蔓延し梯狀組織細胞間に集まりて子層を形成し遂に表皮を破りて孢子を露出するに至る。

從來薔薇科植物に寄生する *Cylindrosporium* 菌として知られたるものは Saccardo 氏の菌譜によれば七種ありて單に其孢子の大きさよりすれば *C. Crataegi* Ell. et Ev. に最も近きも子層の生ずる位置異なるのみならずユスラウメと *Crataegus pinnatifida* とを相接して栽培するも常にユスラウメの葉のみ本菌に犯され *Crataegus* には何等の被害を認めざるを以て之れを同一菌と認むる能はず故に之れを新種となせり。

389. *Cylindrosporium Convolvuli* M. Miura, n. sp.

Acervuli amphigenous, small, scattered, circular in general, brown, covered by epidermis and elevated, at last ruptured, 1-2 m.m. in diameter; spores straight or vermiform, cylindrical, rounded at one end and narrowed to another end, hyaline, without septum, guttulate, $28-36 \times 3-3.5 \mu$.

寄主及産地 *Convolvulus sagittifolius* Fisch. ヤハズヒルガホ 葉

公主嶺

大正十年七月八日

三浦密成

分布 滿洲。

記事 本菌も亦前種の如く從來知られたる旋花科植物上の本屬菌と一致せざるが故に新種となせり。

(ほ) **Melanconiaceae-Hyalo-Ramulisporeae.**

本亞科は前亞科の如くにして其胞子分枝するを異なりとす次の一屬あり。

Ramulispora M. Miura.

本屬の性質は *Cylindrosporium* の如くにして其胞子分枝す一種あり。

390. **Ramulispora Andropogonis M. Miura**, in Dis. of imp. pl. Man. 43, 1921;

寄主及產地 *Andropogon Sorghum, vulgaris, japonicus.* タカキビ 葉

公主嶺 大正七年八月二十四日 三浦密成

公主嶺 大正八年八月十八日 三浦密成

公主嶺 大正十年八月二十一日 三浦密成

分布 滿洲。

記事 本菌は高粱の葉を犯して斑點病を起すものにして滿洲には普通に發見せられ其胞子の分岐するを以て之れを *Staurosporae* に入るゝは穩當ならずと思ひし新亞科を設け新屬新種となしたり。

u. Moniliales. 念珠狀菌族

本族の菌類は子殻を缺くを以て *Sphaeropsidales* と異なり胞子皆が寄主の外部に生じ且つ多少寛かに菌絲を生ずるを以て *Melanconiales*

と異なるも實際に於ては此兩者を區別すること困難なるものあり
 例へば *Coryneum* の或ものは本族中の *Helminthosporium* と混同せら
 るゝことありまた *Vermicularia* の或ものは *Volutella* と混同せらるゝ
 が如し次の四科に分たる。

科 の 分 類

1. 菌絲は多少寛かなる綿様の群をなす 2.
 菌絲は密に集まり又は球形乃至圓筒狀の群なをし有柄なるこ
 とあり 3.
2. 菌絲及び胞子は無色又は僅かに淡色 *Moniliaceae*.
 菌絲及び胞子の兩者若しくは其一は暗色 *Dematiaceae*.
3. 菌絲體は圓筒狀又は帽狀有柄 *Stilbaceae*.
 菌絲體は多少球形にして無柄 *Tuberculariaceae*.

(イ) *Moniliaceae*. 念珠狀菌科

菌絲は無色又は淡色にして多少脆く軟かく束をなさず胞子は菌
 絲と同色なり *Amerosporae*, *Didymosporae*, *Phragmosporae*, *Dictyosporae*,
Helicosporae, *Staurosporae* の六亞科に分たれ滿洲には次のもの發見
 せらる。

(い) *Moniliaceae*-*Amerosporae*.

本亞科のものは胞子單胞にして球形卵形又は短圓筒狀をなす更
 に八次亞科に分たれ滿洲には次のもの發見せらる。

† Oosporeae.

本次亞科は十二屬に分たれ *Monilia* 屬のあるものゝ子囊時代は *Sclerotinia*と稱せられ *Fusidium*は *Nectoria*に *Oidium*は *Erysiphaceae*に屬す。

Oidium Link.

菌絲は表生にして分岐し白色、擔子梗は單一にして縱出によりて胞子を連生す。

391. *Oidium erysiphoides* Fries, in Syst. Myc. 3, 432, 1832; Sacc. Syll. 4, 41, 1886; Lindau, in Rabh. Krypt. 8, 79, 1907;

寄主及産地 *Phaseolus vulgaris* L. インゲンマメ 葉
公主嶺 大正七年八月十三日 三浦密成

分布 全世界。

記事 本菌はウドンコ菌科の分生胞子時代にして澤田兼吉氏によれば其吸菌絲の狀況並に胞子内のフィブロン體の有様等によりて之れを區別し得と稱せらる。

† Botrytideae.

本次亞科は三十屬に分たれ滿洲にては次屬知らる。

Ovularia Saccardo.

菌絲は分岐し擔子梗は無色にして普通單胞よりなり分岐せず上端多少尖ることあり胞子は無色單胞にして球形卵形稀に連出することあり世界に大凡八十種あり滿洲に二種知らる。

392. *Ovularia Bistortae* (Fuck.) Sacc. in Syll. 4, 145, 1886; Hennings, P. in Engl. Bot. Jahrb. 30, 45, 1901; Jaap, in Ann. Myc. 9, 338, 1911; Oudemans, in Enum. 2, 1012, 1920;

Syn. *Ramularia Bistortae* Fuckel, in Symb. 361, 1869; Thümen, in Pilz. Sib. No. 482, 1880;

Ovularia Bistortae (Fuck.) Lindau, in Rabh. Krypt. 8, 239, 1907;

寄主及産地 *Polygonum viscosum* Hamilt. ニホヒタデ 葉
吉 林 大正七年八月十七日 三浦密成
分布 歐洲, 日本, 滿洲。

393. *Ovularia decipiens* Sacc. in Fg. ital. Tab. 973, 1881; in Syll. 4, 139, 1886; Lindau, in Rabh. Krypt. 8, 240, 1907; Oudemans, in Enum. 3, 150, 1921;

寄主及産地 *Ranunculus japonicus* Thunb. キンパウゲ 葉
草河口 大正七年七月四日 三浦密成
分布 歐洲, 滿洲。

(ろ) *Moniliaceae-Didymosporae.*

分生胞子は二胞よりなり卵形又は短紡錘狀をなし無色, 十五屬に分たれ滿洲には次の一屬知らる。

Cephalothecium Corda.

擔子梗は直にして分岐せず有隔, 胞子は頂生なるも胞子脱落せざるに第二第三次の胞子を生じて輪狀頭生様をなすことあり長楕圓形又は瓢狀にして無色, 世界に五種滿洲に一種を見る。

394. *Cephalothecium roseum* Corda, in Lindau, Eugl. Nat. Pflanzenf. 1, 445, 1900; Craig & Hook, in Cornell Univ. Ag. ex. st. Bull. No. 207, 1902; Clinton, in Conn. Ag. ex. st. Rpt. 300, 1903; in l. c. 12, 1913; Longyear, in Fg. dis. Mich. No. 25. 21, 1904; Duggar, in Fg. dis. pl. 295, 1909; Morse & Lewis, in Maine Ag. ex. st. Bull. No. 185, 364, 1910; Stevens & Hall, in Fg. dis. econ. pl. 91, 1910; Stevens, in Fg. w. c. pl. dis. 586, 1913; Miura, in Fg. dis. apples. 148, 1917;

Syn. *Cyphosporium roseum* (Corda.) Massee, in Dis. cult. pl. & trees. 467, 1910;

Trichothecium roseum (Corda.)

寄主及産地	Malus domestica Borkh.	リンゴ	果實
熊岳城	大正八年九月		三浦密成
大連	昭和二年十月		三浦密成

分布 歐洲, 北米, 日本, 滿洲

記事 本菌は苹果を犯して石竹色腐敗病を起さしむるものなるがEustace氏は寄生性なることを證明するまでは一般に寄屍菌なりと考へられたるものにして中田、瀧本兩氏は朝鮮に於てはまた棉を犯すことを報告せり。

(は) Moniliaceae-Phragmosperae.

分生胞子は無色又は淡色にして二胞以上よりなり長楕圓紡錘形又は長形をなす十六屬に分たれ滿洲にてはRamularia及びPiriculariaの二屬知らる。

Ramularia Unger.

擔子梗は表生にして單一なるか短枝を生じ無色,胞子は二室以上よりなり無色にして長形又は長橢圓,世界に大凡三百種滿洲に六種を見る。

- 395. *Ramularia decipiens* Ell. et Ev.** in Jour. Myc. 1, 70, 1885;
Sacc. Syll. 4, 215, 1886; Lindau, in Rabh. Krypt. 8, 441, 1907;
Oudemans, in Enum. 2, 982, 1920; K. Togashi & N. Hiratsuka, in
Trans. Sapp. Ag. and Forest. 16, No. 68, 80, 1924; K. Togashi, in
Jap. Jour. Bot. 2, 98, 1924;

寄主及產地 Rumex acetosa L.

スカンボ 葉

哈爾賓

大正七年八月二十一日

三浦密成

分布 歐洲, 北米, 日本, 滿洲。

- 396. *Ramularia aequivoca* (Ces.) Sacc.** in Fg. ital. Tab. 994, 1881;
in Syll. 4, 201, 1886; Davis, in Prov. List. 3, 259, 1915; in l. c.
706, 1919; Oudemans, in Enum. 3, 151, 1921;

Syn. *Fusicladium aequivocum* Cesati, in Bot. Zeit. 15, 43, 1857;

Cylindrospora aequivoca Schroeter, in Schles. Krypt. Fl. Pilz. 2,
485, 1897,

Ramularia gibba Fuckel, in Symb. 362, 1869; Sacc. Syll. 4,
200, 1886;

Ramularia gibba Fuck. var. *ranunculi-auricomi* Sacc. in Syll. 4,
206, 1886;

Ramularia aequivoca (Ces.) Lindau, in Rabh. Krypt. 8, 450, 1907;

Septocylindrium ranunculi Pk. in Davis, Prov. List. 964. 1914 ;

寄主及産地 *Ranunculus japonicus* Thunb. キンボウゲ 葉

草河口 大正七年七月四日 三浦密成

分布 歐洲, 北米, 滿洲。

- 397. *Ramularia Ranunculi* (Schroet.) Peck**, in 35th Ann. Rept. New York State Mus. Hist. 141. 1883 ; Sacc. Syll. 4. 200, 1886 ; Lindau, in Rabh. Krypt. 8. 451. 1907 ; Jaap. in ann. Myc. 9. 338. 1911 ; Oudemans. in Enum. 3. 140. 1921 ;

Syn. *Cylindrospora ranunculi* Schroeter. in Schles. Krypt. Fl. Pilz. 2. 485. 1897 ;

寄主及産地 *Ranunculus japonicus* Thunb. キンボウゲ 葉

草河口 大正七年九月二十五日 三浦密成

分布 歐洲, 北米, 滿洲。

- 398. *Ramularia Violae* Trail.** in Trans. Crypt. Soc. Scottl. 47, 1889 ; Sacc. Syll. 10, 555, 1892 ; Lindau, in Rabh. Krypt. 8. 470 ; 1907 ; Oudemans, in Enum. 4, 93, 1923 ;

寄主及産地 *Viola sylvestris* Kit. タチツボスミレ 葉

興安嶺 大正十二年七月 三浦密成

分布 歐洲, 滿洲。

- 399. *Ramularia punctiformis* (Schlecht.) Höhn.** in Ann. Myc. 6, 214. 1908 ; Oudemans, in Enum. 4, 138, 1923 ;

Syn. *Fusidium punctiforme* Schlecht. in Bot. Zeit. 10, 617, 1852 ;

Ramularia montana Speg. in Decad. Myc. 104. 1880; Sacc. Syll. 18, 550. 1906; Lindau, in Rabh. Krypt. 8. 471. 1907;

Ramularia montana Sacc. in Syll. 4, 453, 1886;

Ramularia Epilobii Karst. in Hedw. 31, 296, 1892;

Ramularia Karstenii Sacc. in Syll. 11, 603, 1895;

Ramularia encans Magn. in Hedw. 34. 102. 1895; Sacc. Syll. 11, 603. 1895; in l.c. 14, 1060. 1899; I. Miyake, in Bot. Mag. Tokyo, 28, 54, 1914;

寄主及産地 *Epilobium angustifolium* L. ヤナギラン 葉

興安嶺 大正十二年七月 三浦密成

分布 歐洲, 滿洲, 北清

記事 本菌はヤナギランの葉に寄生して褐色斑點を生ぜしめ其被害甚だしき時は下葉より漸次枯燥して上葉に及び遂に殆んど全葉を失ふに至ることあり三宅市郎氏は之れを北京附近に採集したり。

400. *Ramularia Leonuri* (Schraet.) Sorokin, in Arbeit d. Ges. d. Nat. Kasan. 1872; Sacc. Syll. 10, 559, 1892; Lindau, in Rabh. Krypt. 8, 491, 1907; Oudemans, in Enum. 4, 584, 1923;

Syn. *Cylindrospora Leonuri* Schroeter, in Schles. Fl. Pilz. 2. 491, 1897;

Ramularia Leonuri Sacc. et Penz. in Michelia, 2, 638, 1882; Sacc. Syll. 4, 213, 1886; I. Miyake, in Bot. Mag. Tokyo, 27, 52, 1913; K. Goto, in Jour. of pl. protect. 13, 157, 1926;

Ramularia Sorokini Sacc. et Sydow, in Syll. 14, 1065, 1899;

寄主及産地 *Leonurus sibiricus* L.

メヒジキ

蕨

哈爾濱

大正七年八月二十一日

三浦密成

分布 歐洲, 日本, 北清, 滿洲。

記事 本菌は余曾て明治三十九年八月岩手縣にて採集せることあり後藤和夫氏また盛岡附近にて之れを採集し先命權によると稱して *Ramularia Leonuri* Sacc. et Peuz. の學名を採用せるも其發表は 1882 年にして Sorokin 氏の發表は 1872 年なるを以て後者によるこそ先名權に従ふものなり而して本菌はまた三宅市郎氏によりて北清に發見せられたり。

401. *Ramularia flaris* Fresen. in Beiträg. 3, 90, 1863; Sacc. Syll. 4, 210, 1886; Lindau, in Rabh. Krypt. 8, 519, 1907;

寄主及産地 *Cacalia hastata* L.

ヨブスマサウ

藥

興安嶺

大正十三年八月十二日

三浦密成

分布 歐洲, 滿洲。

***Piricularia* Saccardo.**

擔子梗は單一にして有隔, 無色, 胞子は倒棍棒様洋梨形にして三胞よりなり平滑無色又は淡綠色にして擔子梗上に樹枝様に附着す, 滿洲に一種を見る。

本屬は Saccardo 氏の創設に關はり其原記載は胞子の色に關して記する處なかりしが後氏は其 *Sylloge Fungorum* 第四卷に於て胞子無色なりとなしたるが故に本亞科に入るべきものとなれるが伊藤氏はメヒジハのイモチ菌の原記載に於て Saccardo 氏は胞子の色を淡綠色となせるを以て之れが原記載に種々の補遺をなし胞子の色

を *grisea* v. *fusca* として *Dimatiaceae-Phragmosporae* に移したり然れども余は伊藤氏が *fusca* となせる點には少しく疑を存するが故に其孢子淡緑色なるも之れを *Moniliaceae* 中に入れ置かんとす蓋し不完全菌類の *Hyalosporae* 中の或者は屢々淡緑色を呈するものあるによる。

402. *Piricularia grisea* (Coode.) Sacc. in *Michelia*. 2. 148. 1880; in *Syll.* 4. 217. 1886; S. Hori, in *Sp. Rpt. Ag. Ex. St. Nishiga-hara*, 1-25, 1892; T. Kawakami, in *Jour. Sapp. Ag. Soc.* 2. 149. 1901; Duggar, in *Fg. dis. pl.* 297. 1903; Stevens, in *Fg. w. c. pl. dis.* 591, 1913; T. Matsumoto, in *Res. on blast or imochi of Rice pl.* 1916; Y. Nishikado, in *Bull. Ohara Ag. Res.* 214, 1917; S. Ito, in *Bot. Mag. Tokyo.* 32, 304, 1918;

Syn. *Trichothecium griseum* Cooke, in *Rev. Ann. Fg. No.* 580. 1878; *Piricularia grisea* (Cooke.) Lindau, in *Rabh. Krypt.* 9. 763, 1910;

Dactylaria parasitans Cav. in *Fg. Long. exs. No.* 47, 1892; Sacc. *Syll.* 11. 601, 1895; M. Shirai, in *Bot. Mag. Tokyo.* 19. 601, 1905;

Dactylaria grisea (Cooke.) Shirai, in *Miyake, Bot. Mag. Tokyo.* 29. 54; 1914; K. Sawada, in *Trans. Nat. Hist. Sc. Formosa, No.* 27-28, 242-249, 1916; in *Sp. Rpt. Ag. Ex. St. Formosa, No.* 16, 63, 1917;

寄主及產地 *Digitaria commutata* Schult. ケメヒジハ 葉

吉 林

大正七年八月十七日

三浦密成

公主嶺	大正九年八月十五日	三浦密成
旅順	大正十年九月二日	三浦密成
大連	昭和二年九月二十日	三浦密成

分布 歐洲, 日本, 北清, 滿洲。

記事 本菌は曾て稻のイモチ病菌と混同して考へられたることありしも近時松本氏, 西門氏等によりて其然らざること明らかとなりしものにして同氏等の論文中に詳記せらるるを以て余は之を略したり。

(に) Moniliaceae-Scolecosporae.

Cercospora Saccardo.

本屬は後に述ぶる *Cercospora* の如く菌絲は無色有隔、擔子梗は單一又は分岐し有隔にして無色、胞子は絲狀にして有隔、世界に大凡じ十種、滿洲に二種を見る。

403. *Cercospora albomaculans* (Ell. et Ev.) Sacc. in Syll. 11, 606, 1895; Oudemans, in Enum. 3, 234, 1921,

Syn. *Cercospora albomaculans* Ell. et Ev. in N. Amer. Fg. 373, 1894;

客主及產地	<i>Brassica chinensis</i> L.	ハクサイ	葉
大連	大正八年十月六日	三浦密成	
吉林	大正十年九月	三浦密成	
哈爾濱	大正十五年九月	原 攝祐	

分布 北米, 日本, 滿洲。

記事 本菌は白菜の葉を犯して大小の白色斑點を生ぜしむるも

のにして主として外部の葉を犯すも被害甚だしきときは其葉を枯死せしめ成長を止め大害を興ふることあり。

404. *Cercospora Indigoferae* M. Miura, n. sp.

Spots circular, small, elliptical, scattered, chestnut brown, grayish in centre, strictly margined by yellowish part, 1-3 m.m. across; tufts amphigenous, irregularly scattered or confluent, white; conidiophores born through stomata forming a bundle, guttulate, hyaline without septum. $25-36 \times 3-4 \mu$; spores cylindrico-filiform, straight or curved, tapering toward to apex, 0-3-septate, guttulate, hyaline, $35-57 \times 4 \mu$.

寄主及産地 *Indigofera kirilovii* Max. カウライニハフヂ 葉

草河口 大正七年七月三日

三浦密成

分布 満洲。

□ Dematiaceae. 黒色菌科

櫛子梗は暗色又は黒色にして蜘蛛様をなし緩かなり胞子は櫛子梗と同色なるを常とするも時に櫛子梗有色にして胞子無色なることあり又櫛子梗無色にして胞子有色なることあり *Moniliaceae* と對向の位置にあるも時に *Moniliaceae* と本科との中間に位するものあることを思はしむ。

本科の胞子は球形、卵形、楕圓形をなし *Amelosporeae*, *Didymosporeae*, *Phragmosporeae*, *Dictyosporeae*, *Scolecosporeae*, *Helicosporeae*, *Staurosporeae* に分たる。

(い) *Dematiaceae-Didymosporeae*.

分ちて十六屬とす満洲に三屬を見る。

属 の 檢 索 表

1. 胞子は單生す 2.
 胞子は連鎖狀に生ず *Cladosporium*.
2. 胞子は頂生す *Passalora*.
 胞子は頂生及び側生す *Scolecotrichum*.

Passalora Fries et Montagne.

405. *Passalora Krascheninnikovii* M. Miura, n. sp.

(第 六 圖 版 O.) 參 照

Spots circular, elliptical or irregular, scattered or confluent, white, strictly margined, 0.1-1.8 c.m. in diameter; tufts epiphyllous, minute, roundish, scattered or aggregate, black, punctiform; conidiphores flexible, slender, non-septate, darkish, paler toward to apex, $54-90 \times 3.5-4.5 \mu$; spores sickle-shape in general, rarely fusiform, younger ones oblong-ellipsoidal, bluntery pointed at both ends, 1 septate, guttulate, hyaline or pale greenish, $18-21 \times 3.5-4.2 \mu$.

寄主及產地 *Krascheninnikovia Davidi* Fr. ツルワチガヒ 萩

吉 林 大正七年八月十六日 三浦密成

分布 滿洲

記事 本種は擔子梗が隔膜を有せざると其色淡色なるを以て或は之れを本屬より分離して新屬を設定すべきものなるやも計り難きも尙研究を進むるまで本屬に入れ以て後考をまつ

Scolecotrichum Kunze and Schmidt.

本屬は *Fusicladium* に近似し擔子梗長きを異なりとす大凡三十種あり滿洲に一種を發見す。

406. *Scolecotrichum iridicola* M. Miura, n. sp.

(第六圖版 P.) 参照

Spots circular or wide elliptical, isolate or confluent, brownish-gray, margined, 2-3 m. m. across; tufts amphigenous, scattered, minute, blackish; conidiophores erect, 1-5 in number from a small stroma-like body, brown, septate, $75-130 \times 12-14 \mu$; spores ellipsoidal, one end slightly pointed and the other end rounded, 1-septate, not constricted, echinulate, brown, $23-28 \times 13.5 \mu$.

寄主及産地 *Iris dichotoma* Pall.

ヒワウギモドキ

葉

興安嶺

大正十二年七月十四日

三浦密成

分布 満洲。

記事 從來知られたる薊尼科植物に寄生する本菌は *Sc. Iridis* Fautr. et Roum.; 及び *Sc. cladosporioideum* Maire, の二菌なるも本菌は之等よりも擔子梗長くして幅廣く胞子の幅廣きを以て異なる。

***Cladosporium* Link.**

本菌屬は前者に近くして胞子連鎖狀に生じ且つ擔子梗之れよりも細長なり世界に大凡百七十五種満洲に一種を知られ其或ものは *Mycosphaerella* 屬の分生胞子なり。

407. *Cladosporium herbarum* (Pers.) Link, in Mag. Ges. Naturf.

Fr. Berlin, 7, 37 1816; Sacc. in Michel. 2, 472, 1882; in Syll. 4.

350, 1886; K. Hara, in Fg. east. Asia, 44, 1928;

Syn. *Dematium herbarum* Pers. in Tent. Disp. 75. 1797;

Cladosporium herbarum (Pers.) Lindau, in Rabh. Krypt. 8, 800,
1907 ;

寄主及産地	Oryza sativa L.	イネ	葉
熊岳城	大正十五年九月	原	攝祐
公主嶺	大正七年九月二十五日	三浦	密成
Andropogon Sorghum, vulgare, nipponica,	カウリアン		葉
公主嶺	大正七年九月二十五日	三浦	密成
熊岳城	大正十五年九月	原	攝祐
Agropyrum spp.			葉
公主嶺	大正八年十月	三浦	密成

分布 全世界。

記事 本菌は禾本科類の枯葉に普通に見らるゝものにして其子
囊時代は *Mycosphaerella Tulasnei* Jacz. なりと。

(ろ) Dematiaceae-Phragmosporae.

分ちて二十三屬とす滿洲には次の三屬知らる。

属の検索表

1. 擔子梗は甚が短かくして僅かに孢子と區別することを得…………… *Clasterosporium*.
- 擔子梗は長くして孢子との區別明瞭なり……………2.
2. 擔子梗は短かくして孢子は卵形又は長橢圓形をなす…………… *Napicladium*.
- 擔子梗は長くして孢子も亦長し…………… *Helminthosporium*.

Clasterosporium Schweinitz.

菌絲は寄主の表面のみならず一部は其組織内に入り處々膨れ二乃至數箇の隔膜を有する胞子を生ず大凡七十五種あり滿洲には一種を見る。

- 408. Clasterosporium degenerans Sydow**, in Ann. Myc. 12, 164, 1914; T. Hemmi, in Bot. Mag. Tokyo, 30, 33-337, 1916; K. Hara, in Eg. dis. fruits, 418-421, 1918; R. Tsuji, in Ann. Phytopath. Sc. Jap. 1, No. 2, 1-13, 1919;

寄主及産地 *Prunus manshurica* Koehne. マンシウアンス 栗
 熊岳城 大正八年九月二十五日 三浦密成
 蘆家屯 大正八年九月二十七日 三浦密成

分布 日本, 滿洲.

記事 本菌の基本標本は余が會て青森縣にて採集せるものにして日本には廣く分布せられ原攝祐氏は梅の白粉病と稱せり滿洲にても杏の葉に之れを見其被害少なからず蓋し本菌に犯されたる葉は直ちに落下するを以てなり。

本菌胞子の則定は Sydow 氏は $16-42 \times 9-13 \mu$ 隔膜數 2-9 とせるも余は長さ 120μ に達するものを測定し辻逸見兩氏は 140μ の長さに達し隔膜數 24 に達するものを見且つ有色なるものを觀察せり而して本菌の所屬に關しては Sydow, 逸見, 原の諸氏は多少の疑ひを存し原氏は *Paraspora* に編入せしむべきものなりとし辻氏は其必要を認めざるが如く余も本菌を以て本屬に編入し置くべし。

- 409. Clasterosporium Mori Sydow**, in Sacc. Syll. 16 1060, 1902;

寄主及産地 *Morus alba* L. クハ 栗

安 東 大正十五年九月

原 攝祐

分布 日本, 滿洲.

記事 原攝祐氏によれば本菌は *Cercospora flexuosa* N. Tanaka, *Cercospora Mori* (Sydow.) Sawada は同種異名なりと余は本菌を採集せず

Napicladium von Thümen.

410. *Napicladium Arundinaceum* (Corda.) Sacc. in Syll. 4, 482, 1886; Schroet. in Pilz. Schles. 2, 500; K. Togashi. in Jap. Jour. Bot. 2, 101, 1924; Hara. in Fg. east. Asia. 45, 1928;

Syn. *Helminthosporium arundinaceum* Corda, in Icon. 3, 10, 1839;
Napicladium arundinaceum (Corda.) Lindau, in Rabh. Krypt. 9, 73, 1910;

寄主及産地 *Phragmites communis* Trin.

ヨ シ 葉

公主嶺 大正八年十月

三浦密成

湯崗子 大正十五年九月

原 攝祐

分布 歐洲, 日本, 滿洲.

Helminthosporium Link.

411. *Helminthosporium gramineum* Rabh. in Klotz. Herb. Myc. 2nd. 332. 1856; Sacc. Syll. 10. 615, 1892; Hennings. P. in Engl. Bot. Jahrb. 34, 606. 1905; Lindau, in Rabh. Krypt. 9, 34. 1910; Mota, in Handb. 746. 1911; Stevens. in Fg. w. c. pl. dis. 612. 1913; Butler, in Fg. and dis. pl. 186; 1918; Oudemans, in Enum. 1, 789, 1919;

Syn. *Brachysporium gracile*, var. *gramineum* Sacc. in Syll. 4, 430,
1886;

寄主及産地 *Triticum sativum* L.

コムギ 葉

公主嶺

大正九年七月二日

三浦密成

分布 全世界。

記事 本菌は麥類の葉を犯して斑葉病を起し時に大害を與ふることあり其子囊時代は *Pleospora gramineum* Sacc. と稱せらる。

(は) *Dematiaceae-Dictyosporae*.

胞子は暗色にして稀に淡色なるあり球形又は長楕圓形をなし縦横の膜を有す二十屬に分たれ滿洲に三屬を見る。

屬の檢索表

1. 擔子梗と胞子とは殆ど區別し得ず..... *Coniothecium*.
2. 擔子梗明瞭にして胞子は連鎖狀に生ず..... *Alternaria*.
3. 擔子梗明瞭にして胞子は單生す..... *Macrosporium*.

Coniothecium Corda.

412. *Coniothecium album* M. Miura, n. sp.

(第六圖版 R.)

Spots circular, scattered or confluent forming a oblong or irregular shaped large spot. white on the under side and yellow or yellowish brown on the upper side of the leaf, 5-8 m.m. in diameter; tufts hypophyllous, destributed all over the discolored spots, compact, firm;

spores globose, salicina-form, guttulate, from 2 to 4 or more cells, greenish or almost hyaline, $9-11 \times 5-11 \mu$; conidiophores invisible.

寄主及産地 *Celtis koraiensis* Nakai. オホバエノキ 葉

青龍山 大正七年六月二十七日 三浦密成

同 大正八年九月十五日 三浦密成

分布 満洲。

記事 本菌の胞子は帯緑色又は殆んど無色なるも *Clasterosporium* の或種の如く稍褐色を帯べるものを見たるを以て唯一個本屬に入るゝを至當と考へたり然れども之れたゞ一個の胞子を見たるに止まるを以て若し其胞子が無色なりとせば *Moniliaceae* に移さるべからずと雖も尙將來の充分なる研究をなすまで本屬に收む。

413. *Coniothecium chomatosporum* Corda, in Icon. 1, 2, 1837; Sacc. Syll. 4, 510, 1886; Lindau, in Engl. Nat. Pflanzenf. 1, 2, 382, 1900; in Rabh. Krypt. 9, 164, 1910; Sorauer, in Lehrb. 2, 453, 1908; Kirk, in New Zealand Dept. Ag. Rpt. p. 111, 1908; Stevens, in Fg. w. c. pl. dis. 617, 1913; Bijl, in Ag. Jour. Uni. S. Afr. 8, No. 1, 64, 1914; Miura, in Dis. of apples, 196, 1907; Oudemans, in Enum. 1, 571, 1919; in l.c. 3, 463, 1921;

寄主及産地 *Malus domestica* Borkh. リンゴ 幹

蘆 平 大正十一年四月 三浦密成

熊 岳 城 大正九年九月 三浦密成

三十里堡 大正十二年六月 三浦密成

族 順 昭和二年四月 三浦密成

大 連 昭和二年六月 三浦密成

分布 歐洲, 北米, 南亞, 濠洲, 日本, 滿洲.

記事 本菌は萃樹の枝幹を犯して粗皮病を起さしむるものにして其犯されたるものは直ちに枯死するに非ず數年若しくは數十年生活するも其發育非常に惡しく場合によりては其果實は販賣用に供し能はざるに至る然れども其發病の初期に於て被害部を削り去るか又は刀の背部にて之れを取り去りペンキ又は接蠟等を塗抹し置けば兩三年にして全快するに至る余は本菌を朝鮮にて見たることあり。

414. Coniothecium intricatum Peck. in 49th Rpt. of Stat. Bot. New York, 22. 1896; Sacc. Syll. 14. 1091. 1899; Oudemans, in Enum. 3, 457, 1923;

寄主及產地	Pirus spp.	日本梨, 支那梨	果軸, 幹
	熊岳城	大正九年九月	三浦密成
	熊岳城	大正十一年五月	三浦密成

分布 北米, 滿洲, 日本?

記事 本菌は前種に酷似するも其孢子小にして多少圓みを帶び群生せるものは $18-3 \times 5-18 \mu$ の大さあるも單胞のものは $4-5 \mu$ の直徑あるに過ぎず余は曾て岩手縣に於て野生梨の幹が本菌に犯されたるが如き狀を示せるものを見たることあり故に恐らく日本にも存するなるべし。

本菌が果軸と犯したる場合は被害部は黒變して汁液の流通を遮斷し果實の成長を止め落下せしめ幹を犯す場合にありては皮部は縦に長く黒變し二三週間にして枝幹の一部を枯死せしむることあり余は大正十一年五月熊岳城の或果樹園の支那梨紅梨が此被害を受けて枝幹の枯損を來たせるを目撃することあり

Alternaria Nees.

擔子梗は有色有隔普通單一、胞子は德利狀をなし縱横膜を有し胞子の先端細長となり連鎖狀に胞子を着く、世界に大凡四十種計り滿洲に八種を知る。

115. *Alternaria tenuis* Nees, in Syst. 72, f. 68, 1817; Sacc. Syll. 4, 545, 1886; Lindau, in Engl. Nat. Pflanzenf. 1, * *, 486, 1900; in Rabh. Krypt. 9, 262, 1910; A. Ideta, in Handb. 775, 1911; Stevens, in Fg. w. c. pl. dis. 621, 1913; Oudemans, in Enum. 1, 167, 1919;

寄主及產地 *Setaria italica* Beauv. アハ 葉

公主嶺 大正四年八月十五日 三浦密成

分布 歐洲，米國，日本，滿洲

記事 本菌は種々の枯草に腐屍生活を営むものにして其孢子は徳利狀をなすものたるが Lindau 氏は Rabenhorsts Kryptogamenflora. 第九卷に於て Berlese 氏の原圖を挿入せるものを見るに倒徳利狀をなすは甚だ稀なるものなり

416. *Alternaria Oryzae* Hara, in Fg. east. Asia, 52, 1928 ;

穀主及產地 *Oryza sativa* L. イネ 粳

哈爾濱 大正十五年九月 原攝祐

分布 满洲。

記事 本菌は原氏によりて始めて採集、記載せられしものにして同氏は之れを稻の鼠黴と稱し其被害部は鼠色に變じ本菌に犯されたる扱は充實せずとなせり、次に氏の記述を轉載せん…… “扱に發

生し暗色煤狀の黴を生じ寄生を受けたるものは充實せず菌絲は絲狀にて分岐し黄褐色、幅 $4-4.4\mu$ あり擔子梗は線狀にて菌絲より垂直に分岐す、眞直又は屈曲し隔膜を有す大さ $66-100 \times 4-5\mu$ あり暗褐色なり胞子は倒棍棒形、德利形、橢圓形又は紡錘形をなし内に隔膜 3-7 個あり其部は少しく縮る縦隔膜多數ありて煉瓦壁狀をなすものあり大さ $22-52 \times 9-15\mu$ あり暗褐色にて表面に細點あり、………
 稻に寄生する *Alternaria* 屬のもの死物寄生菌に種々あり然して本菌は寄生の狀特異なる鼠色の斑點をなす特徴あり、又胞子に斑點ある點は *Macrosporium herbarum* に似たれども其尾を有するを以て異とするを以て區別したり、”

417. *Alternaria Brassicae* (Berk.) Sacc. in Michel. 2, 172, 1882;
 in Syll. 4, 546. 1886; A. Ideta, in Handb. 776, 1911;

Syn. *Macrosporium Brassicae* Berk. in Smith Engl. Flora, 5, 339, 1836;

Polydesmus exitiosus Kühn, in Krankh. 165, 1858;

Sporidesmium exitiasum Kühn, in Hedw. 1, 91, 1855;

Alternaria Brassicae (Berk.) Lindau, in Rabh. Krypt. 9, 254, 1910;

寄主及產地 *Beta vulgaris* L. サトウダイコン 葉

公主嶺 大正八年八月一日 三浦密成

四平街 大正十年七月十四日 三浦密成

Phaseolus vulgaris L. インゲンマメ 葉

分布 全世界。

記事 余の菌は大さ $36-104 \times 10-15\mu$ ありて原記載よりも其幅少しく狭く擔子梗の長さ 90μ に達し幅 5μ 位あり被害大ならず朝鮮に於て中田氏は甜菜の葉上に二種の異なる本菌族のものを發見

し一は葉の *Alternaria* 病、他は葉枯病と稱せるが(昭和三年勸業模範場研究報告第十五號、五十三頁)共に本菌とは異なるものと如し。

418. *Alternaria Brassicae* (Berk.) Sacc. var. ***Phaseoli*** Brun. in Bull. Soc. Nat. de l'Ouest de France, 38, 1894; Sacc. Syll. 14, 1098, 1899; Lindau, in Rabh. Krypt. 9, 261, 1910; Oudemans, in Enum. 3, 966, 1921;

Syn. *Alternaria Azukiae* Hara, in Fg. eastern Asia, 53, 1928.

寄主及產地 Phaseolus vulgaris L. インゲンマメ 葉
公主嶺 大正十年七月二十八日 三浦密成

分布 全世界。

記事 本菌は菜豆類の葉を犯して葉枯病を起さしむるものにして夏季乾天打ち續くときは其發病も甚だしく被害部は殆んど葉の半ば以上に達し大害を與ふることあり而して原氏が *alternaria Azukiae* とせるものは其記載及び挿圖によれば本菌と同一なるものと如し。

419. **Alternaria Mali Roberts**, in Ag. Res. 2, No. 1, 57, 1914; K. Hara, in Fg. east. Asia, 51, 1928; (第六圖版E.)參照

寄主及產地	<i>Malus domestica</i> Borkh.	リンゴ	果實
熊岳城	大正九年十一月六日		三浦密成
大連	大正十五年十二月		三浦密成

分布 北米, 日本, 滿洲。

記事 本菌は滿洲に於ては苹果特に紅玉種の果實を犯して褐色斑點病を起さしむるものにして被害點は普通圓形をなして褐色其

縁邊は多少陥没し孤立するを常とするも稀に被害點が相接することあり貯藏中に發生すること多く一見斑點病(*Diaporthe Pomi* Miura, = *Cylindrosp. Mali* Cook. 菌の爲めに起る病害)の如きも被害部褐色なると果實を腐敗せしむること早きを以て直ちに區別することを得べく苹樹が寒害等の爲めに非常に衰弱したる場合には幹をも犯し得るものにして此際には被害部は始め黒色を呈して少しく興起し半圓形又は不規則なる圓形をなし普通半圓形をなす場合は其内方は遂に裂け此等相合して皮部を粗糙ならしめ恰も *Numularia* か又は *Coniothecium* 菌に犯されたるものゝ或時期の如き觀を呈す

余の檢したる菌は其孢子紡錘狀圓筒形倒棍棒狀をなし18箇の横膜ありて此部に於て多少縦れ縦膜は少なく淡煤色をなし表面に小突起を蒙り孢子の大きさ $10.69 \times 7-13 \mu$ 橢圓硬の長さ 75μ 幅 3.5μ ありて隔膜ある等全く Roberts 氏が Virginia 州より得たる苹樹葉上の本菌に一致し Cook 及び Martin 兩氏が New Jersey 州より得たる果實上の *Alternaria* 菌は本菌と同一なるが如く兩氏の述ぶる處によれば……………接種點は皮目を通じて行はるゝが如く又果實間に起れる壓傷其他の微傷よりも侵入し得べく被害部の組織は乾燥したる空隙となるを以て直ちに他の健全部と區別し得……………被害し易きは紅玉を主とし其他 Nero, Smokehouse, 翠玉等なりとし尙兩氏は苹果の尻腐れ及び心腐れを起さしむる菌とは全く別種なることを接種試験によりて證明し Longyear 氏が Colorado 州より曾て得たるものと全く異なりてその菌こそ尻腐れ及び心腐れを起す病原菌なるべしと稱し其豫防驅除試験を行ひたる結果藥劑撒布並に袋掛けの有効なることを實驗せり次に参考の爲めに熊岳城農事試験場にて施行したる本病豫防試験の結果を示さん。

區名	年度	大正十 二年	大正十 四年	昭和元年	度平均
對照區		84.0%	98.0	100.0	94.0
石灰硫黄合劑 ボーマン四度區		82.1	98.0	—	90.0
同 ボーマン一度區		—	—	46.0	46.0
ボルドー合劑區		10.2	32.0	1.5	19.1
銅石鹼液區		—	35.0	45.0	40.0

發芽前一回ボーマン五度液を用ひ四、五、六月下旬、七月上旬ニボーマン四度液を用ふ。

同上
ボーマン一度液

發芽第一回二斗五升式其後同上三斗式を用ふ。

發芽前一回十匁式其後同上八匁式

即ちボルドー液を使用せば甚だしく本被害より免がるゝを得べくまた四斗式ボルドー液に十分乃至三十分間浸ときは其被害歩合を減ずることを得べし。

420. *Alternaria Bokurai* (Bokura.), M. Miura, n. sp.

Syn. *Alternaria* sp. Bokura, in Ex. St. Rpt. Dept. of Ag. Nishigahara 1919, in l. c. 1918;

Alternaria Gaisen Nagano, in Jour. Gard. Jap. 32, No. 3, 16-19, 1920; K. Hara, in Fg. eastern Asia, 50, 1928;

Alternaria Nashi M. Miura, in 滿洲の果樹園經營 155, 1925;

Alternaria Gaisen (Nagano.) Hara, in Handb. 263, 1925;

寄主及產地	Pirus spp.	梨類	葉, 果實
熊岳城	大正九年九月		三浦密成
熊岳城	大正八年九月二十七日		三浦密成
熊岳城	大正十五年九月		原 攝祐

分布 日本, 滿洲。

記事 本菌は滿洲に於ては支那梨紅梨種の果實を犯して腐敗せしめ年々其被害少なからず其胞子の表面平滑なるを以て *Macrosporium*

Sydowianumと異なりまた *M. Pirorum*; *M. Puttemansii* とは胞子の形ち異なる。

本菌の果實上に生じたる成熟せる胞子は一見 *Macrosporium* の如くにして余は始め *Macrosporium Nashi* として手記中に收めたりしが之れが發芽試験を行ふに當り其 *Alternaria* 菌なることを知り後梨の葉上に之を得て益々其考を深くせり而して本菌の學名に關しては長野氏は *Alternaria Gaisen* と呼びたれども其菌の記載を缺くを以て之れを採用すること能はず原氏は *Alternaria Gaisen (Nagano,) Hara* として發表せるも之れより先きと藏梅之南氏は *Alternaria sp.* として發表せるものなるが故に余は同氏を紀念せん爲め上記の學名を附したり尙邦名に關しては余は梨の黒色腐敗病と呼び來りしも日本に於て既に梨の黒斑病と稱せられあるを以て之れに従ふを正當なりと考ふ。

今次に余の手記によりて本菌の記載を試みん。

Spots circular, irregular, at first small, but later enlarges and becomes an considerable area, brown, 6-8 c. m. across; tufts minute, aggregate or confluent and arranged in concentrical zone, often irregularly scattered; spores muriform, obclavate, oblong, 3-5 transverse septa, 1-8 longitudinal septa, constricted, smooth, feruginous or yellowish smoke color, $28-57 \times 14.5-23.5 \mu$, rarely 100μ in long; conidiophores in bundle, septate, dark colored, about 100μ long and 5μ wide.

On the leaves, the spot is circular or ovate and from 5 to 8 mm. across; but when confluent, it enlarges considerably forming an irregular shaped spot, it attains even from 2 c.m. across to occupy the half of the leaf blade, whitish gray in color on the upper surface and brown on the

opposite side; atufts are conformed a net-work-like manner upon the veinlets on the upper surface of the leaf, black and flocculent appearance, the spores are slightly smaller than that found on the fruits, but all aspects just coinsides wit it.

421. *Alternaria Cerasi* Potebnia, in Ann. Myc. 5, 22, 1907; Traverso, in Soc. Nat. Univ. Kharkov. 43, 1907; Sacc. Syll. 22, 1410, 1913; Oudemans, in Euum. 3, 718, 1921;

(第六圖版 F.) 参照

寄主及產地 *Prunus Cerasus* L.

サクランボ

葉

大連

昭和三年六月三十日

三浦密成

分布 露國, 滿洲。

記事 本菌は櫻桃の葉を犯すものにして葉縁は初め淡綠色より黄色, 褐色, に變じて成長止まるが故に縁邊は巻き込み被害部擴張せらるゝに従ひ遂には葉の半ば以上に達し落下するに至る而して變色部は黒褐色に變ずるに至れば葉の兩面に求心狀又は不規則に濃オリーブ色の菌叢を生ずるものにして乾燥せる時期に多く被害大なるも分布區域大ならず余は之を「櫻桃の葉卷枯病」と呼ばんと欲す。

原攝裕氏は大正十五年九月哈爾濱に於て櫻桃上に一種の *Alternaria* 菌を採集して東亞菌類誌五十一頁に *Alternaria* sp. として述べたるものは本菌に稍近きも其菌叢は葉の下面にのみ生ずると擔子梗は長くして $43-77\mu$ に達し胞子は $33-42 \times 9-11\mu$ とあり本菌の原記載によれば擔子梗の長さ $35-50\mu$ あり胞子は $50-60 \times 17-20\mu$ ありて原氏の菌は其幅狭し而して本菌の原記載によれば横隔膜は四乃至六箇縦隔膜は六箇ありとせるも余の標本に於ては胞子の大きさ

45-79×12-18 μ 櫛子梗は25-35×5 μ 横隔膜の數八箇に達するものあり縦膜の數は原記載よりも少なし。

422. Alternaria Solani (Ell. et Mart.) Jones & Grout, in McAlpine, Jour. of Ag. Victoria, 464, 1904; Sacc. Syll. 18. 624, 1906; Butler, in Fg. & dis. pl. 287, 1918; Oudemans, in Enum. 4, 636, 1923; **Syn.** *Macrosporium Solani* Ell. et Mart. in Amer. Nat. 1003, 1883; Sacc. Syll. 4, 530, 1886; Lindau, Rabh. Krypt. 9, 247, 1910; A. Ideta, in Handb. 769, 1911;

Alternaria Solani Sorauer, in Zeitsch. Pflanzenk. 2. 6, 1896; Sydow, in Ann. Myc. 11, 118, 1913; Stevens, in Pg. w. c. pl. dis. 623, 1913; I. Miyake, in Bot. Mag. Tokyo, 28. 55, 1914;

寄主及産地 *Datura stramonium* L. キチガヒナスビ 葉
熊岳城 大正九年十月一日 三浦密成
分布 歐洲, 米國, 印度, 日本, 北清, 滿洲。

記事 本菌は其寄主の葉を犯して大害を與ふるものにして1917年 Rands 氏は *Phytopathology* 誌上に於てキチガヒナスビの葉を犯す *Alternaria* 菌は頂頸部は細長にして數箇の隔膜を有し大さ128-448×16-40 μ ありとし之れを *Alternaria crassa* と呼び新種となせるも吾人の菌は頂部細胞は細長にして一箇の隔膜を有し大さ97-200×12-19 μ あり頸部の長さ54-120 μ 幅3 μ ありて全く本菌の原記載と一致す。

Macrosporium Fries.

本屬は前屬と異ならずたゞ胞子が單生なるの差あるのみ原氏は滿洲に於て棉上に生ずる *Macrosporium nigricanthium* Atk; 小豆に生

する *Macrosporium Azukiae* Hara; 及び高粱の葉上に生ずる *Macrosporium fasciculata* C. et E. の三種を採集し居るも余は一も採集せず蓋し其被害多からざるが爲めなるべし此等は今後充分調査研究の上述ぶることあるべく本報告には之れを略せり

(に) Dematiaceae-Scolecosporae.

擔子梗は單一又は分岐し有色にして隔膜を有し胞子は蠕狀乃至絲狀にして直なるか少しく灣曲し有隔無色又は有色、頂生又は側着す次の三屬を滿洲に見る。

屬 の 檢 索 表

1. 胞子は無色にして頂生及び側着す……………*Cercosporina*.
 胞子是有色擔子梗は單一又は樹枝狀をなす……………2.
2. 擔子梗は單一にして胞子を頂生す……………*Cercospora*.
 擔子梗は樹枝狀にして胞子は頂生及側生す……………*Cercosporiopsis*.

Cercospora Fries.

擔子梗は單一又は分岐し胞子を頂生す其或種の子囊時代は *Mycosphaerella* に屬す滿洲に九種を見る。

423. *Cercospora Betae* (Rabh.) Frank, in Krankh. d. Pfl. 1 Aufl. 601, 1880; Sacc. Syll. 10, 637, 1897; Lindau, in Rabh. Krypt. 9, 95, 1970; Sydow, in Ann. Myc. 11, 117, 1913; Oudemans, in Enum. 2, 1029, 1920;

(第六圖版 G.) 参照

Syn. *Fusarium Betae* Rabh. in Fg. Eur. No. 69, 1859;

寄主及産地	<i>Beta vulgaris</i> L.	サトウダイコン	葉
公主嶺	大正五年七月二十八日		宮部憲次
公主嶺	大正六年八月十日		宮部憲次
公主嶺	大正八年八月八日		三浦密成
公主嶺	大正九年七月三十日		三浦密成
四平街	大正十年七月十四日		三浦密成
撫安	大正七年七月十四日		中野某

分布 歐洲、米國、日本、朝鮮、滿洲。

記事 本菌はサトウダイコンの葉を犯して斑點病を起さしむるものにして世上よく褐斑病と混同するものあるも兩者は肉眼的にも顯微鏡的にも明らかに區別し得るものにして滿洲に於ては本菌は普通六月より八月上旬の間に發生し其被害部の縁邊に有色輪を缺き擔子梗は單一にして一二の隔膜あり胞子は長さ 290μ に達するものあり且つ其基部は多少尖りたる圓みを帶ぶ然るに褐斑病被害部は滿洲に於ては八月中旬以後に現はれ且つ被害部の縁邊には帶紫血赤色帶あり擔子梗は樹枝様にして胞子は頂生並に側着し其長さは余の測定せるものは 216μ より長きものなく且つ其基部は圓くして其被害も前者より甚だしく滿鮮地方に於ては甚だしき害を蒙るを常とす。

424. *Cercospora dubia* (Riess.) Winter, in Hedw. 22, 10, 1883;
 Sacc. Syll. 4, 456, 1886; Sydow, in Ann. Myc. 7, 171, 1909;
 Davis, in Prov. List, 891, 1914; Oudemans, in Enum. 2, 1036,
 1920;

Syn. *Ramularia dubia* Riess. in Hedw. 1, 1854;

Cercospora dubia (Riess.) Lindau, in Rabh. Krypt. 9, 93, 1910;

寄主及産地 *Chenopodium album* L. アカザ 葉

奉天北陵 大正七年九月二十四日 三浦密成

分布 歐洲, 北米, 日本, 滿洲.

記事 本菌はアカザの葉を犯すものにして *Cercospora Chenopodii* Fresen. 菌と混同せらるゝことあるも被害部縁邊に紫赤色帯あるを以て之れと明らかに區別するを得べく Bubak 氏は *Annales Mycologici* 第六卷 (1908) に於てアカザ類に生ずる *Cercospora* を *Chenopodii* Friess. となし *Cercosp. dubia* (Riess.) Bubak (non Winter.) は常に *Atriplex* 類を犯すとなせるが之れ *C. dubia*, var. *atriplicis* に相當する菌なること明らかなり.

425. *Cercospora Mali* Ev. et Ell. in Jour. Myc. 116, 1888: Sacc.

Syll. 10, 643, 1892; K. Hara. in *Fg. eastern Asia*, 48, 1928;

寄主及産地 *Malus domestica* Borkh. リンゴ 葉

熊岳城 大正十五年九月 原 攝祐

分布 北米, 滿洲.

記事 本菌は苹果の葉を犯して一種の斑點病を生ずるものにして余は未だ本菌を採集したることなきも原氏によれば被害部は始め暗褐色の汚點をなすも後明瞭となり茶褐色にして圓形又は稍楕圓形をなし縁邊暗紫褐色をなし長さ 2-5 m.m. 擔子梗は線狀にして多少屈曲するもの又は眞直なるもの等あり單一, 單胞又は二三の膜あり $12-26 \times 2.5-3 \mu$. 胞子は倒棍棒狀又は蟲狀をなし基部に向ひて少しく太く頂端は尾狀に伸長し 3-5 個の隔膜あり $44-58 \times 3-$

4.8 μ あり黄褐色なりと然るに原記載によれば其擔子梗は *Gibbosodenticulatis* とあり其長さ 15-20 \times 2.5-3 μ . 胞子は四乃至五個の隔膜ありて長さ 60-70 \times 2-2.5 μ 其色 *flavido-hyalinis* とあるが故に之れ正しく後に述ぶる *Cercosporiopsis* に入るものにして其胞子の幅も原氏のものより狭く余は原氏の記載せるものは果して *C. Mali* Ell. et Ev. となすべきものなるや否やに關しては多少疑なき能はず後考を期す。

426. *Cercospora Cladrastidis* Jacz. in Fg. Ross. exs No. 350.
1899; Sydow, in Ann. Myc. 12, 165, 1914;

寄主及產地 *Maackia amurensis*, Buergeri. イヌエンジュ 葉

通子館(安奉線)	大正七年七月一日	三浦密成
草河口	大正七年七月四日	三浦密成
吉林	大正七年八月十七日	三浦密成
土們嶺	大正七年八月十九日	三浦密成

分布 日本, 滿洲。

記事 本菌は 1895 年八月二十六日及び九月七日黑龍江支流 Kirma 河沿岸及び翌年八月吉林省牡丹江支流 *Dschus-di-cho* 附近に於て Komarov 氏之れを採集したるものを Jaczewski 氏が新種となせるものにして其後日本北海道及び東北地方に發見せられ本寄主には普通に生ずる菌なり。

Cercosporina Spegazini.

本屬の擔子梗は有色有隔にして單一稀に分岐し樹枝様瘤起部あり此處にも胞子を附着し胞子は前屬のものゝ如くして無色なるを

以て之れと區別せられ 1910 年 Spegazzini 氏が *Annales del Museo Nacionale de Buenosaries* 二十卷四二四頁に於て新屬を設定せるものにして滿洲に九種を知らる。

427. Cercosporina Chenopodii (Fres.) M. Miura, n. sp.

Syn. *Cercospora Chenopodii* Fres. in Beitr. 3, 92, 1863; Fuckel, in Symb. 354, 1869; Bubak, in Ann. Myc. 6, 1908; Sacc. Syll. 22, 1429. 1913; K. Togashi, in Jap. Jour. Bot. 2, 99, 1924; K. Togashi, & N. Hiratsuka, in Trans. Sapp. Ag. and Forest. 16, No. 68, 80, 1924:

Cercospora beticola Oudemans, (non Winter.) in Enum. 2, 1036, 1920:

(第六圖版 K.) 参照

寄主及產地	<i>Chenopodium album</i> L.	アカザ	葉
吉林	大正七年八月十七日		三浦密成
族 順	大正十年八月八日		三浦密成

分布 歐洲, 南米, 日本, 滿洲。

記事 本菌は *Cercospora dubia* Winter 菌に酷似するも被害部に紫赤色縁帶なく孢子側着するを以て之れと異なり且つ擔子梗長し。

Spegazzini 氏の *Cercosporina* 屬の記載中擔子梗に關しては *hyphis olivaceis apice denticulatis simplicibus efformanti* とあるも余は之れを多少訂正するを必要と認む即ち..... *hyphis olivaceis, simplices, septatis, denticulato-sporiferii*, とせんとす。

- 428. *Cercosporina beticola* (Sacc.) Nakata, Nakajima and Takimoto,**
in Rpt. Ag. Korea, No. 6, 1915; K. Hara, in Fg. eastern Asia,
46, 1928;

(第六圖版 H.) 参照

Syn. *Cercospora beticola* Sacc. in Nuov. Giorn. Bot. ital. 8, 189,
1876; in Syll. 4, 446. 1886. Thümen, in Pilz. Sib. No. 834. 1881;
Lindau, in Rabh. Krypt. 9, 94, 1910; Duggar, in Fg. dis. pl. 309;
1909; A. Ideta, in Handb. 1911; Stevens, in Fg. w.c. pl. dis.
628, 1913; Sydow, in Ann. Myc. 11, 117, 1913; K. Sawada, in
Fg. List. Form. 2, 144. 1922; Oudemans, in Enum. 2, 1029,
1920;

寄主及産地	<i>Beta vulgaris</i> L.	サトウダイコン	葉
公主嶺	大正五年八月二十八日		宮部憲次
公主嶺	大正七年十月十日		三浦密成
公主嶺	大正八年九月二日		三浦密成
鄭家屯	大正八年九月二十二日		三浦密成
開原	大正九年九月		三浦密成
鐵嶺	大正九年九月		三浦密成
奉天	大正九年九月		三浦密成
新臺子	大正九年九月		三浦密成
撫安	大正九年九月		三浦密成
遼陽	大正九年九月		三浦密成
熊岳城	大正八年九月三十日		三浦密成

分布 全世界。

記事 本菌はサトウダイコンの葉を犯して褐斑病を起すものに

して朝鮮にては其被害大にして本病發生の多少は直ちに其年の砂糖生産量に關係し従つて製糖業を左右するに至り朝鮮にては八月下旬より九月上旬の間に落葉して一葉をも残さざるに至ることありて收穫期に於ける含糖量は 9% 以下に減ぜらるゝことあり滿洲にても逐年其被害大となる。

本病原菌は *Cercospora Betae* と混同せられ考へらるゝこと多きも被害部縁邊に紫赤色の變色帶を有して健全部と堺せられ且つ擔子梗は樹枝様小瘤部あり胞子は短かくして頂生するのみならず側着するを以て直ちに之れと區別することを得。

429 *Cercosporina sojaena* Hara, in Dis. of cult. pl. & trees, 112 in Fg. east. Asia, 47, 1928;

Syn. *Cercospora Sojina* Hara, in Ag. World, 9, No. 10, 1915;

Cercospora Daizu Miura, in Some imp. Fg. dis. of ag. pl.

Manch. 27, 1920; Samuel, G. in Ag. Res. 36. 811-833, 1928;

寄主及產地 *Glycine Soja* (L.) Benth. ダイヅ 葉

土們嶺 大正七年八月十九日 三浦密成

哈爾賓 大正十五年九月 原 攝祐

溫崗子 大正十五年九月 原 攝祐

Glycine ussuriensis Rgl. et Maack. ツルマメ 葉

土們嶺 大正七年八月十九日 三浦密成

分布 日本、滿洲。

記事 本菌は大豆及び野生のツルマメの葉を犯して斑點病を起さしむるものにして滿洲に於ては其被害大ならず。

本菌は大正四年原攝祐氏は日本に於て採集して *Cercospora Sojina* なる學名を以て農業國第九卷十號に發表せりと云ふ然るに余は此

記事を見ざりしを以て滿洲にて採集せるものを新種と認め *Cercospora Daizu* として滿洲主要農作物の病害に於て發表せり其記載は原氏のものは日本語を以てし余は英語によれるも近來日本語を以て記載せらるゝ新種も學界に之れを認めらるゝの傾向あるが故に原氏の記述を採用せりたゞ原氏は其種名を *Sojina* として *S* を花文字にて書きたるが人名に據りたる場合の外種名の語尾が所有格を表はす以外に於ては普通文字を用ゐる規約なると屬の語尾が女性なるを以て余は之れを *sojaena* に改め置けり。

129b. *Cercosporina Kikuchii* Matsumoto & Tomoyasu, in Annals Jap. Phytopath. Soc. I. No. 6. 11, 1925:

寄主及産地 *Glycine Soja* Thunb.

ドイツ 實

公主嶺

大正十三年十月

三浦密成

分布 日本、滿洲。

記事 本菌は大豆の種子表皮細胞間に蔓延するのみならず子葉尋常葉莢稀に莢をも犯して紫斑を生ずるものにして子實皮の綠色なる種類黃色なる種數にては特に明らかにして普通臍部を中心として縁邊不鮮明なる紫斑を生じ時に其面積の半ば以上を變色せしめ賣品としての品位を下すものにして罹病種子を播種すれば其被害特に多く近來滿洲の大豆にして本菌に犯さるゝもの年と共に増加の傾向あり大豆病害の恐るべきものゝ一なり。

430. *Cercosporina ricinella* (Sacc. et Berl.) Speg, in An. Mus. Nac. Buenos Aires. 20. 429, 1910. Sacc. Syll. 22, 1432, 1913: Butler. in Fg. and dis. pl. 351, 1918: Oudemans, in Enum. 3. 1068, 1621:

Syn. *Cercospora ricinella* Sacc. et Berl. in Misc. Mycol. 2, 11, 1885;
 in Syll. 4, 456, 1886; Hara, in Fg. easit. Asia, 48, 1028; K.
 Nakata, in Dis. cult. pl. Korea, 64 1928;

Cercospora albido-maculans Winter. in Hedw. 202, 1885;

寄主及産地 Ricinus communis L. ヒマ 葉

公主嶺 大正十年八月二十日 三浦密成

分布 歐洲, 北米, 東印度, 朝鮮, 滿洲.

記事 本菌の原記載によれば擔子梗の長さ $60-70\mu$ 幅 4.5μ とあるも余は長さ 140μ に達するものを側定し胞子は $6-7$ 個の隔膜ありて長さ $90-100 \times 4-6\mu$ とあるに余は隔膜の數三十四個長さ 300μ に達するものを側定し得たり.

430. *Cercosporina Physalidis* (Ell.) M. Miura, n. sp.

Syn. *Cercospora Physalidis* Ell. in Amer. Natur. 810, 1882; Sacc.
 Syll. 4, 450, 1886;

寄主及産地 Physalis Alkekengi L. ホホヅキ 葉

公主嶺 大正十年十月一日 三浦密成

分布 北米, 滿洲.

記事 本菌はホホヅキの葉を犯して白色斑點病を起さしむるものにして Spegazzini 氏が南米にて發見せる *Cercosporina physalidicola* 菌と比するに其被害部白色なると擔子梗が樹枝様突起を有する點之れと異なり擔子梗の長さは略ぼ一致し Ellies 氏の *Cercospora Physalidis* とせるものとは擔子梗少しく長き外全く一致し擔子梗の性質によりて本屬に移せるものにして今余の手記を次に述べる.

Spots circular, oval or angular when restricted by veinlets, ashen gray

on the upper side and brownish gray on the corresponding under surface of the leaf, circulated with a dark brown colored line, 1.6 m.m. across and somewhat thinner than the healthy part; tufts amphigenous, minute and black, scattered; coniphores born in bundles through stomata, about 7-13 in number, pale sepia-color, paler toward apex with from 1 to several nodule-like projections from them conidiospores attaches, $80-110 \times 4-5 \mu$, 1-3-septate; spores cylindrico-clavate, straight or curved, gently narrowed to apex, hyaline, 5-10-septate without constriction, $46-75 \times 5-6 \mu$, rarely 130μ long.

431. Cercosporina Melongenae Wals., in Hara. Fg. eastern Asia, 46, 1928;

Syn. *Cercospora Solani-Melongenae* Hori.

寄主及産地 *Solanum nigrum* L.

ナスビ 葉

哈爾賓 大正十五年九月

原 攝祐

分布 歐洲、日本、滿洲。

記事 本種は滿洲に於ては原氏始めて採集せるものにして余は其標本を見るの機會なく従つて何等の意見をも述ふべき材料なし

432. Cercosporina elongata (Peck.) Speg. in Ann. Mus. Nac. Buenos Aires. 20, 1910; Sacc. Syll. 22, 1432, 1913; Oudemans. in Enum. 4, 865, 1923;

(第六圖版 L.) 參照

Syn. *Cercospora elongata* Peck, in 33rd Rpt. St. Mus. 29, 1883; Sacc. Syll. 4, 442, 1886;

寄主及産地 *Dipsacus Fullonum* L.

葉

公主嶺 大正八年九月二日

三浦密成

分布 北米、南米、日本、滿洲。

433. *Cercosporina Apii* (Presen.) M. Miura, n. sp.

Syn. *Cercospora Apii* Fresen. in Beitr. 3. 91. 1863; Fuckel, in Symb. Myc. 358. 1869; Thümean. in Pilz. Sib. No. 477. 1880; Sacc. Syll. 4. 442. 1886; Duggar. in Fg. dis. pl. 312. 1909; Lindau. in Rabh. Krypt. 9. 123. 1910; Stevens. in Fg. w. c. pl. dis. 628. 1913; Butler. in Fg. & dis. pl. 315. 1918; Ouedemans, in Enum. 4. 212. 1923; Nakata. in Dis. cult. pl. Korea. 80. 1928;

寄主及産地 *Apium gravecoleus* L.

オランダミツバ

葉

公主嶺 大正六年八月二十日

赤石行雄

吉 林 大正七年八月十七日

三浦密成

分布 歐洲、北米、東印度、日本、朝鮮、滿洲。

記事 本葉は主として葉を犯すものなるも其葉柄をも犯し得るものにして此場合に於ける被害は恐るべきものあり從來 *Cercospora* 屬に收められしも其擔子梗の性質により余は之れを本屬に移すを正當なりと考へたり。

Cercosporiopsis M. Miura, gen. nov.

Conidiophores simple, denticulato-nodulate, colored; spores born on apex as well as side-wise on nodules, filiform, vermiform, cylindric, 2 or more septate, colored, other characters as in the case of the genus *Cercospora*.

本属は従来 *Cercospora* 中に收められたるものなるが其擔子梗は樹枝様瘤狀にして此瘤狀上及び頂上に胞子を着くるを以て異なる滿洲に八種を發見す。

434. *Cercosporiopsis Menispermis* (E. et H.) M. Miura, n. sp.

Syn. *Cercospora Menispermis* E. et Holway, in Jour. Myc. 4, 6, 1888;

Sacc. Syll. 10, 618, 1892; Lindau, in Rabh. Krypt. 9, 97, 1910;

K. Hara, in Fg. eastern Asia, 49, 1928;

寄主及産地 *Cocculus* sp? 葉

湯崗子 大正十五年九月 原 攝祐

Menispermum dahuricum DC. カウモリカツラ 葉

湯崗子 大正七年九月十三日 三浦密成

分布 北米、歐洲、滿洲。

記事 原氏は本寄主を *Cocculus* sp? とせられたるも余は未だ關東洲外に *Cocculus* 類の存するを聞かず恐らくカウモリカツラの葉の少しく變形したるものなるべし本菌は發生多からず。

435. *Cercosporiopsis Gotoanus* (Togashi.) M. Miura, n. sp.

Syn. *Cercospora Gotoana* Togashi, in Jap. Jour. Bot. 2, 100, 1924;

寄主及産地 *Sorbaria sorbifolia*, var. *stellipela*,

ホザキナナカマド 葉

通子峪 大正七年七月一日 三浦密成

分布 日本、滿洲。

記事 本菌は富樫浩吾氏によりて *Cercospora Gotoana* と命名せられたるものなるが其擔子梗の狀並に胞子附着の有様は前種と等



しく全く本屬に入るべきものなるを以て余は之れを本屬に移したり。

本菌の標本は明治二十六年 (1903) 八月二十七日半澤洵氏之れを北海道小樽中山にて採集せるを始めとし明治四十年 (1907) 八月十五日余は之れを利尻山にて採集し後富樫氏も亦同地に發見し後藤氏の姓によりて上記の學名を附せるものにして滿洲にも之れを産す (*Cercospora Krugeriana* Bresad. 菌に近似するも擔子梗長きと胞子の色之れと異なる。

436. *Cercosporiopsis canescens* (E. et M.) M. Miura, n. sp.

Syn. *Cercospora canescens* Ell. et Mart. in Amer. Nat. 1003. 1882;

Sacc. Syll. 4. 435. 1886; Oudemans. in Enum. 3. 966. 1921;

寄主及產地 *Azuki* minima (Roxb.) Miura. ヅレアヅキ 栗

旅 順 大正十年 月一日 三浦密成

分布 北米, 滿洲。

記事 本菌の原記載には胞子 hyaline とあるも余の標本にては淡黄色なるを以て本屬に收む *Cercosp. olivascens* Sacc. 菌に近きも菌叢の位置及び胞子の色之れと異なり *C. cruenta* Sacc. *C. columnaris*, *C. Stuhlmanni*, *C. Phaseolorum* 等とは擔子梗の長さ胞子の色及び長さ等異なり比較して論ずるの必要なし。

437. *Cercosporiopsis personatum* (B. et C.) M. Miura, n. sp.

Syn. *Cercospora personata* (B. et C.) Ell. in Jour. Myc. 1. 63. 1885;

Sacc. Syll. 4. 439. 1886; A. Ideta, in Handb. 755. 1911; I. Miyake,

in Bot. Mag. Tokyo. 26. 65. 1912; Stevens, in Fg. w. c. pl. dis.

629, 1913; Tharp, in Mycologia. 9. 112, 1917; Butler, in Fg. & dis. pl. 319, 1918; K. Sawada, in Fg. Form. 2. 156, 1922; K. Nakata, in List. Fg. dis. Korea. 73, 1928; K. Hara, Fg. east. Asia, 47, 1928.

Cercospora Arachidis Henn. in Hedw. 42. 18, 1902; Sacc. Syll. 18. 600, 1906;

Septogloem Arachidis Racib.

Cladosporium personatum B.et C. in Grev. 3. 106. 1874;

寄主及産地 *Arachis hypogaea* L. ナンキンマメ 葉

熊岳城 大正五年九月七日 宮部憲次

熊岳城 大正七年九月十五日 三浦密成

熊岳城 大正八年九月二十八日 三浦密成

熊岳城 大正十年十月 北澤 道

分布 歐洲, 北米, 日本, 滿洲。

記事 本葉はナンキンマメの葉を犯して黒斑病を起すものにして Hennings 氏の *Cercospora Arachidis* と稱するものも(ブラジル産)本菌に異ならずして本菌の同種異名となすべきものなり, また *Cercospora arachidicola* S. Hoi. 菌は日本に産し其胞子無色にして擔子梗樹枝様なるを以て之れ正に *Cercosporina* 屬に編入せらるべきものなり。

438. *Cercosporiopsis profusus* (Syd.) M. Miura, n. sp.

Syn. *Cercospora profusa* Sydow. in Ann. Myc. 7, 175, 1909; Sacc. Syll. 22, 1421, 1913;

寄主及産地 *Acalypha anstralis* L. エノキグサ 葉

629, 1913; Tharp, in Mycologia, 9, 112, 1917; Butler, in Fg. & dis. pl. 319, 1918; K. Sawada, in Fg. Form. 2, 156, 1922; K. Nakata, in List. Fg. dis. Korea, 73, 1928; K. Hara, Fg. east. Asia, 47, 1928.

Cercospora Arachidis Henn. in Hedw. 42, 18, 1902; Sacc. Syll. 18, 600, 1906;

Septogloem Arachidis Racib.

Cladosporium personatum B.et C. in Grev. 3, 106, 1874;

寄主及産地	<i>Arachis hypogaea</i> L.	ナンキンマメ	葉
熊岳城	大正五年九月七日		宮部憲次
熊岳城	大正七年九月十五日		三浦密成
熊岳城	大正八年九月二十八日		三浦密成
熊岳城	大正十年十月		北澤 道

分布 歐洲, 北米, 日本, 滿洲。

記事 本菌はナンキンマメの葉を犯して黒澁病を起すものにして Hennings 氏の *Cercospora Arachidis* と稱するものも(ブラジル産)本菌に異ならずして本菌の同種異名となすべきものなり, また *Cercospora arachidicola* S. Hoi, 菌は日本に産し其孢子無色にして擔子梗樹枝様なるを以て之れ正に *Cercosporina* 屬に編入せらるべきものなり。

438. *Cercosporiopsis profusus* (Syd.) M. Miura, n. sp.

Syn. *Cercospora profusa* Sydow, in Ann. Myc. 7, 175, 1909; Sacc. Syll. 22, 1421, 1913;

寄主及産地	<i>Acalypha anstralis</i> L.	エノキグサ	葉
-------	------------------------------	-------	---

吉 林	大正七年八月十七日	三浦密成
公主嶺	大正七年八月十四日	三浦密成
奉 天	大正七年九月二十四日	三浦密成
大 連	昭和二年十月二日	三浦密成

分布 日本, 満洲。

記事 本菌の基本標本は土佐に於て吉永虎馬氏の採集せるものにして Sydow 氏は *C. Acalyphae* Peck., と異なるものとして之れを新種とせるが *Cercospora acalypharum* Tharp., 菌とは菌叢の位置及び狭くして有色なる胞子等によりて區別し得るものにして正に本屬に移すべきものなるを以て余は之れを本屬中に入れ新種となしたり。

439. *Cercosporiopsis Vitis*(Lév.) M. Miura, n. sp.

Syn. *Cercospora Vitis*(Lév.) Sacc. in Rabh. Fg. Eur. No. 2150; Lindau. in Robh. Krypt. 9, 116, 1910; Oudemans, in Enum. 3, 1281, 1921;

Septonema Vitis Lév. in Ann. Sc. Nat. 3, ser. 9, 261, 1848; Sacc. Syll. 4, 398, 1886; Lindau, in Rabh. Krypt. 9, 29, 1910. ♀

Cladosporium viticolum Ces. in Klotzsch. Herb. Myc. No. 1872, 1854;

Cladosporium ampelinum Passer. in Erb. Crit. ital. 2, ser. N. 595, 1872;

Graphium clavisporum B, et C. in Grev. 3, 100, 1874;

Isariopsis clavispora Sacc. Syll. 4, 63, 1886;

Cladosporium Vitis Sacc. in Myc. Venet. No. 284, 1875;

Cercospora Vitis Sacc. in Myc. Venet. No. 363, 1875;

Cercospora viticola (Ces.) Sacc. in Syll. 4. 458, 1886; Duggar, in Fg. dis. pl. 314, 1909 A. Ideta, in Handb. 763, 1911; I. Miyake, in Bot. Mag. Tokyo, 26, 65, 1912; Stevens, in Fg. w. c. pl. dis. 626, 1913; Davis, in Prov. List, 893, 1914;

Helminthosporium Vitis Pirota, in Arch. Lab. Bot. Critt. Pavia, 2-3, 85, 1877;

Phaeoisariopsis Vitis (Lév.) Sawada, in Fg. List of Formosa, 2, 164, 1920; K. Nakada, & K. Takimoto, in Dis. cult. pl. Korea, 139, 1928;

寄主及産地	<i>Vitis vinifera</i> L.	ブドウ	葉
熊岳城	大正三年八月二十七日		宮部憲次
熊岳城	大正三年九月七日		宮部憲次
熊岳城	大正七年九月十六日		三浦密成
蓋平	大正八年九月二十七日		三浦密成
奉天	大正五年九月五日		宮部憲次

Vitis amurensis Rupr. ヤマブドウ 葉

公主嶺	大正十年九月十二日	三浦密成
公主嶺	大正十二年九月八日	三浦密成

分布 歐洲, 北米, 日本, 滿洲。

記事 本菌は葡萄の葉を犯して斑點病を起さしむるものにして時に落葉を早めて大害を與ふることあり特に本菌を野生の葡萄葉上に發見せるは注意すべき事なり。

本菌は種々の同種異名を有し從來普通に *Cercospora viticola*, 又は *C. Vitis* として知られたるが澤田兼吉氏は之れを *Phaeoisariopsis* 屬

に入れ *Ph. Vitis* (Lév.) Sawada, とせり此 *Phaeoisriopsis* なる屬名は Teodoro Ferraris 氏が設定して 1909 年 *Annales Mycologici* 第七卷に於て述べたるものにして從來の *Isariopsis* の性質を有して胞子の有色なるものを編入せるものにして澤田氏は本菌の擔子梗は束をなし胞子有色なるの理由を以て *Phaeoisariopsis* 屬に入れたるものなるも余の考を以てすれば其擔子梗束は普通に見る *Isariopsis* 屬の如く密ならざるを以て之れを *Stilbaceae* 中に入るゝよりも *Dematiaceae* 中に入るゝを正當ならずやと思はれ従つて本屬中に來るものなるを以て上記の如く變更せり而して其擔子梗束の緩なるや否やは之れを見るものによりて自ら其意見も異なるものにして不完全菌類の分類に缺陷あるはかゝる點にも表はれ來るものなり。

440. *Cercosporiopsis Araliae* (Henn.) M. Miura, n. sp.

Syn. *Cercospora Araliae* P. Henn. in Engl. Bot. Jahrb. 31, 742, 1902; in l.c. 37, 165, 1905; A. Ideta, in Handb. 766, 1911; Sydow in Ann. Myc. 11, 117, 1913; Sacc. Syll. 22, 1422, 1613;

寄主及產地 *Aralia mandshurica* Rup. et Max. オニダラ 葉

鳳凰山 大正七年九月二十九日 三浦密成

鳳凰山 大正十年十月十六日 三浦密成

分布 日本, 滿洲

441. *Cercosporiopsis Miurai* (Syd.) M. Miura, n. sp.

Syn. *Cercospora Miurae* Sydow, in Ann. Myc. 11, 117, 1913; K. Togashi, in Jap. Jour. Bot. 2, 100, 1924;

寄主及產地 *Cynanchum chinensis* R. Br. ヒメイケマ 葉

興安嶺	大正十二年七月	三浦密成
<i>Cynanchum</i> sp.		旅順
旅順	大正八年十月三日	三浦密成
<i>Metaplexis japonica</i> (Thunb.) Makino.		ガガイモ 葉
湯崗子	大正七年九月十三日	三浦密成
分布 日本、滿洲。		

記事 本菌の基本標本は札幌附近に於て1907年余が採集して命名者に送附せるものにして原記載には隔膜數1-3, 胞子の長さ10-28×6-9 μ とせるも余が同一標本にて見たるに隔膜の數四乃至五個のもの少なからず且つ胞子の長さも60 μ に達するものあり。

(ハ) Stilbaceae.

本科も亦胞子の隔膜の數、色の有無等によりて九亞科に分たれ滿洲には次のもの知る。

(イ) Hyalostilbeae-Phragmosporae.

Isariopsis Fries.

442. *Isariopsis alborosella* (Desm.) Sacc. in Mich. 1. 237, 1879; in Syll. 4. 630. 1886; Lindau, in Rabh. Krypt. 9. 395, 1910; Oudemans, in Enum. 3. 5, 1921; K. Togashi, in Jap. Jour. Bot. 2. 101, 1924;

Syn. *Stysanus alborosella* Desm. in Ann. Sc. Nat. 3, Ser. 20, 217, 1853;

Isariopsis pusilla Fresen, in Beitr. 3, 87, 1863; Schroeter, in Pilz, Schles. 495, 1889;

興安嶺	大正十二年七月	三浦密成
<i>Cynanchum</i> sp.		旅順
旅順	大正八年十月三日	三浦密成
<i>Metaplexis japonica</i> (Thunb.) Makino.	ガガイモ	葉
湯崗子	大正七年九月十三日	三浦密成
分布 日本、滿洲。		

記事 本菌の基本標本は札幌附近に於て1907年余が採集して命名者に送附せるものにして原記載には隔膜數 1-3, 胞子の大きさ $10-28 \times 6-9 \mu$ とせるも余が同一標本にて見たるに隔膜の數四乃至五個のもの少なからず且つ胞子の長さも 60μ に達するものあり。

(ハ) Stilbaceae.

本科も亦胞子の隔膜の數、色の有無等によりて九亞科に分たれ滿洲には次のもの知らる。

(い) Hyalostilbeae-Phragmosporae.

Isariopsis Fries.

442. *Isariopsis alborosella* (Desm.) Sacc. in Mich. 1. 237, 1879; in Syll. 4. 630, 1886; Lindau, in Rabh. Krypt. 9. 395, 1910; Oudemans, in Enum. 3. 5, 1921; K. Togashi, in Jap. Jour. Bot. 2. 101, 1924;

Syn. *Stysanus alborosella* Desm. in Ann. Sc. Nat. 3, Ser. 20, 217, 1853;

Isariopsis pusilla Fresen, in Beitr. 3, 87, 1863; Schroeter, in Pilz, Schles. 495, 1889;

Phacellium dishonestum Bonard. in Rabh. Fg. eur. No. 288.

1860;

寄主及産地 *Stellaria aquatica* Scop. ウシハコベ 葉
 千 山 大正七年七月七日 三浦密成
 分布 歐洲, 北米, 日本, 滿洲.

(二) Tuberculariaceae.

本科は十三亞科に分たれ滿洲には次のもの知る。

(い) Tuberculariaceae-Mucedineae-Phragmosporae.

Fusarium Link.

443. *Fusarium Lini* Balley, in North Dakota Ag. Coll. Bull. No. 50, 37, 1901; Oudemans, in Enum. 3, 1018, 1921;

寄主及産地 *Linnm ustatisimum* L. アマ 根
 遼 陽 大正七年六月 逸見 重
 公主嶺 大正九年六月 三浦密成
 分布 全世界.

記事 本菌は亞麻の立枯病を起す病原にして平塚父子・出田・新橋内吉彦氏等の詳細なる研究報告あるを以て略す

(ろ) Tuberculariaceae-Dematieae-Phragmosporae.

Exosporium Link.

444. *Exosporium Rosae* Fuckel, in Symb. 373, 1869; K. Hara, in Fg. eastern Asia, 54, 1928;

寄主及産地 *Rosa multiflora*? 葉

熊岳城

大正十五年九月

原 攝祐

分布 歐洲、滿洲。

記事 本菌は原氏之れを熊岳城にて採集せりと云ふ本寄主は
Rosa spinosissima L. var. *mandshurica* Yabe なるべし

滿洲に於ける不完全菌類は從來知られたるもの甚だ少なく Komarov 氏は僅かに五種を挙げ原氏は三十八種を報せるのみ今余は百六十九種を挙げ得たり。

擬球殼菌族は九十八種にして其内新種と認めたるもの二十八種、
 屬の編入更へをなしたるもの一種あり而して此九十八種中從來日本にのみ産することの知られたる菌にして今回之れを滿洲に發見せるもの十一種等しく歐洲にのみ知られたるもの三十三種の多きに達し米國との共通種としては *Septoria alnifolia* Ell. et Ev. 菌一種をまた露國との共通種としては *Coniothyrium piricola* Potebnia 菌一種を擧ぐることを得たり

黑粉菌族にては十六種を發見し其内七種は之れを新種となせり而して *Gloeosporium Kawakamii* Miyabe; *Marssonina Mali* Ito; *Cylindrosporium Dioscoreae* Miyabe et Ito の三種は日本と共通種にして *Monochaetia Mali* 菌は米國と共通種なり。

念珠狀菌族に於ては五十五種を調査せる内六種の新種を見出したるのみならず *Cercosporiopsis* なる一新屬を設定して十一種の菌を此新屬に編入換へを行ひたり而して日本との共通種八種を發見し米國との共通種 *Cercospora Mali*; *Cercosporiopsis canescens* の二種を擧げ更に歐洲との共通種 *Ovularia decipiens*, *Raumlaria Violae*, *Exsporium Rosae* の三種を記せり。

此等の結果によるときは滿洲の不完全菌類は甚だしく歐洲のそれに近似するが如きも之れ其實際に非ずしてたゞ歐洲以外に於ては此等菌類の調査歐洲程全からざるに歸すべきものと信ず従つて將來日本北清朝鮮西比利亞等の菌類調査の進むに従ひて此等數字は著しく變化すべきものなるべし。

次に之等菌類と他地方産との關係を示せば次表の如し。

	滿洲	日本	北清	西比利亞	歐洲	北米	印度	其他
Sphaeropsidales.								
<i>Sphaeropsidaceae.</i>								
Phyllosticta sorghina Sacc.	+				+			
Ph. populea Sacc.	+				+			
Ph. bellunensis Mart.	+				+			
Ph. ulmicola Sacc.	+				+			
*Ph. Fagopyri Miura,	+							
*Ph. Polygoni-Bungeanae,	+	+	?					
*Ph. rumicicola Miura,	+	+	?					
Ph. Chenopodii Sacc.	+	+			+			
Ph. Mali P. D.	+				+	+		
Ph. pirina Sacc.	+	+			+	+		朝鮮 +
*Ph. turnanensis Miura.	+				+			朝鮮 +
Ph. crataegicola Sacc.	+				+			
Ph. phaseolina Sacc.	+	+			+	+		
*Ph. Azukiae Miura,	+							
*Ph. robiniella Miura,	+							
Ph. Negundinis S. S.	+				+			
Ph. platanoides Sacc.	+	+			+			
Ph. rhamnicola Desm.	+				+			

Ph. Vogelii Died.	+				+		
Ph. Acanthopanacis Syd.	+	+					
Ph. Physaleos Socc.	+				+		
*Ph. melampyricola Miura,	+						
*Ph. Rubiae Miura,	+						
Ph. vulgaris, var Philadelphi Sacc.	+				+		
Ph. Caprifolii Sacc.	+			+	+		
Phoma Betae Frank.	+	+			+	+	朝鮮 +
*Ph. albomaculata Miura,	+						
Macrophoma eruenta Ferr.	+	+		+	+	+	
*M. Chenopodii Miura,	+						
Dendrophoma Convallariae Cav.	+	+					
Plenodomus sp.	+						
Cytospora chrysosperma Fr.	+	+			+		ナムチャ アツカ ト
*Dothiorella kilinensis Miura,	+						
	33	11	0	2	20		4
Sphaeropsis Malorum Berk.	+	+			+	+	南亞細亞 +
Sph. Visci Sacc.	+	+			+		
Coniothyrium japonicum Kyk.	+	+					
*C. populicola Miura,	+						
*C. celtidicola Miura,	+						濠洲 +
C. tirolensis Bub.	+				+	+	露國 +
C. piricola Poteb.	+						
C. Dumezi B. C.	+		+		+		
*C. vitivora Miura,	+						
*C. Fraxini Miura,	+						
Nothopatella chinensis.	+		+				
	11	3	2		4		

<i>Ascochyta Dianthi</i> Lib.	+				+			
A. <i>Sojae</i> Miura,	+							
A. <i>Cucumis</i> F. R.	+	+			+			
*A. <i>Sesami</i> Miura,	+							
	4	1	0	0	2			3
* <i>Septoria Streptopii</i> Miura,	+							
S. <i>alnifolia</i> E. Ev.	+					+	+	
*S. <i>chinensis</i> Miura,	+							
S. <i>Ulmi</i> Hara,	+							
S. <i>Yokokawai</i> Hara,	+							
S. <i>polygonicola</i> Sacc.	+		+		+			
S. <i>polygonina</i> Thüm.	+	+		+	+			
S. <i>Dianthi</i> Desm.	+	+		+	+			
S. <i>Lychnidis</i> Desm.	+				+			
S. <i>paraphysoides</i> Sp.	+				+			
S. <i>Menispermi</i> Thüm.	+		+	+	+			
*S. <i>Actaeae</i> Miura,	+							
S. <i>jenissensis</i> Sacc.	+			+				
S. <i>Ficariae</i> Desm.	+				+			
S. <i>Trollii</i> S. W.	+				+			
S. <i>potentillica</i> th.	+			+				
S. <i>Glycines</i> Hemmi,	+	+						
S. <i>Viciae</i> West.	+				+			
S. <i>expansa</i> Niessl.	+				+			
*S. <i>Ampelopsidis-heterophyllae</i> Miura,	+							
S. <i>Violae</i> West.	+	+	+	+	+	+	+	+
*S. <i>harbinensis</i> Miura,	+							
S. <i>Nambuana</i> Henn.	+	+						

> <i>Septoria barystachyae</i> M.	+							
S. <i>Sydowii</i> Henn.	+	+						バラウ +
S. <i>Gentianae</i> Thüm.	+	+			+			
S. <i>microspora</i> Speg.	+	+				+		
S. <i>Convolvuli</i> Desm.	+	+				+	+	
> S. <i>Plectranthi</i> Miura,	+							
S. <i>Lycopersici</i> Speg.	+	+	+	+	+	+	+	+
S. <i>Dulcamarae</i> Desm.	+					+		
S. <i>Melampyri</i> Str.	+					+		
> S. <i>Lonicerae-Maackii</i> M.	+							
> S. <i>Patriniae</i> Miura,	+							
S. <i>Platycodonis</i> Syd.	+	+						
S. <i>Adenophorae</i> Thüm.	+			+				
S. <i>Artemisiae</i> Pass.	+					+		
> S. <i>piriformis</i> Miura,	+							
S. <i>Callistephi</i> Gloyer.	+	+					+	
> S. <i>mandshurica</i> Miura,	+							
S. <i>Cirsii</i> Niessl.	+		+			+	+	
S. <i>Lactuae</i> Pass.	+					+		
S. <i>Mougeotii</i> S. R.	+					+		
S. <i>Saussureae</i> Thüm.	+			+				
S. <i>sonchinea</i> Thüm.	+	+		+				
CS. <i>taraxacicola</i> Miura,	+	+						
<i>Rhabdospora umbrosa</i> ,	+					+		
> <i>Phleospora microspora</i> ,	+							
	48	14	5	11	11	6		3
計	96	29	7	13	47	13		10
<i>Leptostromataceae.</i>								

<i>Moniliaceae.</i>								
<i>Oidium erythiphoides</i> Fr.	+	+	+	+	+	+	+	+
<i>Ovularia Bistortae</i> Sacc.	+	+			+			
<i>O. decipiens</i> Sacc.	+				+			
<i>Cephalothecium Roseum.</i>	+	+			+	+		
<i>Ramularia decipiens.</i>	+	+			+	+		
<i>R. aequivoca</i> Sacc.	+				+	+		
<i>R. Ranunculi</i> Peck.	+				+	+		
<i>R. Violae</i> Tra'l.	+				+			
<i>R. punctiformis</i> Höhn.	+		+		+			
<i>R. Leonuri</i> Sorok.	+	+	+		+			
<i>R. filaris</i> Fres.	+				+			
<i>Piricularia grisea</i> Sacc.	+	+	+		+			
<i>Cercospora</i> <i>albo-maculans</i> Sacc.	+	+				+		
× <i>C. Indigoferae</i> Miura,	+							
	14	7	4	1	11	6	1	1
<i>Dimatiaceae.</i>								
<i>Possalora</i> <i>Krascheninnikovii</i> M.	+							
× <i>Scolecotrichum</i> <i>iridicola</i> Miura,	+							
<i>Cladosporium herbarum,</i>	+	+	+	+	+	+	+	+
<i>Clasterosporium</i> <i>degenerans</i> Syd.	+	+						
<i>C. Mori</i> Syd.	+	+						
<i>Napicladium</i> <i>Arundinaceum</i> Sacc.	+	+			+			
<i>Helminthosporium</i> <i>gramineum</i> Rab.	+	+	+	+	+	+	+	+
<i>Coniothecium album</i> M.	+							
<i>C. chomatoporum</i> Cord.	+	+			+	+		+
<i>C. intricatum</i> Peck.	+	+				+		
<i>Altenaria tenuis</i> N.	+	+			+	+		

<i>Alternaria Oryzae</i> Hara.	+							
Alt. Brassicae Sacc.	+	+	+	+	+	+	+	+
Alt. Brassicae, var. Phaseoli Brun.	+	+	+	+	+	+	+	+
Alt. Mali Rob.	+	+				+		
*Alt. Bokurai M.	+	+						
Alt. Cerasi Pot.	+							露國 +
Alt. Solani J. G.	+	+	+		+	+	+	
<i>Cercosora Betae</i> Frank.	+	+			+	+		
C. dubia Wint.	+	+			+	+		
C. Mali E. Ev.	+					+		
C. Cladastidis Jacz.	+	+						
<i>Cercosporina Chenopodii</i> M.	+	+			+			南米
C. beticola Nak.	+	+	+	+	+	+	+	+
C. sojaena Hara.	+	+						
C. Kikuchii Matsum.	+	+						
C. ricinella Speg.	+				+	+	+	朝鮮
C. Physalidis Miura,	+					+		
C. Melongenae Wals.	+	+			+			
C. elongata Speg.	+	+				+		南米 +
C. Apii Miura,	+	+			+	+		朝鮮 +
<i>Cercosporiopsis Menispermis</i> ,	+				+	+	+	
C. Gotoanus Miura,	+	+						
C. canescens Miura,	+					+		
C. personatum M.	+	+			+	+		
C. profusus Miura,	+	+						
C. Vitis Miura,	+	+			+	+		
C. Araliae Miura,	+	+						
C. Miurai Miura,	+	+						

	30	20	6	5	17	20	8	10
<i>Stilbaceae</i>								
<i>Isariopsis alborosella</i> Sacc.	+	+			+	+		
<i>Fusarium Lini</i> Ball.	+	+	+	+	+	+	+	+
<i>Exosporium Rosae</i> Fuckel.	+				+			
	3	2	1	1	3	2	1	1
合 計	170	74	20	22	83	56	12	24

— ○ 終 り ○ —

附記. 本印刷中に華果實上に *Glomerella cingulatia* Spauld. et v. Schrenk. 菌を旅順, 熊岳城, 安東等に於て採集し, また大房身に於て *Cylindrosporium* 菌の一種を *Pherbitus* (アサガハ) の葉上に採集せるも之等を記述するの暇なかりしを以て後日に譲ることとせり

主なる参考書

1. Butler, E. J.—Fungi and diseases of plants, 1918.
2. Cooke, M. C. An introduction to the study of microscopic fungi, 1872.
3. Cunningham, G. H. Fungous diseases of fruit trees in New Zealand, 1925.
4. Doidge, E. M. Some notes on the south african Erysiphaceae 1915.
5. " South african Periosporiales, 1917.
6. Duggar, B. M. —Fungous diseases of plants. 1609.
7. Ellies & Everhart. —New species of N. American fungi. 1893-1895.
8. Engler & Prantl. Natürliche Pflanzenfamilien. I. 1 & 2. 1897 & 1900.
9. Evans, Pole. —Agricultural Journal of the Union of South Africa. 1-4, 1914.
10. Fischer, Ed. —Uredinien der Schweiz. 1904.
11. Fuckel, L. —Symbolae Mycologicae. 1869.
12. Grove, W. B. —British rust Fungi, 1914.
13. 原 攝祐—赤星病の研究, 大正十四年 (1925.)
14. " —東亞菌類誌, 昭和三年 (1928.)
15. 出田 新—日本植物病理學, 明治四十二年 (1909)
" 四十四年 (1911)
16. " —續日本植物病理學, 大正十二年 (1923.)
17. Jaczewski, Komarov, Tranzschel,—Fungi Rossiae Exsiccati. 1895-1900.
18. Kledahn, H. Die wirtswechselnden Rostpilze. 1904.
19. Kulkarni, G. S. —Agric. Researches Institute, Pusa, India. No. 78. 1918.

20. Kryptogamen-Flora der Mark Brandenburg.
 Bd. 5. Minden. M. Chytridiineae-Saprolegniineae, 1911-1915.
 Bd. 5a Klebahn, H.—Uredineen, 1912-1914.
 Lindau, G.—Ustilagineen, Auriculariineen. Tremellineen,
 1912-1914.
 Bd. 6. Herter, W.—Autobasidiomycetes, 1910.
 Bd. 7. Hennings. P., Lindau, G., Lindner, P., Neger. F., Asco-
 mycetes, 1905.
 Kirschstein, W.—Sphaeriales, 1911.
 Bd. 9. Diedicke, H. —Fungi Imperfecti, (Shacropsideae, Melanconi-
 eae.) 1912-15.
21. McCubbin, W. A.—Agricultural Gazette. Vol. 6, No. 5. 1919.
22. Magnus. P.—Fragmental papers found in Hedwigia, Berichten d.
 Deutsch, Rot. Ges. & c.
23. 滿鐵農務課—滿洲に於ける果樹園經營 pp. 145-158, 大正十四年
 (1925.)
24. Massee, G. —Diseases of cultivated plants and trees, 1910.
25. Migula, W.—Thome's Kryptogamen-Flora von Deutschland. Oste-
 reich und der Schweiz, Bd. III. Pilze. 1910.
26. 三浦道哉—青森縣農事試驗場成績十五號, 大正四年
27. " —りんごの病氣, 大正六年 (1917.)
28. " —滿洲主要農作物の病害, 大正十年
29. " —果樹類のモニリア病, 大正十四年
30. " —高粱黑穗病豫防豫報, 大正十五年
31. 宮部博士就職二十五年祝賀紀念論文集, 明治四十四年

32. 村田壽太郎—長野縣農事試驗場成績第二輯, 昭和三年
33. 長西廣輔—滿鐵中央試驗所報告第四輯, pp. 187-196, 275-189,
大正七年三月, (1918).
34. " — " 第六輯, pp. 145-225, 大正十年
35. " — " 第十輯, pp. 425-449. 大正十四年
36. Oudemans, C. A.—Enumeratio Syst. Fungorum,
Vol. I. 1919.
Vol. II. 1920.
Vol. III. 1921:
Vol. IV. 1923.
37. Plowright, C. B.—A monograph of the British Uredineae and
Ustilagnaceae, 1889.
38. Rabenhorst's Kryptogamen-Flora der Deutschland, Oesterreich und
der Schweiz,
Bd. I. Winter, G.—Schizomyceten, Saccharomyceten &
Basidiomyceten. 1884.
Bd. II. Winter, G.—Ascomyceten, 1887.
Bd. III. Rehm, H.—Ascomyceten. 1896.
Bd. IV. Fischer, A.—Phycomycetes. 1892.
Bd. V. Fischer, Ed.—Ascomyceten. 1897.
Bd. VI. Allescher, A.—Fungi Imperfecti. Sphaeriodeen.
1901.
Bd. VII. Allescher, A.—Sphaeriodeen u. Melanconieen. 1903.
Bd. VIII. Lindau, G.—Hyphomycetes, 1907.
Bd. IX. " — " 1910.

37. Saccardo, A.—Syllogue Fungorum. Vols. 1-22.
40. Sadebeck, R.—Pilzgattung *Exoascus*, 1884.
41. 齊藤賢道.—滿鐵中央試驗所報告第六輯 1-143. 大正十年 (1921.)
42. Sorauer, P.—Handbubh der Pflanzenkrankheiten. Bd. II. 1908.
43. Skvortzov, B. W.—Zur Kenntnis der Phycomycetes aus der
Nordmandschurei, China. 1925,
44. Stevens, F. L.—Fungi which cause plant diseases. 1913.
45. Sydow, P. et H.—*Monygarphia Urediniarum*,
Bd. I. *Puccinia*. 1904.
Bd. II. Genus *Uromyces*. 1910.
Bd. III. 1915.
46. 澤田兼吉.—臺灣中央研究所報告十九號. 1919.
47. 同 同 第二號. 大正十一年,
48. 同 同 第二十七號 昭和二年
49. 同 同 第二十四號 同
50. 同 —臺灣博物學會々報別刷.
51. Tranzschel,—Fungi of Kamtschatka 1914.
52. 辻良介.—植物検査彙報第一號. 大正十五年
53. Tubeuf, K. F.—Diseases of plants. (English Ed.) 1897.
54. Thümen, von.—Pilzflora sibiriens, 1877-1880,
55. „ —Fungi Pomicoli, 1879.
56. Voss, W.—Mycologia Carniolica, 1889-1892.
57. Wormald, H.—Transaction of the British mycological Society, Vol.
10. 303-306. 1926.
58. „ —Annales of Botany. 41. 1927.

59. Agricultural Reserch Institute, Pusa, India.
60. Annales of Botany.
61. Annual of Missouri Botanical Garden.
62. Annales Mycologici.
63. 米國農務省植物課報告.
64. 米國各州農事試驗場報告.
65. 病虫害雜誌.
66. Japanese Journal of Botany.
67. Journal of Agricultural Research.
68. Journal of Mycology.
69. 九州帝國大學農學部學藝雜誌.
70. 北海道帝國大學農學部紀要.
71. 北海道農事試驗場報告.
71. 北海道農會々報.
73. Memoirs of the College of Agriculture, Kyoto Imperial University.
74. 盛學高等農林學校學術報告.
75. Mycologia.
76. 日本植物病理學會々報.
77. 大原農業研究所報告.
78. Phytopathology.
79. 札幌博物學會々報.
80. 札幌農林學會々報.
81. 臺灣農事試驗場報告.
82. 日本植物學雜誌.
83. 水原勸業模範場報告.
84. 西ヶ原農事試驗場報告.

菌 索 引

	Page		Page
A bsidia Lichtheinii	59	Apiosporium Salicinum	142
Achlya prolifera	26	Ascochyta Cucumis	444
Aecidium Ainsliaeae	390	A. Dianthi	443
Aecid. Astorum	390	A Sesami	445
Aecid. Atractylidis	390	A. Sojae	443
Aecid. Caulophylli	386		
Aecid. Dispori	385	B remia graminicola	43
Aecid. Dracunculi	391	Bacterium Sajae	7
Aecid. Inouyei	17	B. tumefaciens	3
Aecid. koreaense	387		
Aecid. Ligulariae	391	C aeoma Fumariae	393
Aecid. Paeoniae	386	C. Makinoi	392
Aecid. Patriniae	389	Cenangium japonicum	103
Aecid. Sambuci	389	Cephalothecium roseum	493
Aecid. Samouciatum	389	Cercospora albo-maculans	525
Aecid. Sedi	388	C. Apii	527
Aecid. Sedi-Aizoontis	388	C. Araliae	533
Aecid. Shiraianum	386	C. Betae	517
Aecid. Staphyleae	388	C. Cladrastidis	520
Albugo Bliti	30	C. Daizu	523
Albugo candida	29	C. dubia	518
Albugo Portulacae	32	C. elongata	526
Albugo Tragopogonis	33	C. Gotoana	528
Alternaria Brassicae	510	C. Mali	519
Alt. Mali	511	C. Menispermis	528
Alt. Bokurai	513	C. Miurae	533
Alt. Cerasi	515	C. Physalidis	525
Alt. Gaisen	513	C. viticola	531
Alt. Nashi	513	Cercosporaella albo-maculans	499
Alt. Oryzae	509	C. Indigoferae	500
Alt. Solani	516	Cercosporina Apii	527
Alt. tenuis	509	C. beticola	522
Ancylistis Miurai	22	C. Chenopodii	521
Aphanomyces Gordejevi	25	C. elongata	526



	Page
<i>Cercosporina Kikuchii</i>	524
C. <i>Melongenae</i>	526
C. <i>Physalidis</i>	525
C. <i>ricineilla</i>	524
C. <i>sojaena</i>	523
<i>Cercosporiopsis Araliae</i>	533
C. <i>canescens</i>	529
C. <i>Gotoanus</i>	528
C. <i>Menispermii</i>	528
C. <i>Miurai</i>	533
C. <i>personatus</i>	529
C. <i>profusus</i>	530
C. <i>Vitis</i>	531
<i>Chrysomyxa Pirolae</i>	237
Ch. <i>Rhododendri</i>	238
<i>Cladosporium herbarum</i>	502
<i>Clasterosporium degerans</i>	504
C. <i>Mori</i>	504
<i>Claviceps microcephala</i>	151
<i>Coleosporium Asterum</i>	222
C. <i>Campanulae</i>	221
C. <i>Cimicifugatum</i>	214
C. <i>Clematidis</i>	214
C. <i>Clematidis-apiifoliae</i>	215
C. <i>Melampyri</i>	218
C. <i>Perillae</i>	220
C. <i>Phellodendri</i>	217
C. <i>Plectranthi</i>	220
C. <i>Pulsatillae</i>	216
C. <i>Saussureae</i>	224
C. <i>Senecionis</i>	224
<i>Coletotrichum Lagenarium</i>	479
<i>Coletotrichum Lindemuthianum</i>	478
<i>Coniothecium album</i>	506
C. <i>chomatosporum</i>	507
C. <i>intricatum</i>	508

	Page
<i>Coniothyrium celtidicola</i>	438
C. <i>Dumeei</i>	440
C. <i>Fraxini</i>	442
C. <i>japonicum</i>	436
C. <i>piricola</i>	439
C. <i>populicola</i>	437
C. <i>tirolensis</i>	438
C. <i>vitivora</i>	441
<i>Coryneum crataegicola</i>	482
C. <i>follicorum</i>	433
C. <i>rosaecola</i>	484
<i>Cronartium Asclepiadeum</i>	239
<i>Cunninghamiella elegans</i>	63
<i>Cylindrosporium Convolvuli</i>	488
C. <i>Dioscoreae</i>	486
C. <i>Pruni-tomentosae</i>	487
C. <i>Vicii</i>	486
C. <i>Pomi</i>	177
<i>Cystopus Bliti</i>	30
C. <i>caudatus</i>	29
<i>Cytospora chrysosperma</i>	431
C. <i>mandshurica</i>	176
Debaryomyces mandshuricus	77
<i>Dendrophoma Convallariae</i>	430
<i>Diaporthe pomigena</i>	177
<i>Dothidella betulina</i>	154
D. <i>Ulmi</i>	155
<i>Dothiorella kilinensis</i>	433
Empusa Muscae	64
<i>Endomyces Hordei</i>	79
E. <i>Mali</i>	79
<i>Epichlae typhina</i>	150
<i>Erysiphe Cichoracearum</i>	122
E. <i>graminis</i>	124

	Page
<i>Erysiphe lamprocarpa, Plataginis</i> ...	125
<i>E. Plantaginis</i>	125
<i>E. Polygori</i>	122
<i>Exoascus bullatus</i>	83
<i>E. deformans</i>	85
<i>E. Pruni</i>	86
<i>Exosporium Rosae</i>	535
F usarium Lini	535
<i>Fu icladium radiosum</i>	172
G iberella sp.	146
Guignardia Bidewilli	158
<i>G. Ulmariae</i>	160
<i>Gymnoconia interstitialis</i>	383
<i>G. Rosae</i>	384
<i>Gymnoconia Peckiana</i>	383
<i>Glaciosporium ampelophagum</i>	476
<i>G. Kawakamii</i>	477
<i>G. Quercuum</i>	475
<i>Gymnosporangium asiaticum</i>	361
<i>Gymnosp. chinensis</i>	365
<i>Gymnosp. confusum</i>	361
<i>Gymnosp. Haraeae</i>	361
<i>Gymnosp. japonicum</i>	361
<i>Gymnosp. koreaensis</i>	361
<i>Gymnosp. Yamadai</i>	365
H elminthosporium gramineum.....	595
I sariopsis albo-rosella	534
K lastospora Komarovi	382
L agenidium enecans	21
<i>Leptolegnia candata</i>	24

	Page
<i>Leptosphaeria mandshurica</i>	175
M acrosporium	516
<i>Macrophoma Chenopodii</i>	429
<i>M. cruenta</i>	428
<i>Magnusiella Umbelliferarum</i>	80
<i>Marssonina Mali</i>	481
<i>M. populicola</i>	480
<i>Melampsora congregata</i>	288
<i>M. Euphorbiae</i>	228
<i>M. Enphorbiae-dulcis</i>	228
<i>M. Kusanoi</i>	229
<i>Melasma Lonicerae</i>	474
<i>M. ulmicola</i>	474
<i>Micromyces Spirogyrae</i>	18
<i>Microsphaera Alni</i>	134
<i>M. Berberidis</i>	138
<i>M. Caraganae</i>	139
<i>M. Polygoni</i>	135
<i>Microstroma Juglandis</i>	394
<i>Monascus purpureus</i>	71
<i>Monochaetia Mali</i>	485
<i>Mycoderma mandshurica</i>	78
<i>Mycosphaerella abutilontidicola</i>	166
<i>M. alarum</i>	169
<i>M. Fragariae</i>	162
<i>M. Fushinoki</i>	165
<i>M. gossypina</i>	168
<i>M. Malinverniana</i>	168
<i>M. mandshurica</i>	161
<i>Mycosphaerella sentina</i>	163
<i>M. Sojae</i>	160
<i>M. Staphyleae</i>	165
<i>M. Tassiana</i>	168
<i>M. tatarica</i>	167
<i>Myzocytiium megastomum, forma</i> ...	21

	Page
Nematostoma Artemisiae	157
Napiculadium Arundinaceum	505
Nothopatella chinensis	442
Nielsenia Alopecuri	245
Nigredo Alopecuri	245
Oidium erysiphoides	491
Olpidium endogenum	13
O: entophyllum	14
O. Hantzschiae	14
O. Mougeotiae	15
O. Spirogyrae	15
Ovularia Bistortae	492
O. decipiens	492
Parodiella perisporioides	143
Passalora Krascheninnikoviae	501
Penicillium digitatum	111
P. expansum	109
P. italicum	110
P. mandshuricum	111
P. Roqueforti	112
Peronoplasmodium cubensis	42
Peronospora arborescens	44
P. calotheca	54
P. Chenopodii	40
P. Echinosperti	52
P. effusa	45
P. effusa Rabh.	45
P. epiphylla	47
P. Potentillae	50
P. Trifoliarum, mandshu- rica	51
Phaeosphaerella Oryzae	169
Phleospora microspora	473
Phoma albomaculata	427

	Page
Phoma Betae	426
P. Mali	177
Phomopsis Mali	177
Phragmidium americanum	373
Phrag. carbonarium	379
Phrag. Fragariastris	370
Phrag. Okiana	378
Phrag. papillatum	370
Phrag. pauciloculare	376
Phrag. Potentillae	372
Phrag. Rosae	38
Phrag. Rosae-davuricae	374
Phrag. Rosae-multiflorae	375
Phrag. Rosae-rugosae	376
Phrag. Yoshinagai	377
Phyllachora graminis	155
Phyllactinia Corylea	140
Ph. Acanthopanax	422
Ph. Ampelopsidis	158
Ph. Azukiae	418
Ph. bellunensis	410
Ph. Caprifolii	425
Ph. Chenopodii	413
Ph. crataegicola	417
Ph. Fagopyri	412
Ph. Mali	414
Ph. malampyricola	424
Ph. Negundinis	420
Ph. phaseolina	418
Ph. Physaleos	423
Ph. pirina	414
Ph. platanoides	421
Ph. Polygini-Bungeanae	412
Ph. populea	406
Ph. rhamnicola	421
Ph. robinella	419

	Page
Phyllosticta Rubiae	424
Ph. rumicicola	413
Ph. sojaecola	170
Ph. sorghina	409
Ph. turnanensis	416
Ph. Ulmariae	160
Ph. ulmicola	411
Ph. viticola	158
Ph. Vogelii	422
Ph. vulgaris, Philadelphi ..	425
Phytomonas tumefaciens	3
Phytophthora infestans	34
Pichia mandshurica	76
P. membranaefaciens	75
Piricularia grisea	498
Plasmopara pygmaea	38
Pl. Skvotzowii	40
Pl. viticola	39
Plenodomus sp.	430
Pleosphaerulina Abutilontis	170
Pl. sojaecola	170
Podosphaera leucotricha	120
Polystegma rubrum	151
Protomyces macropus	70
Pseudomonas campestris	6
Pseud. tumefaciens	3
Pseudopeziza Komarovi	102
Pseudop. Medicaginis	100
Pseudop. radians	102
Puccinia Absinthi	351
P. Allii	315
P. Angelicae-edulis	332
P. angelicicola	333
P. aomoriensis	310
P. argentata	329
P. Artemisiae-Keiskeanae	344

	Page
Puccinia Arundinellae	284
P. Arundinellae-anomala	287
P. Brachybotrydis	338
P. Bupleuri-falcati	333
P. Calthae	322
P. Carduorum	353
P. Caricis	306
P. Caricis-siderostictae	309
P. Chrysanthemi	354
P. Chrysosplenii	326
P. Cirsii	356
P. Convolvuli	337
P. coronifera	279
P. Dieteliana	335
P. dioicae	309
P. Dioscoreae	367
P. Diarrheniae	273
P. Elymi	267
P. elymina	283
P. Epigejos	274
P. Eulariae	287
P. ferruginosa	345
P. Fragariastris	370
P. Frazini	368
P. Funkiae	315
P. fusca	323
P. fushunensis	304
P. Gentianae	336
P. Glechomatis	339
P. glumarum	288
P. graminis	296
P. Haleniae	337
P. Helianthi	345
P. Hemerocallidis	316
P. hemisphaerica	349
P. Hieracii	357

	Page		Page
<i>Puccinia Hierochlae</i>	274	<i>Puccinia Sileris</i>	334
<i>P. hsinganensis</i>	317	<i>P. silvatica</i>	310
<i>P. Iridis</i>	317	<i>P. simplex</i>	290
<i>P. Ishikawai</i>	290	<i>P. Sonchi</i>	347
<i>P. Kamischatica</i>	384	<i>P. suaveoleus</i>	347
<i>P. Lactucae</i>	470	<i>P. Taraxaci</i>	360
<i>P. Lactucae-denticulatae</i>	351	<i>P. triarticulata</i>	367
<i>P. lactucicola</i>	349	<i>P. Triseti</i>	292
<i>P. Lolii</i>	279	<i>P. triticea</i>	292
<i>P. Magnusiana</i>	300	<i>P. Violae</i>	330
<i>P. mammilata</i>	321	<i>P. Waldsteiniae</i>	329
<i>P. mandshurica</i>	308	<i>P. Zoysiae</i>	303
<i>P. Melicae</i>	275	<i>Pucciniastrum Agrimoniae</i>	231
<i>P. Menthae</i>	339	<i>P. Agrimoniae-Eupatri</i>	231
<i>P. Miscanthi</i>	302	<i>P. Coryli</i>	230
<i>P. Miyakei</i>	307	<i>P. Potentillae</i>	233
<i>P. Miyoshiana</i>	303	<i>P. Tiliae</i>	233
<i>P. neglecta</i>	288	<i>Pucciniostele Clarkiana</i>	382
<i>P. Nepetae</i>	342	<i>P. mandshurica</i>	382
<i>P. oblecta</i>	314	<i>Pyrenopeziza Medicaginis</i>	100
<i>P. obtegens</i>	358	<i>Pythium de Baryanum</i>	27
<i>P. Oenanthos</i>	334		
<i>P. Orchidearum-Pharalidis</i>	294	Ramularia aequivoca	494
<i>P. Peckiana</i>	384	<i>R. decipiens</i>	494
<i>P. persistans</i>	295	<i>R. filaris</i>	497
<i>P. Poae-pratensis</i>	281	<i>R. Leonuri</i>	496
<i>P. Polygoni</i>	319	<i>R. punctiformis</i>	465
<i>P. Polygoni-amphibi</i>	319	<i>R. ranunculi</i>	465
<i>P. Potentillae</i>	372	<i>R. Violae</i>	465
<i>P. Prenanthes racemosi</i>	359	<i>Ramulispora Andropogonis</i>	489
<i>P. Pruni</i>	328	<i>Resticularia Oedogonii</i>	23
<i>P. Pruni-spinosae</i>	328	<i>Rhabdospora umbrosa</i>	472
<i>P. punctata</i>	343	<i>Rhizophidium sphaerocarum</i>	19
<i>P. rangiferina</i>	277	<i>Rh. Hormidii</i>	19
<i>P. rubigo-vera</i>	290	<i>Rhizopus nigricans</i>	55
<i>P. Scirpi</i>	313	<i>Rhytisma Acerinum</i>	107

	Page
<i>Rhytisma</i> <i>Lonicerae</i>	107
Rh. <i>punctata</i>	106
Rh. <i>Salicinum</i>	106
<i>Rostrupia</i> <i>Elymi</i>	367
Rost. <i>Dioscoreae</i>	367
<i>Saccharomyces</i> <i>Marxianus</i>	73
S. <i>dairensis</i>	73
S. <i>mandshuricus</i>	74
<i>Sawadaea</i> <i>Aceris</i>	133
<i>Sclerospora</i> <i>graminicola</i> , var. <i>Seta-</i> <i>riae-italicae</i>	37
<i>Sclerotinia</i> <i>fructigena</i>	93
S. <i>Kenjiana</i>	97
S. <i>laxa</i>	95
S. <i>Libertiana</i>	91
<i>Scolocotrichum</i> <i>iridicola</i>	502
<i>Septoria</i> <i>Actaeae</i>	452
S. <i>Adenophorae</i>	467
S. <i>alnifolia</i>	446
S. <i>Ampelopsidis-heterophyllae</i>	457
S. <i>Artemisiae</i>	467
S. <i>barystachyae</i>	460
S. <i>Callistephi</i>	468
S. <i>chinensis</i>	447
S. <i>Cirsii</i>	369
S. <i>Convolvuri</i>	462
S. <i>Dianthi</i>	450
S. <i>Dulcamariae</i>	464
S. <i>expansa</i>	456
S. <i>Ficariae</i>	453
S. <i>Gentianae</i>	461
S. <i>Glycines</i>	455
S. <i>harbinensis</i>	459
S. <i>jenisensis</i>	452
S. <i>Lactuae</i>	470

	Page
<i>Septoria</i> <i>Lonicerae-Maackii</i>	465
S. <i>Lychnidis</i>	450
S. <i>Lycopersici</i>	463
S. <i>mandshurica</i>	469
S. <i>Melampyri</i>	464
S. <i>Menispermi</i>	451
S. <i>microspora</i>	461
S. <i>Mougeotii</i>	470
S. <i>Nambuana</i>	459
S. <i>paraphysoides</i>	451
S. <i>Patriniae</i>	465
S. <i>piriformis</i>	467
S. <i>Platycodonis</i>	466
S. <i>Plectranthi</i>	462
S. <i>polygonicola</i>	449
S. <i>polygonina</i>	449
S. <i>potentillica</i>	454
S. <i>Saussureae</i>	471
S. <i>sonchinea</i>	471
S. <i>Streptopi</i>	446
S. <i>Sydowii</i>	460
S. <i>Taraxaci</i>	472
S. <i>taraxacicola</i>	472
S. <i>tatarica</i>	167
S. <i>Trollii</i>	454
S. <i>Ulmii</i>	447
S. <i>Viciae</i>	456
S. <i>Violae</i>	458
S. <i>Yokokawai</i>	448
<i>Sorosporium</i> <i>Reilianum</i>	201
S. <i>Panici-meliacei</i>	203
<i>Sphaelotheca</i> <i>cruenta</i>	197
Sph. <i>Hydropiperis</i>	200
Sph. <i>Sorghii</i>	199
<i>Sphaeropsis</i> <i>Malorum</i> <i>Peck</i>	434
Sph. <i>Visci</i>	436

	Page
<i>Sphaerotheca Castagnei</i>	115
Sph. <i>Humuli</i>	115
Sph. <i>Humuli, fuliginea</i>	118
Sph. <i>fulginea</i>	118
Sph. <i>Mali</i>	119
Sph. <i>pannosa</i>	119
<i>Synchytrium decipiens</i>	16
S. <i>Puerariae</i>	17
S. <i>sp.</i>	18
Taphrina <i>bullata</i>	83
T. <i>Cerasi</i>	88
T. <i>deformans</i>	84
T. <i>Mume</i>	85
T. <i>Pruni</i>	86
T. <i>truncicola</i>	87
<i>Teloconia Rosae</i>	384
<i>Thekopsora Rubiae</i>	234
Th. <i>Brachybotrydis</i>	234
Th. <i>Agrimoniae</i>	231
<i>Tilletia caries</i>	205
<i>Tilletia Triticici</i>	205
<i>Torulaspora Rosei</i>	77
<i>Trichocladia Caraganae</i>	139
<i>Triphragmium Clavellosum</i>	381
Triph. <i>Ulmariae</i>	380
Uncinula <i>Aceris</i>	133
U. <i>clandestina</i>	128
U. <i>mandshurica</i>	127
U. <i>necator</i>	130
U. <i>Salicis</i>	126
U. <i>Salmoni</i>	131
U. <i>Sengokui</i>	131
<i>Uredinopsis Adianti</i>	236
Ured. <i>Pteridis</i>	235

	Page
<i>Uredo Asteromaeae</i>	393
<i>Uredo jozankensis</i>	275
<i>Uredo Setariae-italicae</i>	246
<i>Uredo Yoshinagai</i>	284
<i>Urocystis Anemones</i>	204
<i>Uromyces Aconiti-Lococtoni</i>	252
U. <i>aedipes</i>	267
U. <i>Alopeculi</i>	245
U. <i>Alopeculi, japonica</i>	245
U. <i>amurensis</i>	267
U. <i>appendiculatus</i>	254
U. <i>borealis</i>	260
U. <i>Fabae</i>	257
U. <i>Genistae-tinctoriae</i>	259
U. <i>Geranii</i>	268
U. <i>Glycyrrhizae</i>	259
U. <i>Hedysari</i>	260
U. <i>Hedysari-obscuri</i>	260
U. <i>Kondoi</i>	262
U. <i>Lespedeza</i>	262
U. <i>Lespedezae-procumbens</i>	262
U. <i>Lilii</i>	248
U. <i>Limonii</i>	271
U. <i>Orobi</i>	265
U. <i>periginus</i> ?	247
U. <i>Polygoni</i>	250
U. <i>Rabenhorstiana</i>	248
U. <i>Setariae-italicae</i>	246
U. <i>Sojae</i>	266
U. <i>Solidaginis</i>	273
U. <i>Valerianae</i>	272
U. <i>Veratri</i>	249
U. <i>Vignae-sinensis</i>	268
<i>Uropyxis Fraxini</i>	368
<i>Ustilaginoidea Oryzae</i>	152
<i>Ustilaginoidea virens</i>	152

	Page		Page
<i>Ustilago Avenae</i>	186	<i>Ustilago Zeae</i>	192
<i>U. bromivora</i>	192	<i>Valsa ambiens</i> ?	177
<i>U. Crameri</i>	190	<i>Valsa Mali</i>	176
<i>U. Hordei</i>	187	<i>Venturia pyrina</i>	173
<i>U. Hydropiperis</i>	194	<i>V. Tremulae</i>	172
<i>U. laevis</i>	187	<i>Willia anomala</i>	76
<i>U. neglecta</i>	190	<i>Willia belgica</i>	76
<i>U. nuda</i>	188	<i>Xenodochus carbonarius</i>	379
<i>U. Panici-glauci</i>	191	<i>Zygosaccharomyces bispoms</i>	75
<i>U. Reiliana</i>	189	<i>Z. mandshuricus</i>	75
<i>U. Triticici</i>	189		
<i>U. utriculosa</i>	194		
<i>U. violacea</i>	196		
<i>U. Warmingii</i>	195		

—<THE END.>—

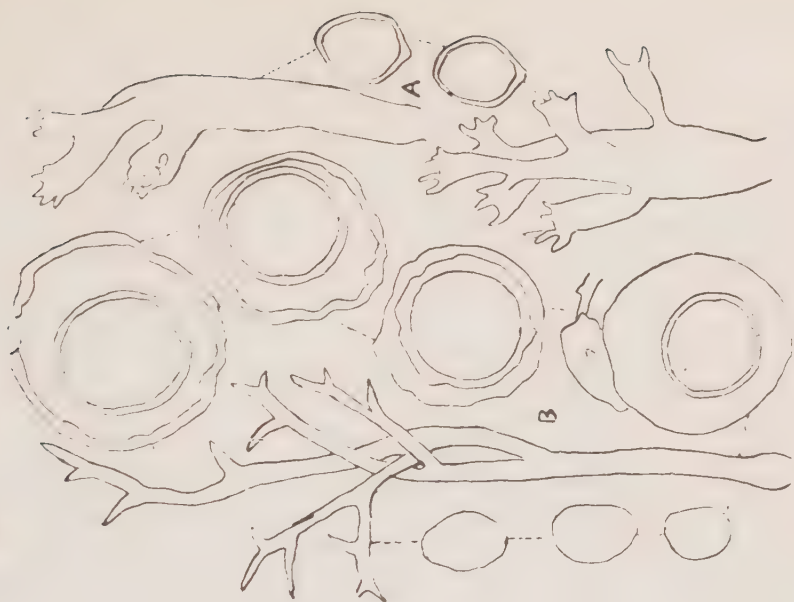
第一圖版說

A. *Sclerospora graminicola*, var. *Setariae-italicae* Trew.

分生孢子時代

B. *Peronospora Echinospemi* Swingle.

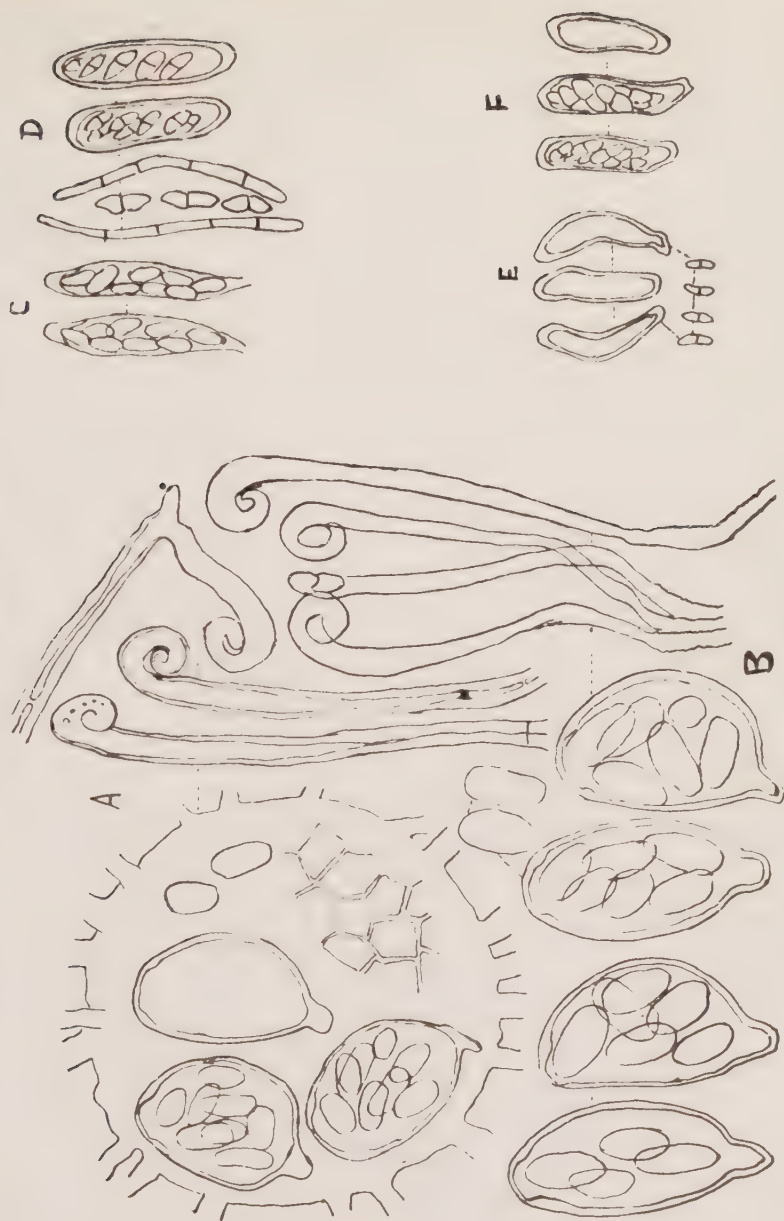
C. *Plasmopora Skvortzovii* M. Miura, n. sp.



第二版解説

- A. *Uncinula Salmoni* Sydow.
- B. *Uncinul mandshurica* M. Miura, n. sp.
- C. *Guignardia Ulmariae* (Thüm.) M. Miura, n. sp.
- D. *Mycosphaerella Fushinoki* M. Miura, n. sp.
- E. *Mycosphaerella abutilontidicola* M. Miura, n. sp.
- F. *Mycosphaerella tatarica* (Sydow.) M. Miura, n. sp.

第二圖版

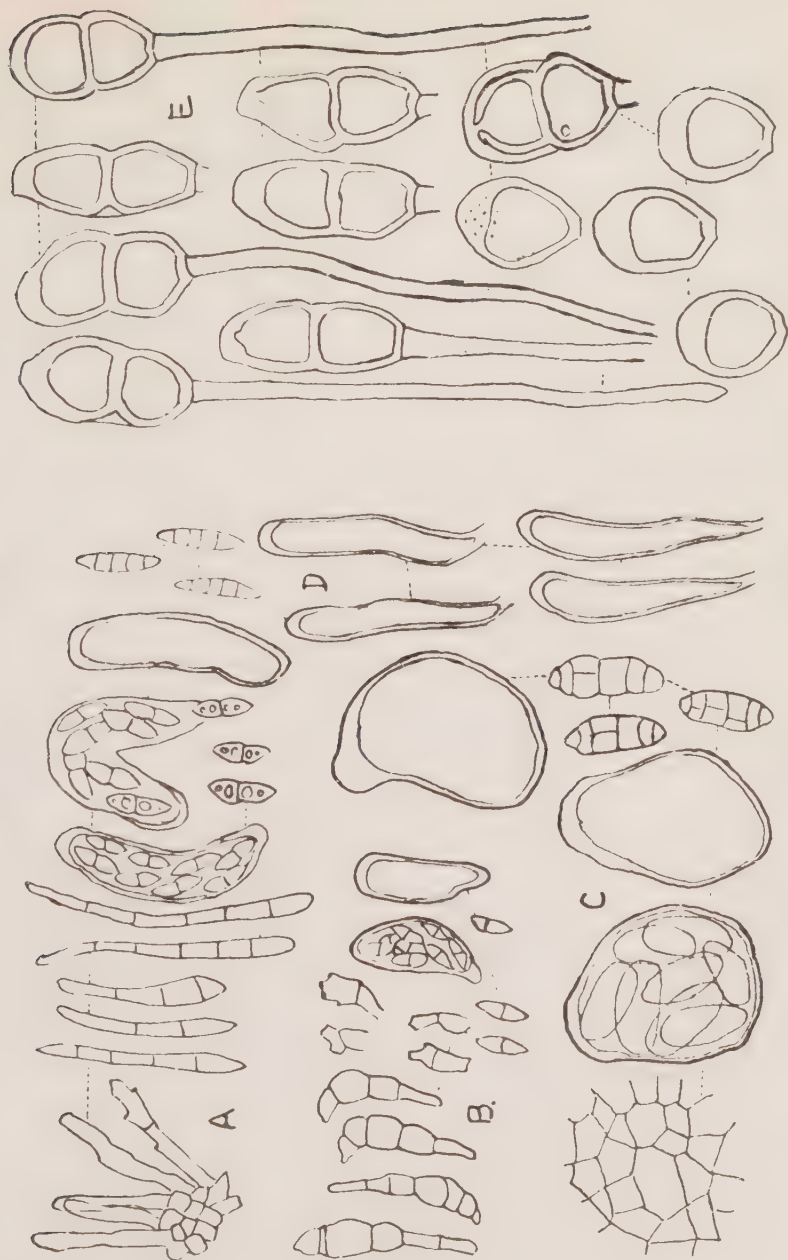


Miura del.

第三圖 版 解 說

- A. *Mycosphaerella Staphylae* M. Miura, n. sp.
- B. *Mycosphaerella mandshurica* M. Miura, n. sp.
- C. *Pleosphaerulina Abutilontis* M. Miura, n. sp.
- D. *Leptosphaeria mandshurica* M. Miura, n. sp.
- E. *Puccinia Arundinellae* Barclay.

第三圖版



Miura del.

第四圖版 說

- A. *Puccinia Poae-pratensis* M. Miura, n. sp.
- B. *Puccinia Miscanthi* M. Miura, n. sp.
- C. *Puccinia Zoysiae*, on *Aeluropus*.
- D. " , on *Zeysia*.
- E. *Uromyces perigynius* ?
- F. *Uromyces Kondoi* M. Miura, n. sp.
- G. *Puccinia mandshurica* M. Miura, n. sp.
- H. *Puccinia hsianganensis* M. Miura, n. sp.



第五圖版 說

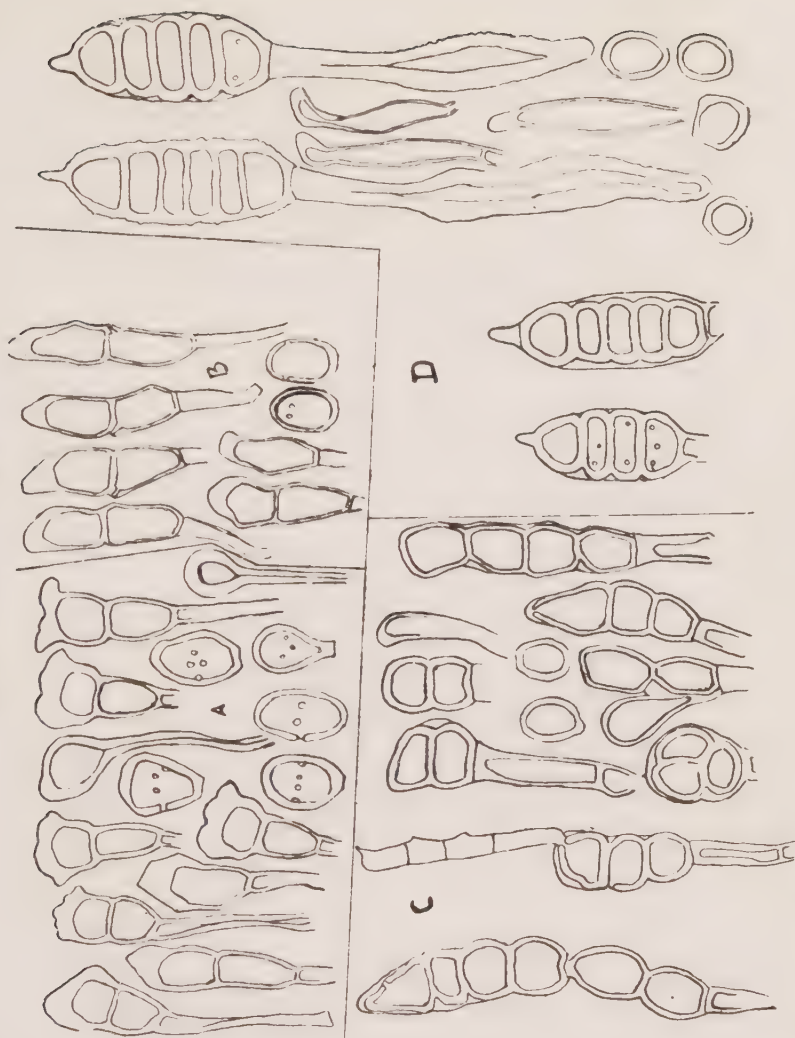
A. *Puccinia elymina* M. Miura, n. sp.

B. *Puccinia obtecta* Peck.

C. *Phragmidium Yoshinagai* Dietel.

D. *Phragmidium Rosae-davuricae* M. Miura, n. sp.

第五圖版

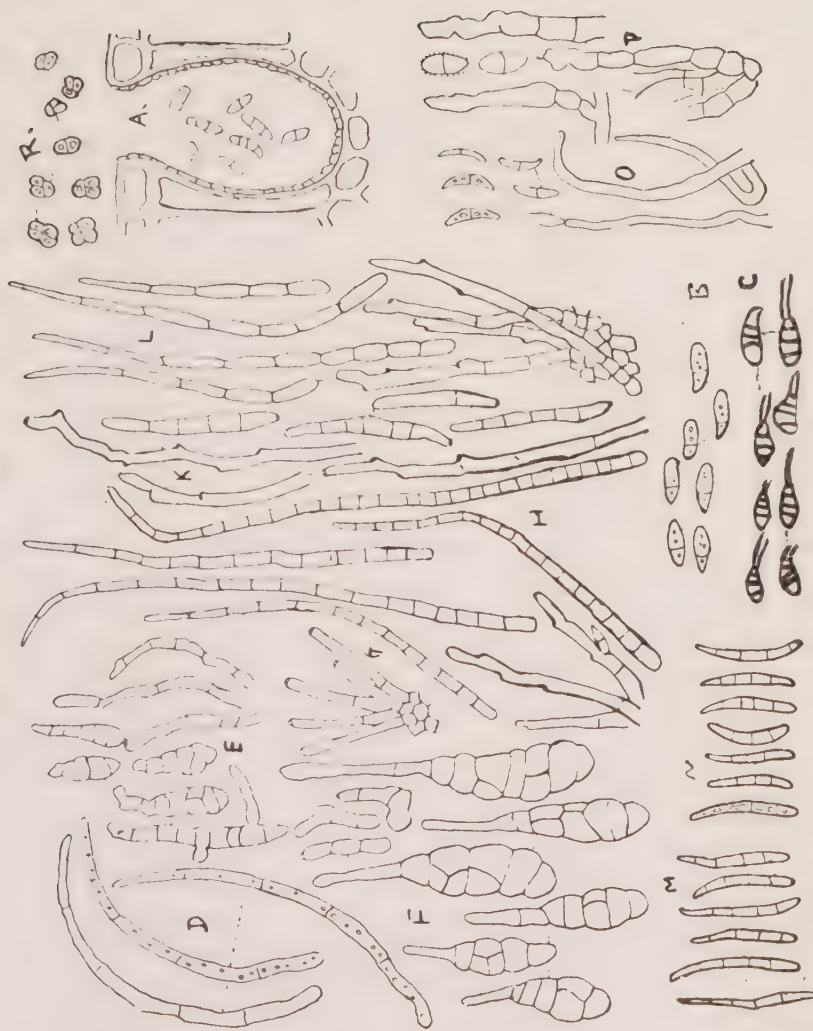


Miura del.

第六圖版 解説

- A. *Phleospora microspora* M. Miura, n. sp.
- B. *Marssonina populicola* M. Miura, n. sp.
- C. *Coryneum rosaeicola* M. Miura, n. sp.
- D. *Cylindrosporium Pruni-tomentosi* M. Miura, n. sp.
- E. *Alternaria Mali* Roberts.
- F. *Alternaria Cerasi* Poteb.
- G. *Cercospora Betae* Frank.
- H. *Cercosporina beticola* (Sacc.) Nakata.
- K. *Cercosporina Chenopodii* (Fres.) M. Miura, n. sp.
- L. *Cercosporina elongata* (Peck.) Speg.
- M. *Septoria Lonicerae-Maackii* M. Miura, n. sp.
- N. *Septoria mandshutica* M. Miura, n. sp.
- O. *Passalora Krascheninnikoviae* M. Miura, n. sp.
- P. *Scolecotrichum iridicola* M. Miura, n. sp.
- R. *Coniothecium album* M. Miura, n. sp.

第六圖版



Miura del.

寄 主 索 引

	Pages.
Abutilon Avicennae Gaertn.	
× <i>Mycosphaerella abutilontidicola</i> M. Miura	166
× <i>Plasmopara Skvortzowii</i> M. Miura	40
× <i>Pleosphaerulina Abutilontis</i> M. Miura	170
Acalypha australis L.	
○ <i>Cercosporiopsis profusus</i> (Syd.) Miura	530
Acanthopanax sessiliflorus Seem.	
<i>Phyllosticta Acanthopanaxis</i> Syd	422
Acer Ginnala Maxim.	
<i>Rhytisma punctata</i> (Pers.) Fr	106
Acer Lobelii, var. Platanoides Miyabe.	
<i>Phyllosticta platanoides</i> Sacc	421
<i>Rhytisma Acerinum</i> (Pers.) Fr	107
<i>Sawadaea Aceris</i> (DC.) Miyabe	133
Acer Negundo L.	
<i>Phyllosticta Negundinis</i> Sacc. et Speg	420
Acer Pseudo-Sieboldianum Kem.	
<i>Mycosphaerella alarum</i> Ell. et Hol	169
<i>Rhytisma punctata</i> (Pers.) Fr	106
Aconitum Delawayi Fr. var. coreana Lev.	
<i>Uromyces Aconiti-Lycocotoni</i> (DC.) Winter	252
Actaea spicata L. var. nigra Willd.	
○ <i>Septoria Actaeae</i> Miura	452
Actinidia Kolomikta Maxim.	
<i>Uncinula necator</i>	130
Adenophora remotifolia Miq.	
<i>Pseudopeziza radians</i>	102
Adenophora verticillata.	
<i>Septoria Adenophorae</i>	467
Adenophora spp.	
<i>Coleosporium Campanulae</i>	221
Adiantum pedatum L.	
<i>Uredinopsis Adianti</i>	236
Adoxa Moschatellina L.	
<i>Puccinia argentata</i>	429

<i>Aeluropus littoralis</i> Parl. var. <i>sinensis</i> Deb.	
<i>Puccinia Zoysiae</i>	303
<i>Agrimonia pilosa</i> Ledeb.	
○ <i>Pucciniastrum Agrimoniae-Eupatriae</i>	231
<i>Agropyrum repens</i> P. Beauv.	
<i>Cladosporium herbarum</i>	502
<i>Puccinia rangiferina</i>	277
<i>Agropyrum semicostatum</i> DC.	
<i>Cladosporium herbarum</i> Link.....	502
<i>Puccinia rangiferina</i>	277
<i>Ailanthus glandulosa</i> Desf.	
<i>Phyllactinia Corylea</i>	140
<i>Ainsliaea acerifolia</i> Schult.	
<i>Aecidium Ainsliaeae</i>	390
<i>Allium fistulosum</i> L.	
<i>Puccinia Allii</i>	315
<i>Alnus japonica</i> S. et Z.	
<i>Phyllosticta bellunensis</i>	410
<i>Septoria alnifolia</i>	446
<i>Alopecurus fulvus</i> L.	
<i>Uromyces Alopeculi</i>	245
<i>Amaranthus caudatus</i> L.	
<i>Albugo Bliti</i>	30
<i>Amaranthus viridis</i> Miq.	
<i>Albugo Bliti</i>	30
<i>Ampelopsis heterophylla</i> S. et Z.	
× <i>Septoria Ampelopsidis-heterophyllae</i>	457
<i>Andropogon Nadus</i> , var. <i>Gaeringii</i> Hack.	
<i>Phyllachora graminis</i>	155
<i>Andropogon Sorghum</i> , <i>vulgaris</i> , <i>japonicus</i> .	
<i>Cladosporium herbarum</i>	602
<i>Phyllacticta sorghina</i>	409
<i>Pythium de Baryanum</i>	27
<i>Ramulispora Andropogonis</i>	489
<i>Sorosporium Reilianum</i>	201
<i>Sphaelotheca cruenta</i>	197
<i>Sphaelotheca Sorghi</i>	199

Anemone chinensis Bge.	
Coleosporium Pulsatillae	216
Puccinia fusca	323
Puccinia Pruni-spinosae	328
Anemone Raddeana Rgl.	
Plasmopara pygmaea.....	38
Urycystis Anemones	204
Angelica davurica B. et H.	
Puccinia Angelicae-edulis.....	332
Angelica Miqueliana Maxim.	
Puccinia angelicicola.....	333
Angelica sp. (anomala ?)	
Protomyces macropus	70
Apium graveolens L.	
○ Cercosporina Apii	527
Arabis pendula L.	
Albugo candida	29
Erysiphe Cichoracearum	122
Arachis hypogaea L.	
○ Cercosporiopsis personatus	529
Aralia mandshurica Rupr. et Maxim.	
○ Cercosporiopsis Araliae.....	533
Triphragmium clavellousum, var. asiatica	381
Artemisia frigida Willd.	
Puccinia Artemisiae-Keiskeanae	844
Artemisia desertorum Spreng.	
Puccinia Absinthi	351
Artemisia Keiskeana Miq.	
Puccinia Artemisiae-Keiskeanae	344
Artemisia laciniata Willd.	
Aecidium Dracunculi.....	391
Artemisia vulgaris L.	
Erysiphe Cichoracearum	125
Nematostoma Artemisiae.....	157
Puccinia ferruginosa	345
Septoria Artemisiae	467

Arthraxon ciliaris, Langsdorffii, genuinus.	
<i>Bremia graminicola</i>	43
Arundinella anomala Stend.	
<i>Puccinia Arundinellae</i>	284
<i>Puccinia Arundinellae-anomallae</i>	287
Asperula platygarium Maxim.	
<i>Peronospora calotheca</i>	54
Aster scaber Thunb.	
<i>Aecidium Asterum</i>	390
<i>Coleosporium Asterum</i>	222
× <i>Septoria piriformis</i>	167
Aster tataricus L. f.	
<i>Coleosporium Asterum</i>	222
× <i>Mycosphaerella tatarica</i>	167
Aster trinervius Roxb.	
<i>Aecidium Asterum</i>	390
Asteromaea indica Bl.	
<i>Uredo Asteromaeae</i>	293
Astilbe chinensis, var. Davidii Fr.	
<i>Pucciniostele mandshurica</i>	882
Atractylis ovata Thunb.	
<i>Aecidium Atractylidis</i>	390
Avena, (See Oat.)	
Azuki minima Miura.	
○ <i>Cercosporiopsis canescens</i>	529
Azuki subtrilobata Takahashi.	
× <i>Phyllosticta Azukiae</i>	418
<i>Uromyces appendiculatus</i>	
Azuki typica Miura.	
<i>Microsphaera Polygoni</i>	135
× <i>Phyllosticta Azukiae</i>	418
<i>Septoria Glycines</i>	455
Berberis sinensis Desf.	
<i>Microsphaera Berberidis</i>	138
Beta vulgaris L.	
<i>Alternaria Brassicae</i>	510

<i>Cercospora Betae</i>	717
<i>Cercosporina beticola</i>	522
<i>Phoma Betae</i>	426
<i>Betula chinensis</i> Maxim.	
<i>Dothidella betulina</i>	154
<i>Septoria chinensis</i>	447
<i>Bidens parviflora</i> Willd.	
<i>Sphaerotheca fulginea</i>	118
<i>Brachybotrys paridiformis</i> Maxim.	
<i>Puccinia Brachybotrydis</i>	338
<i>Thekopsora Brachybotrydis</i>	234
<i>Brassica chinensis</i> L.	
<i>Albugo candida</i>	29
<i>Cercosporaella albo-maculans</i>	499
<i>Pseudomonas campestris</i>	
<i>Bromus unioloides</i> Kunth.	
<i>Ustilago bromivora</i>	192
<i>Bupleurum scorzoneraefolium</i> Willd.	
<i>Puccinia Bupleuri-falcati</i>	333
<i>Cacalia hastata</i> L.	
<i>Ramularia filaris</i>	497
<i>Calamagrostis arundinacea</i> Roth.	
<i>Puccinia rangiferina</i>	276
<i>Calamagrostis Epigejos</i> Roth.	
<i>Puccinia Epigejos</i>	274
<i>Puccinia Ishikawai</i>	290
<i>Calamagrostis Langsdorffii</i> Trin.	
<i>Puccinia rangiferina</i>	276
<i>Calamagrostis negrecta</i> Beauv.	
<i>Claviceps microcephala</i>	151
<i>Calamagrostis villosa</i> , Mutol.	
<i>Claviceps microcephala</i>	151
<i>Calystephus chinensis</i> Nees.	
<i>Septoria Callistephi</i>	468

<i>Caltha palustris, sibiricus, decumbens.</i>	
<i>Puccinia Calthae</i>	322
<i>Calystegia hederacea</i> Wall.	
<i>Puccinia Convolvuli</i>	337
<i>Septoria Convolvuli</i>	462
<i>Calystegia Soldanella</i> R. Br.	
<i>Septoria Convolvuli</i>	462
<i>Calystegia</i> sp. (sepium ?)	
<i>Septoria Convolvuli</i>	462
<i>Capsella Bursa-pastris</i> (L.) Moench.	
<i>Albugo candida</i>	29
<i>Caragana arborescens</i> Lam.	
<i>Trichocladia Caraganae</i>	139
<i>Carduus crispus</i> L.	
<i>Puccinia Carduorum</i>	353
<i>Carex caespitosa</i> L.	
<i>Puccinia silvatica</i>	310
<i>Carex lanceolata</i> Boott.	
<i>Puccinia aomoriensis</i>	310
<i>Carex neurocarpa</i> Maxim.	
<i>Puccinia silvatica</i>	103
<i>Carex pisiformis.</i>	
<i>Puccinia aomoriensis</i>	310
<i>Carex siderosticta</i> Hce.	
<i>Puccinia Caricis-siderostictae</i>	309
× <i>Puccinia mandshurica</i>	306
<i>Puccinia Miyakei</i>	307
<i>Carex vescaria</i> L.	
<i>Puccinia Caricis</i>	306
<i>Carex</i> sp.	
<i>Puccinia dioicae</i>	309
<i>Carex</i> sp. (ウーラサウ).	
<i>Uromyces</i> sp. (perigynius Halst ?)	247
<i>Caulophyllum robustum</i> Maxim.	
<i>Aecidium Caulophylli</i>	386
<i>Celastrus articulatus</i> Thunb.	
<i>Uncinula Sengokui</i>	131

<i>Celtis Bungeana</i> Bl.	
× <i>Coniothyrium celtidicola</i>	438
<i>Celtis koraiensis</i> Nakai.	
× <i>Coniothecium album</i>	506
<i>Chenopodium album</i> L.	
<i>Cercospora dubia</i>	518
<i>Cercosporina Chenopodii</i>	521
<i>Peronospora epiphylla</i>	47
<i>Phyllosticta Chenopodii</i>	418
<i>Chenopodium hybridum</i> L.	
× <i>Macroploma Chenopodii</i>	429
<i>Chrysanthemum boreale</i> Makino.	
× <i>Septoria mandshurica</i>	468
<i>Chrysanthemum sibiricum</i> Fisch.	
<i>Puccinia Chrysanthemi</i>	354
<i>Chrysosplenium alternifolium</i> L.	
<i>Puccinia Chrysospleni</i>	326
<i>Cimicifuga simplex</i> Warmsk.	
<i>Aecidium Shiranum</i>	386
<i>Coleosporium Cimicifugatum</i>	214
<i>Cirsium arvense</i> (L.) Scop.	
<i>Albugo Tragopogonis</i>	33
<i>Puccinia obtegens</i>	358
<i>Septoria Cirsii</i>	369
<i>Sphaerotheca fuliginea</i> ...	116
<i>Cirsium</i> spp.	
<i>Puccinia Cirsii</i>	356
<i>Septoria Cirsii</i>	369
<i>Citrus nobilis</i> Lour. (本寄主は滿洲に生育せず)	
<i>Penicillium digitatum</i>	111
<i>Penicillium italicum</i>	110
<i>Clematis fusca</i> Turcz. var. <i>mandshurica</i> Rgl.	
<i>Coleosporium Clematidis</i>	214
<i>Clematis heracleifolia</i> , var. <i>Davidiana</i> .	
<i>Coleosporium Clematidis</i>	214
<i>Clematis mandshurica</i> Rupr.	
<i>Coleosporium Clematidis-apifoliae</i>	215

Celtis Bungeana Bl.	
× <i>Coniothyrium celtidicola</i>	438
Celtis koraiensis Nakai.	
× <i>Coniothecium album</i>	506
Chenopodium album L.	
<i>Cercospora dubia</i>	518
<i>Cercosporina Chenopodii</i>	521
<i>Peronospora epiphylla</i>	47
<i>Phyllosticta Chenopodii</i>	418
Chenopodium hybridum L.	
× <i>Macrophoma Chenopodii</i>	429
Chrysanthemum boreale Makino.	
× <i>Septoria mandshurica</i>	408
Chrysanthemum sibiricum Fisch.	
<i>Puccinia Chrysanthemi</i>	354
Chrysosplenium alternifolium L.	
<i>Puccinia Chrysospleni</i>	326
Cimicifuga simplex Warmsk.	
<i>Aecidium Shiraianum</i>	386
<i>Coleosporium Cimicifugatum</i>	214
Cirsium arvense (L.) Scop.	
<i>Albugo Tragopogonis</i>	33
<i>Puccinia obtogens</i>	358
<i>Septoria Cirsii</i>	369
<i>Sphaerotheca fuliginea</i>	116
Cirsium spp.	
<i>Puccinia Cirsii</i>	356
<i>Septoria Cirsii</i>	369
Citrus nobilis Lour. (本寄主は滿洲に生育せず)	
<i>Penicillium digitatum</i>	111
<i>Penicillium italicum</i>	110
Clematis fusca Turcz. var. mandshurica Rgl.	
<i>Coleosporium Clematidis</i>	214
Clematis heracleifolia, var. Davidiana.	
<i>Coleosporium Clematidis</i>	214
Clematis mandshurica Rupr.	
<i>Coleosporium Clematidis-apiifoliae</i>	215

<i>Microsphaera</i> <i>Polygoni</i>	135
<i>Septoria</i> <i>jenissensis</i>	452
<i>Closterium</i> sp.	
<i>Ancylistes</i> <i>Miurii</i>	22
<i>Closterium</i> spp.	
<i>Myzocytyum</i> <i>megastomum</i>	21
<i>Convallaria</i> <i>majalis</i> L.	
<i>Denitrophoma</i> <i>Convallariae</i>	430
<i>Convolvulus</i> <i>sagittifolius</i> Fisch.	
× <i>Cylindrosporium</i> <i>Convolvuli</i>	488
<i>Coreopsis</i> <i>Drummondii</i> Tarr. et Gr.	
<i>Sphaerotheca</i> <i>fuliginea</i>	116
<i>Corydalis</i> spp.	
<i>Caeoma</i> <i>Fumariae</i>	398
<i>Corylus</i> <i>heterophyllus</i> Fisch.	
<i>Pucciniastrum</i> <i>Coryli</i>	230
<i>Cosmarium</i> <i>pachydermum</i> , var. <i>althiopieum</i> West.	
<i>Olpidium</i> <i>endogenum</i> , forma	13
<i>Cotyledon</i> <i>spinosa</i> L.	
<i>Aecidium</i> <i>koreaense</i>	387
<i>Crataegus</i> <i>pinnatifida</i> Bge.	
× <i>Coryneum</i> <i>crataegicola</i>	482
<i>Phyllosticta</i> <i>crataegicola</i>	417
<i>Cucumis</i> <i>Melo</i> L.	
<i>Sphaerotheca</i> <i>fuliginea</i>	116
<i>Cucumis</i> <i>sativus</i> L.	
<i>Ascochyta</i> <i>Cucumis</i>	444
<i>Peronosplasmopara</i> <i>cubensis</i>	42
<i>Cucurbita</i> <i>moenchata</i> Duch.	
<i>Sphaerotheca</i> <i>fuliginea</i>	116
<i>Cynanchum</i> <i>chinensis</i> R. Br.	
○ <i>Cercosporiopsis</i> <i>Miurae</i>	533
Datura <i>stramonium</i> L.	
<i>Alternaria</i> <i>Solani</i>	516
<i>Dianthus</i> <i>chinensis</i> L.	
<i>Septoria</i> <i>Dianthi</i>	459

Dianthus superbus L.	
<i>Ustilago violacea</i>	186
Diarrhena mandshurica Maxim.	
<i>Puccinia Diarrhenae</i>	278
Digitaria commutata Sch.	
<i>Piricularia grisea</i>	498
Dioscorea quinqueloba Thunb.	
<i>Cylindrosporium Dioscoreae</i>	486
<i>Rostrupia Dioscoreae</i>	367
Dipsacus Fullonum L.	
<i>Cercosporina elongata</i>	526
Disporum Smilacinum, viridescens Max.	
<i>Macrophoma cruenta</i>	428
Elscholtzia cristata Willd.	
<i>Microsphaera Polygoni</i>	135
Elymus sibiricus L.	
× <i>Puccinia elymina</i>	283
<i>Rostrupia Elymi</i>	367
Epilobium angustifolium L.	
<i>Ramularia punctiformis</i>	463
Eritrichum pectinatum DC.	
<i>Erysiphe Cichoracearum</i>	122
<i>Peronospora Echinopermi</i>	52
Euphorbia esula L. var. latifolia Ledeb.	
<i>Melampsora Euphorbiae</i>	228
Euphorbia lunulata Bge.	
× <i>Dothiorella kilinensis</i>	433
<i>Melampsora Euphorbiae-dulcis</i>	228
Fagopyrum esculentum Moench.	
× <i>Phyllosticta Fagopyri</i>	412
Falcata japonica Oliv.	
<i>Synchytrium decipiens</i>	16
Filipendula palmata Maxim.	
× <i>Guignardia Ulmariae</i>	160

<i>Triphragmium Ulmariae</i>	380
<i>Filicellaria</i> sp.	
× <i>Puccinia hsinganensis</i>	317
× <i>Uromyces Lilii</i>	248
<i>Funkia ovata</i> Sprg.	
<i>Puccinia Funkiae</i>	315
<i>Fragaria glandiflora</i> Ehrh.	
<i>Mycosphaerella Fragariae</i>	162
<i>Fraxinus rhyncophylla</i> Hce.	
× <i>Coniothyrium Fraxini</i>	442
<i>Uncinula Salmoni</i>	131
<i>Uropyxis Fraxini</i>	368
<i>Galium verum</i> L.	
<i>Puccinia punctata</i>	343
<i>Gentiana macrophylla</i> Pall.	
<i>Puccinia Gentianae</i>	386
<i>Gentiana scaber</i> Bge. var <i>Burrgeri</i> Kuhn.	
<i>Septoria Gentianae</i>	461
<i>Septoria microsora</i>	461
<i>Geranium neparense</i> Sweet.	
<i>Septoria expansa</i>	456
<i>Uromyces Geranii</i>	268
<i>Geranium orientale</i> Freysn.	
<i>Uromyces Geranii</i>	268
<i>Glechoma hederacea</i> L.	
<i>Puccinia Glechnatis</i>	339
<i>Glyceria aquatica</i> Wahlenb.	
<i>Puccinia Lolii</i>	279
<i>Glycine Soja</i> Thunb.	
× <i>Ascechyta Sojae</i>	443
<i>Bacterium Sojae</i>	7
<i>Cercosporina Kikuchii</i>	524
<i>Cercosporina sojaena</i>	524
<i>Gibberella</i> sp.	146
<i>Mycosphaerella Sojae</i>	169
<i>Peronospora Trifoliorum, mandshurica</i>	51

Pleosphaerulina sojaecola	170
Sclerotinia Libertiana	91
Septoria Glycines	455
Uromyces Sojae	266
Glycine ussuriensis Max.	
Cercosporina sojaena	523
Peronospora Trifoliorum, mandshurica	351
Pleosphaerulina sojaecola	172
Glycyrrhiza echinata L.	
Uromyces Glycyrrhizae	259
Gossypium herbarum L.	
Mycosphaerella gossypina	168
Gueldenstedtia multiflora Bge.	
Microsphaera Polygoni	135
× Uromyces Kondoi	262
Gymnadenia conopsea.	
Puccinia Orchidearum-Phalaridis	294
H alenia sibirica Borkh.	
Puccinia Haleniae	337
Hantzschia amphioxys (Kutz.) Grr.	
Olpidium Hantzschiae	14
Hedysarum obscurum, genuinum Fedch.	
Uromyces Hedysari-obscuri	260
Helianthus annuus L.	
Puccinia Helianthi	345
Hemerocallis minor Mill.	
Puccinia Hemerocallidis	316
Hieracium umbellatum L.	
Puccinia Hieracii	357
Hierochloa borealis.	
Puccinia Hierochloae	274
Hordeum vulgare L.	
Puccinia graminis	296
Puccinia simplex	290
Ustilago Hordei	187
Ustilago nuda	188

Hormidium flaccidum A. Br.	
<i>Rhizophidium Hormidii</i>	19
Hypericum Ascyron L.	
<i>Melampsora Kusanoi</i>	229
Impatiens Balsamina L.	
<i>Sphaerotheca fulginea</i>	116
Impatiens Nali-tangera.	
<i>Sphaerotheca fulginea</i>	116
Indigofera Kirilovii Maxim.	
× <i>Cercosporella Indigoferi</i>	500
<i>Parodiella perisporioides</i>	143
Intula britanica L.	
<i>Albugo Tragopogonis</i>	33
<i>Erysiphe Cichoracearum</i>	122
Iris dichotoma Pall.	
<i>Puccinia Iridis</i>	317
× <i>Scolecotrichum iridicola</i>	502
Iris ensata Thunb. var. chinensis Maxim.	
<i>Puccinia Iridis</i>	317
Juglans mandshurica Maxim.	
<i>Microstroma Juglandis</i>	394
Juniperus chinensis.	
<i>Gymnosporangium Haraeanum</i>	361
<i>Gymnosporangium Yamadai</i>	365
Krascheninnikovia Davidi Fr.	
× <i>Passalora Krascheninnikoviae</i>	501
Lactuca denticulata Maxim.	
<i>Puccinia Lactucae-denticulatae</i>	351
Lactuca laciniata Makino.	
<i>Puccinia lactucicola</i>	349
Lactuca Raddeana Maxim.	
<i>Puccinia lactucicola</i>	349
<i>Sphaerotheca fulginea</i>	116

Lactuca sativa L.	
Septoria Lactucae	470
Lactuca sibirica B. et H.	
Puccinia lacatucicola	349
Lactuca Thunbergiana Miq.	
Puccinia Lactucae	346
Lactuca sp. (versicolor ?)	
Puccinia silvatica	310
Sphaerotheca fuliginea	116
Lagenaria vulgaris L.	
Colletotrichum Lagenarium	479
Leersia oryzoides Sav. var. japonica Hack.	
Puccinia fushunensis	304
Leonurus sibiricus L.	
Ramularia Leonuri	496
Lespedeza bicolor L.	
Uromyces Lespedezae-procumbentis	262
Lespedeza cuneata G. Don.	
Uromyces Lespedezae-procumbentis	262
Lespedeza cyrtobotrya Miq.	
Uromyces Lespedezae-procumbentis	262
Lespedeza juncea L.	
Uromyces Lespedezae-procumbentis	262
Lespedeza medicaginoides Bge.	
Uromyces Lespedezae-procumbentis	262
Lespedeza stricta, var. stipulacea Makino.	
Uromyces Lespedezae-procumbentis	262
Lespedeza tomentosa L.	
Microsphaera Polygoni	135
Ligularia speciosa Fisch. et Mey.	
Aecidium Ligulariae	391
Lindernia Pyxidaria All.	
Synchytrium sp.	18
Linum usitatissimum L.	
Fusarium Lini	535
Lonicera Maackii Rupr.	
Melasmia Lonicerae Jacz.....	474

Rhytisma Lonicerae Henn.	107
× Septoria Lonicerae-Maackii	465
<i>Lonicera vesicaria</i> Kom.	
Phyllosticta Caprifolii	425
<i>Lychnis cognata</i> Maxim.	
Septoria Lychnidis	450
<i>Lysimachia barystachys</i> Bge.	
× Septoria barystachyiae	460
Septoria Nambuana	459
<i>Lysimachia clethroides</i> Duby.	
Puccinia Dieteliana	335
Maackia amurensis Rupr. et Maxim.	
Cercospora Cladrastidis	520
Uromyces amurensis	267
<i>Malus domestica</i> Borkh.	
Alternaria Mali	511
Cephalothecium roseum	493
Cercospora Mali	519
Coniothecium chomatosporum	507
Coniothyrium tirolensis	438
Coryneum folicolum	433
Diaporthe pomigena	177
Endomyces Mali	79
Gymnosporangium Yamadai	365
× Leptosphaeria mandshurica	175
Marssonina Mali	481
Penicillium expansum	109
Phyllosticta Mali	414
Phyllosticta pirina	414
Phyllosticta turnanensis	416
Plenodomus ? sp.	430
Podoshæra leucotricha	120
Pseudomonas tumefaciens	3
Sclerotinia Kenjiana	97
Sphaeropsis Malorum	434
Valsa Mali	176

<i>Malus mandshurica</i> Schueid.	
<i>Marssonina Mali</i>	481
<i>Monochaetia Mali</i>	485
× <i>Phleospora microspora</i>	473
<i>Podosphaera leucotricha</i>	120
<i>Medicago sativa</i> L.	
<i>Pyrenopeziza Medicaginis</i>	100
<i>Melampyrum roseum</i> Maxim.	
<i>Coleosporium Melampyri</i>	218
× <i>Phyllosticta melampyricola</i>	424
<i>Septoria Melampyri</i>	464
<i>Melica nutans</i> L.	
<i>Puccinia Melicae</i>	275
<i>Melilotus suaveolens</i> .	
<i>Microsphaera Polygoni</i>	135
<i>Menispermum dahuricum</i> DD.	
× <i>Cercosporiopsis Menispermii</i>	528
<i>Septoria Menispermii</i>	451
<i>Mentha arvensis</i> L.	
<i>Puccinia Menthae Pers</i>	339
<i>Metaplexis Stauntoni</i> R. et Sch.	
○ <i>Cercosporiopsis Miurae</i>	533
<i>Micromeles alnifolia</i> Kochne.	
<i>Monochaetia Mali</i>	485
<i>Miscanthus sinensis</i> Anders.	
<i>Puccinia Eulaliae</i>	287
<i>Miscanthus sacchariflorus</i> Hark.	
× <i>Puccinia Miscanthi</i>	302
<i>Morus alba</i> L.	
<i>Clasterosporium Mori</i>	504
<i>Nothopatella chinensis</i>	442
<i>Phyllactinea Corylea</i>	140
<i>Mougeotia scalaris</i> Hass.	
<i>Olpidium Mougeotiae</i>	15
<i>Mougeotia viridis</i> Witttr.	
<i>Rhizophidium Hormidii</i>	19

Navicula cuspidata.

Lagenidium enecans 21

Nepeta lavandulacea L.

Puccinia Nepetae 342

Oat, (Avena sativa L.)

Puccinia Lolii 229

Ustilago Avenae 186

Ustilago laevis 187

Oedogonium sp.

Reticularia Oedogonii 23

Rhizophidium sphaerocarpum 19

Oenanth stolonifera DC.

Puccinia Oenanthos 334

Oryza sativa L.

Achlya prolifera 26

Alternaria Oryzae 509

Cladosporium herbarum 502

Coniothyrium japonicum 436

Mycosphaerella Malinvermiana 168

Mycosphaerella Tassiana 168

Phaeosphaerella Oryzae 169

Ustilaginoidea virens 152

Paeonia albiflora Pall.

Aecidium Paeoniae 386

Cronartium Asclepiadeum 239

Palura paniculata Nakai.

Septoria Sydowii 460

Panicum meliaceum L.

Phyllosticta sorghina 409

Sorosporium Panici-meliacei 203

Papaver alpinum L.

Peronospora arvorens 44

Papaver somniferum L. var. nigrum DC.

Peronospora arvorens 44

Patrinia scabiosaeifolia Link.	
<i>Aecidium Patriniae</i>	389
Patrinia villosa Juss.	
× <i>Septoria Patriniae</i>	465
Pauownia tomentosa.	
<i>Gloeosporium Kawakamii</i>	477
Peucedanum sp.	
<i>Magnusiella Umbelliferarum</i>	89
Perilla oeymoides L.	
<i>Coleosporium Perillae</i>	220
Phaseolus multiflorus Willd.	
<i>Uromyces appendiculatus</i>	254
Phaseolus vulgaris L.	
<i>Alternaria Brassicae</i>	510
<i>Oidium erysiphoides</i>	491
<i>Phyllosticta phaseolina</i>	418
<i>Uromyces appendiculatus</i>	254
Phellodendron amurense Rupr.	
<i>Coleosporium Phellodendri</i>	217
Phellodendron sachalinense Sargent.	
<i>Coleosporium Phellodendri</i>	217
Philadelphus tenuifolius Rupr. et Max.	
<i>Phyllosticta vulgaris, Philadelphi</i>	425
Phragmites communis Trin.	
<i>Napicladium Arundinaceum</i>	505
<i>Puccinia Magunsiana</i>	300
Physalis Alkekengi L.	
<i>Cercosporina physalidicola</i>	525
<i>Phyllosticta Physaleos</i>	423
Pieris japonica Thunb.	
<i>Septoria Mougeotii</i>	470
Pinus spp.	
<i>Cenangium japonicum</i>	103
Pirola rotundifolia L. var. carnata DC.	
<i>Chrysomyxa Pirolae</i> Rostr.	237
Pirus montana Nakai.	

Patrinia scabiosaeifolia Link.	
<i>Aecidium Patriniae</i>	389
Patrinia villosa Juss.	
× <i>Septoria Patriniae</i>	465
Pauownia tomentosa.	
<i>Gloeosporium Kawakamii</i>	477
Peucedanum sp.	
<i>Magnusiella Umbelliferarum</i>	89
Perilla ocymoides L.	
<i>Coleosporium Perillae</i>	220
Phaseolus multiflorus Willd.	
<i>Uromyces appendiculatus</i>	254
Phaseolus vulgaris L.	
<i>Alternaria Brassicae</i>	510
<i>Oidium erysipoides</i>	491
<i>Phyllosticta phaseolina</i>	418
<i>Uromyces appendiculatus</i>	254
Phellodendron amurense Rupr.	
<i>Coleosporium Phellodendri</i>	217
Phellodendron sachalinense Sargent.	
<i>Coleosporium Phellodendri</i>	217
Philadelphus tenuifolius Rupr. et Max.	
<i>Phyllosticta vulgaris, Philadelphi</i>	425
Phragmites communis Trin.	
<i>Napicladium Arundinaceum</i>	505
<i>Puccinia Magunsiana</i>	300
Physalis Alkekengi L.	
<i>Cercosporina physalidicola</i>	525
<i>Phyllosticta Physaleos</i>	423
Pieris japonica Thunb.	
<i>Septoria Mougeotii</i>	470
Pinus spp.	
<i>Cenangium japonicum</i>	103
Pirola rotundifolia L. var. carnata DC.	
<i>Chrysomyxa Pirolae</i> Rostr.	237
Pirus montana Nakai.	

× <i>Alternaria</i> Bokurai	513
<i>Coniothecium intricatum</i>	508
<i>Coniothyrium piricola</i>	439
<i>Gymnosporangium Haraeanum</i>	362
<i>Mycosphaerella sentina</i>	163
× <i>Phleospora microspora</i>	473
<i>Phyllactinea Corylea</i>	140
<i>Sclerotinia fructigena</i>	93
<i>Taphrina bullata</i>	83
<i>Valsa ambier</i> ?	177
<i>Venturia pyrina</i>	173
<i>Pisum sativum</i> L.	
<i>Colletorichum Lindemnnathianum</i>	478
<i>Microsphaera Polygoni</i>	135
<i>Plantago major</i> L.	
<i>Erysiphe Plantaginis</i>	125
<i>Platycodon glaucum</i> Nakai.	
<i>Septoria Platycodonis</i>	466
<i>Plectranthus glaucocalyx</i> Maxim.	
<i>Coleosporium Plectranthi</i>	220
<i>Microsphaera Polygoni</i>	135
<i>Septoria Plectranthii</i>	462
<i>Plectrauthus inflexus</i> Vahl.	
<i>Coleosporium Plectranthi</i>	220
<i>Poa pratensis</i> L.	
× <i>Puccinia Poae-pratensis</i>	281
<i>Poa</i> sp. (<i>sphondylodes</i> ?)	
<i>Epichloe typhina</i>	150
<i>Polygonatum officinale</i> All.	
<i>Macrophoma cruenta</i>	428
<i>Polygonatum sibiricum</i> Red.	
<i>Rhabdospora umbrosa</i>	472
<i>Polygonatum</i> sp.	
<i>Aecidium Dispori</i>	385
<i>Polygonum amphibium</i> L.	
<i>Puccinia Polygoni-amphibi</i>	319
<i>Polygonum aviculare</i> L.	

<i>Microsphaera Polygoni</i>	135
<i>Uromyces Polygoni</i>	250
Polygonum Bungeanum Turcz.	
× <i>Phyllosticta Polygoni-Bungeanae</i>	412
<i>Septoria polygonicola</i>	449
<i>Septoria polygonina</i>	449
<i>Ustilago utriculosa</i>	194
Polygonum divaricatum L.	
<i>Puccinia mammillata</i>	321
Polygonum dumetorum L.	
<i>Puccinia Polygoni-amphibi</i>	319
Polygonum lapathifolium, incanum Led.	
<i>Microsphaera Polygoni</i>	135
Polygonum orientale L.	
<i>Septoria polygonicola</i>	449
Polygonum perfoliatum L.	
<i>Puccinia Polygoni-amphibi</i>	319
Polygonum Posumbu Hamilt.	
<i>Septoria polygonina</i>	449
Polygonum sagittatum, americanum, Sieboldi,	
<i>Puccinia Polygoni-amphibi</i>	319
Polygonum senticosum Meisn.	
<i>Sphaelotheca Hydropiperis</i>	200
Polygonum Thunbergii S. et Z.	
<i>Puccinia Polygoni-amphibi</i>	319
Polygonum viscosum Hamilt.	
<i>Ovularia Bistortae</i>	492
Populus balsamifera L.	
× <i>Coniothyrium populicola</i>	437
Populus monilifera Ait.	
<i>Cytospora chrysosperma</i>	431
<i>Venturia Tremulae</i>	172
Populus nigra, pyramidalls Spach.	
<i>Cytospora chrysosperma</i>	431
Populus laurifolia Ledeb.	
<i>Cytospora chrysosperma</i>	431
× <i>Marsaonina populicola</i>	408

× <i>Mycosphaerella mandshurica</i>	161
<i>Phyllactinea Corylea</i>	140
<i>Phyllosticta populea</i>	406
× <i>Uncinula mandshurica</i>	127
<i>Venturia Tremulae</i>	172
<i>Populus tremula</i> L.	
<i>Uncinula Salicis</i>	126
<i>Portulaca oleracea</i> L.	
<i>Albugo Portulacae</i>	32
<i>Potentilla chinensis</i> Ser.	
<i>Phragmidium Potentillae</i>	372
<i>Potentilla Cryptaenariae</i> Maxim.	
<i>Phragmidium papillatum</i>	370
<i>Potentilla fragarioides</i> L.	
<i>Pucciniastrum Potentillae</i>	233
<i>Potentilla flagellaris</i> Willd.	
<i>Phragmidium Fragariastrum</i>	370
<i>Septoria potentillica</i>	454
<i>Potentilla supina</i> L.	
<i>Mycosphaerella Fragariae</i>	162
<i>Peronospora Potentillae</i>	50
<i>Phragmidium Potentillae</i>	372
<i>Potentilla</i> sp. (<i>pennsylvanica</i> ?).	
<i>Phragmidium Potentillae</i>	372
<i>Prenanthes Tatarinowii</i> Maxim.	
<i>Puccinia Prenanthes-racemosae</i>	359
<i>Prunus Cerasus</i> Z.	
<i>Alternaria Cerasi</i>	515
<i>Sclerotinia laxa</i>	95
<i>Prunus humilis</i> Bge.	
<i>Taphrina truncicola</i>	87
<i>Prunus mandshurica</i> Koehne.	
<i>Cacoema Makinoi</i>	392
<i>Clasterosporium degenerans</i>	504
<i>Coniothyrium tirolensis</i>	438
<i>Puccinia Pruni-spinosae</i>	328
<i>Sclerotinia laxa</i>	95

<i>Taphrina Mume</i>	85
Prunus Persica S. et Z.	
<i>Rhizopus nigricans</i>	55
<i>Taphrina deformans</i>	84
Prunus tomentosa Thunb.	
× <i>Cynidrosporium Pruni-tomentosae</i>	487
<i>Taphrina Pruni</i>	56
Prunus spp.	
<i>Taphrina Cerasi</i>	87
Prunus triflora Roxb.	
<i>Palystegma rubrum</i>	151
Pteridium aquilinum Kuhn.	
<i>Uredinopsis Pteridis</i>	235
Pueraria hirsuta Matsu.	
<i>Synchytrium Puerariae</i>	17
Quercus mongolica Fischer.	
× <i>Gloeosporium Quercuum</i>	475
<i>Microsphaera Alni</i>	134
Ranunculus japonicus Thunb.	
<i>Ovularia decipiens</i>	492
<i>Ramularia aequivoca</i>	494
<i>Ramularia ranunculi</i>	465
<i>Septoria Ficariae</i>	453
<i>Phoma albo-maculata</i>	427
Rhamnus dahuricus Pall.	
<i>Comothyrium Dumecii</i>	440
<i>Microsphaera Alni</i>	134
<i>Phyllosticta rhamnicola</i>	421
× <i>Puccinia Poae-pratensis</i>	281
Rhododendron dauricum L.	
<i>Chrysomyxa Rhododendri</i>	238
Rhus semialata, Osbeckii DC.	
<i>Mycosphaerella Fushinoki</i>	165
Ricinus communis L.	

<i>Cercosporina ricinella</i>	524
<i>Robinia Pseudo-acacia</i> L.	
<i>Microsphaera Polygoni</i>	135
× <i>Phyllosticta robinella</i>	419
<i>Rosa davurica</i> Pall.	
<i>Gymnoconia Rosae</i>	384
<i>Phragmidium americanum</i>	373
× <i>Phragmidium Rosae-davuricae</i>	374
<i>Sphaerotheca pannosa</i>	119
<i>Rosa rugosa</i> Thunb.	
<i>Phragmidium Rosae-rugosae</i>	376
<i>Sphaerotheca pannosa</i>	119
<i>Rosa spinosissima</i> , <i>mandshurica</i> Yabe.	
<i>Exosporium Rosae</i>	535
<i>Phragmidium Rosae-multiflorae</i>	375
<i>Rosa xanthioides</i> Nakai.	
<i>Coryneum rosaecola</i>	484
<i>Rubia cordifolia</i> L. <i>pratensis</i> Maxim.	
× <i>Phyllosticta Rubiae</i>	424
<i>Pseudopeziza Komarovii</i>	102
<i>Thekopsora Rubiae</i>	234
<i>Rubus crataegifolius</i> Bge.	
<i>Phragmidium Yoshinagai</i>	377
<i>Rubus saxatilis</i> L.	
<i>Gymnoconia interstitialis</i>	383
<i>Rubus triphyllus</i> Thunb.	
<i>Phragmidium pauciloculare</i>	376
<i>Rubus</i> sp.	
<i>Phragmidium Okiana</i>	378
<i>Rumex acetosa</i> L.	
× <i>Phyllosticta rumicicola</i>	413
<i>Ramularia decipiens</i>	494
<i>Rumex aquaticus</i> L.	
× <i>Phyllosticta rumicicola</i>	413
<i>Ustilago Warmingii</i>	195
<i>Rumex crispus</i> Fr. et H.	
× <i>Phyllosticta rumicicola</i>	413

<i>Rumex</i> sp.	
<i>Microsphaera Alni</i>	135
<i>Salix daphnoides</i> Will.	
<i>Uncinula Salicis</i>	126
<i>Salix purpurea</i> L?	
<i>Uncinula Salicis</i>	126
<i>Salix</i> sp. (<i>lasiogyne</i> ?)	
<i>Apiosporium Salicium</i>	142
<i>Cytospora chrysosperma</i>	431
<i>Rhytisma Salicium</i>	106
<i>Sambucus racemosa</i> L.	
<i>Aecidium Sambuci</i>	389
<i>Sanguisorba officinalis</i> L.	
<i>Phragmidium carbonarium</i>	379
<i>Sphaerotheca Humuli</i>	115
<i>Saussurea japonica, pinnatifida</i> Rgl.	
<i>Coleosporium Saussureae</i>	224
<i>Saussurea</i> sp.	
<i>Coleosporium Saussureae</i>	224
<i>Septoria Saussureae</i>	471
<i>Scirpus Tabernaemontani</i> Gmel.	
<i>Puccinia Scirpi</i>	313
<i>Scirpus triqueter</i> L.	
<i>Puccinia obtecta</i>	314
<i>Scorzonera albicaulis</i> Bge.	
<i>Erysiphe Cichoracearum</i>	122
<i>Sedum Aizoon</i> L.	
<i>Aecidium Sedi-Aizoontis</i>	388
<i>Sedum Kamtschaticum</i> Fisch.	
<i>Aecidium Sedi-Aizoontis</i>	388
<i>Senecio argunensis</i> Turcz.	
<i>Coleosporium Senecionis</i>	224
<i>Sesamum indicum</i> L.	
× <i>Ascochyta Sesami</i>	445
<i>Setaria glauca</i> Beauv.	
<i>Phyllachora graminis</i>	153

Ustilago Panici-glauci	191
Setaria italica Beauv.	
Alternaria tenuis	509
Sclerospora graminicola, Setariae-italicae	37
Uromyces Setariae-italicae	246
Ustilago Crameri.....	190
Setaria viridis Beauv.	
Uromyces Setariae-italicae	246
Siegesbeckia orientalis L.	
Sphaerotheca fulginea	116
Silene firma S. et Z.	
Septoria Lychnidis	450
Silene repens Patr.	
Ascochyta Dianthi	443
Ustilago violacea.....	196
Siler divaricatum Benth. et Hook.	
Puccinia Sileris	334
Smilacina japornica A. Gray.	
Macrophoma cruenta.....	428
Solanum Dulcamara L.	
Septoria Dulcamarae	464
Solanum Lycopersicum L.	
Septoria Lycopersici	463
Solanum nigrum L.	
Cercosporina Melongenae	526
Solanum tuberosum L.	
Phytophthora infestans	34
Solidago Virgaurea L.	
Uromyces Solidaginis	273
Sonchus arvensis L. var. uliginosus Bieb.	
Erysiphe Cichoracearum	122
Puccinia Sonchi	347
Septoria sonchina	471
Sorbaria sorbifolia A. Br.	
○ Cercosporiopsis Gotoanus.....	528
Spinacea oleracea L.	
Peronospora effusa	45

Spirogyra inflata Rob.	
<i>Micromyces Spirogyrae</i>	18
<i>Olpidium Spirogyrae</i>	15
Spirogyra sp.	
<i>Olpidium entophyllum</i>	14
Spodiopogon sibiricus Trin.	
<i>Puccinia Miyoshiana</i>	303
<i>Phyllachora graminis</i>	153
Staphyllea Bumalda S. et Z.	
× <i>Aecidium Staphylleae</i>	388
× <i>Mycosphaerella Staphylleae</i>	165
Staurois Phaenicenteron Ehr.	
<i>Lagenidium enecans</i>	21
Statice bicolor Bge.	
<i>Uromyces Limonii</i>	271
Stellaria aquatica Scop.	
<i>Isariopsis albo-rosella</i>	534
Stellaria sp	
<i>Septoria paraphysoides</i>	451
Streptopus ajanensis, koreana Kom.	
× <i>Septoria Streptopii</i>	446
Taraxacum officinale L.	
<i>Puccinia Taraxaci</i>	360
○ <i>Septoria taraxacicola</i>	472
<i>Sphaerotheca fuliginea</i>	116
Thalictrum aquilegifolium .	
<i>Puccinia persistens</i>	295
Thalictrum minus L.	
<i>Puccinia triticina</i>	292
Thalictrum simplex L.	
<i>Puccinia persistens</i>	295
Tilia amurensis Kom.	
<i>Phyllosticta Vogelii</i>	422
<i>Pucciniastrum Tiliae</i>	233
Trisetum flavescens Beauv.	
<i>Puccinia Triseti</i>	292

Triticum sativum L.	
Erysiphe graminis	124
Helminthosporium gramineum	505
Puccinia glumarum	288
Puccinia graminis	296
Puccinia triticea.....	292
Tilletia caries	205
Ustilago Tritici	189
Trollius chinensis Bge.	
Septoria Trolli.....	454
Ulmus campestris, leavis.	
Dothidella Ulmi	155
Septoria Ulmi	447
Septoria Yokokawai	448
Ulmus japonica Sargent.	
Phyllosticta ulmicola	411
Ulmus pumula L.	
Apiosporium Salicinum.....	142
Melasmia ulmicola	474
Phyllosticta ulmicola.....	411
Septoria Ulmi	447
Uncinula clandestina.....	128
Urtica dioica, angustifolia Ledeb.	
Puccinia Caricis	306
Valeriana officinalis.	
Uromyces Valerianae.....	272
Vancheria sessilis D.C.	
Aphanomyces Gordejevi	25
Vancheria uncinata Kütz.	
Aphanomyces Gordejevi	25
Veratrum nigrum L.	
Uromyces Veratri	249
Vicia amaena Fisch.	
Cylindrosporium Vicii	486
Microsphaera Pelygoni	135

<i>Septoria Viciae</i>	456
Vicia Fabae L.	
<i>Uromyces Fabae</i>	257
Vicia unijuga A. Br.	
<i>Microsphaera Polygoni</i>	135
<i>Uromyces Orobi</i>	255
Vigna sinensis Endl.	
× <i>Uromyces Vignae-sinensis</i>	268
Viola hirta L. var. collina Regel.	
<i>Puccinia Violae</i>	330
Viola chinensis, subsagittata Nakai.	
× <i>Septoria harbinensis</i>	459
<i>Septoria Violae</i>	458
Viola sylvestris Kit.	
<i>Ramularia Violae</i>	465
Viscum album L.	
<i>Sphaeropsis Visci</i>	436
Vitis amurensis Rupr.	
○ <i>Cercosporiopsis Vitis</i>	531
<i>Plasmopara viticola</i>	39
<i>Uncinula necator</i>	103
Vitis vinifera L.	
<i>Cercosporiopsis Vitis</i>	531
× <i>Coniothyrium vitivora</i>	441
<i>Gloeosporium ampelophagum</i>	476
<i>Guignardia Bidwellii</i>	158
<i>Plasmopara viticola</i>	39
Waldsteinia sibirica Trautt.	
<i>Puccinia Waldsteiniae</i>	329
Zea Mayds L.	
<i>Pythium de Baryanum</i>	27
<i>Sorosporium Reilianum</i>	201
<i>Ustilago Zeae</i>	192
Zoysia pungens Willd.	
<i>Puccinia Zoysiae</i>	303

昭和三年十一月二十五日印刷
昭和三年十一月二十八日發行

滿蒙植物誌

第三輯 隱花植物、菌類

産業資料 共二十七

南滿洲鐵道株式會社興業部農務課
監
行 松 島

大連市東公園町二十一番地
印刷人 吾 妻 力 松

大連市東公園町二十一番地
印刷所 滿洲日報社印刷所

發行所 南滿洲鐵道株式會社
興業部農務課

